AQUOS PHONE *ZETA*
SH-02E

取扱説明書　'12.11

docomo NEXT series

はじめに

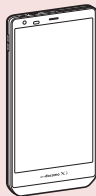
「SH-02E」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用の前やご利用中に、本書をお読みいただき、正しくお使いください。

操作方法を確認する

クイックスタートガイド（本体付属品）	基本的な機能の操作について説明しています。
取扱説明書（本端末のアプリケーション）	機能の詳しい案内や操作について説明しています。 ホーム画面で[▦]▶[取扱説明書] ヘルプの表示：[☰]▶[ヘルプ] ※アンインストールした場合は、Google Play™からダウンロードできます。 ホーム画面で[▦]▶[Playストア]▶[🔍]▶キーワード入力欄に「取扱説明書」と入力▶[🔍]▶[SH-02E　取扱説明書]からインストールしてください。
取扱説明書（PDFファイル）	機能の詳しい案内や操作について説明しています。 ドコモのホームページでダウンロード http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html ※URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

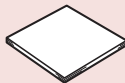
- 本書に記載している画面やイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書はホームアプリがdocomo Palette UIの場合で説明しています。ホームアプリを変更すると、操作手順などが本書の説明と異なる場合があります。
- 本書の本文中においては、「SH-02E」を「本端末」または「端末」と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。
- 本書ではmicroSDカード、microSDHCカード、microSDXCカードを、「microSDカード」または「microSD」と記載しています。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。

本体付属品

SH-02E本体（保証書付き）

microSDカード（2Gバイト）（試供品）
（取扱説明書付き）

- お買い上げ時には、あらかじめ本端末に取り付けられています。

タッチペン（試供品）（取扱説明書付き）

クイックスタートガイド

卓上ホルダ SH41

- オプション品については☞P.171

目次

ご使用前の確認と設定

docomo Palette UI

電話

メール/ブラウザ

本体設定

ファイル管理

アプリケーション

海外利用

付録／索引

本端末のご利用について

- 本端末はLTE・W-CDMA・GSM／GPRS・無線LAN方式に対応しています。
- 本端末は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かないところ、屋外でも電波の弱いところ、XiサービスエリアおよびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしの良い場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが４本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 本端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、LTE・W-CDMA・GSM／GPRS方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞き取れません。
- 本端末は音声をデジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪いところへ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元できない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様ご自身で本端末に登録された情報内容（電話帳、カレンダー、メモ、音声・伝言メモなど）は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。本端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本端末はパソコンなどと同様に、お客様がインストールを行うアプリケーションなどによっては、お客様の端末の動作が不安定になったり、お客様の位置情報や本端末に登録された個人情報などがインターネットを経由して外部に発信され不正に利用される可能性があります。このため、ご利用されるアプリケーションなどの提供元および動作状況について十分にご確認の上ご利用ください。
- 本端末は、Xiエリア、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。
- 大切なデータはmicroSDカードに保存することをおすすめします。
- microSDカードや端末の容量がいっぱいに近い状態のとき、起動中のアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。そのときは保存されているデータを削除してください。
- 本端末はｉモード機能（ｉモードのサイト（番組）への接続、ｉアプリなど）には対応しておりません。
- mopera U、ビジネスmoperaインターネット（URL制限）およびspモード以外のプロバイダはサポートしておりません。
- お客様の電話番号（自局番号）は、ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[プロフィール]で確認できます。
- 公共モード（ドライブモード）には対応しておりません。
- 本端末では、マナーモードに設定中でも、着信音、操作音、各種通知音以外の動作音声（カメラのシャッター音など）は消音されません。

- 本端末は、データの同期や最新のソフトウェアバージョンをチェックするための通信、サーバーとの接続を維持するための通信など一部自動的に通信を行う仕様となっています。また、アプリケーションのダウンロードや動画の視聴などデータ量の大きい通信を行うと、パケット通信料が高額になりますので、パケット定額サービスのご利用を強くおすすめします。
- お客様がご利用のアプリケーションやサービスによっては、Wi-Fi接続中であってもパケット通信料が発生する場合があります。
- 本端末のソフトウェアを最新の状態に更新することができます（☞P.180）。
- ご利用の端末のソフトウェアバージョンについては☞P.108
- 本端末は、OSのバージョンアップにより機能が追加されたり、機能の操作方法が変更になったりすることがあります。この追加・変更に関する内容の最新情報は、ドコモのホームページにてご確認ください。
- OSをバージョンアップすると、古いOSバージョンで使用していたアプリケーションが使えなくなる場合や、意図しない不具合が発生する場合があります。
- 紛失に備え、画面のロックを設定し端末のセキュリティを確保してください（☞P.99）。
- 万が一紛失した場合は、Google トーク™、Gmail、Google PlayなどのGoogleサービスや、Twitter、mixiなどのサービスを他の人に利用されないように、パソコンより各種アカウントのパスワードを変更してください。
- Googleアプリケーションおよびサービス内容は、将来予告なく変更される場合があります。
- Googleが提供するサービスについては、Google Inc.の利用規約をお読みください。またその他のウェブサービスについては、それぞれの利用規約をお読みください。
- Wi-Fiテザリングのご利用には、spモードのご契約が必要となります。
- ご利用の料金プランにより、Wi-Fiテザリングご利用時のパケット通信料が異なります。パケット定額サービスのご利用を強くおすすめします。
- モバキャスは通信と連携したサービスであるため、サービスのご利用にはパケット通信料が発生します。パケット定額サービスの加入をおすすめします。
- ご利用時の料金など詳細については、次のサイトをご覧ください。
  http://www.nttdocomo.co.jp/
- ディスプレイは、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、一部に点灯しないドット（点）や常時点灯するドット（点）が存在する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。
- 本端末の電池は内蔵されており、お客様ご自身では交換できません。

安全上のご注意(必ずお守りください)

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
  また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

表示	内容
⚠危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合および物的損害の発生が想定される」内容です。

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

絵表示	内容
禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。

絵表示	内容
指示	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

「安全上のご注意」は、下記の6項目に分けて説明しています。

本端末・アダプタ・卓上ホルダ・ドコモminiUIMカードの取り扱いについて(共通)

⚠危険

禁止

高温になる場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。

火災、やけど、けがの原因となります。

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

水濡れ禁止

水や飲料水、ペットの尿などで濡らさないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

防水性能については下記をご参照ください。

☞P.21「防水/防塵性能」

指示

本端末に使用するアダプタは、NTTドコモが指定したものを使用してください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

⚠警告

禁止

強い力や衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子、イヤホンマイク端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させないでください。また、内部に入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。

火災、やけどの原因となります。

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。

ガスに引火する恐れがあります。
ガソリンスタンド構内などでおサイフケータイをご使用になる際は必ず事前に電源を切った状態で使用してください（NFC／おサイフケータイ ロックを設定されている場合にはロックを解除した上で電源をお切りください）。

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。

- 電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く。
- 本端末の電源を切る。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

⚠注意

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。

落下して、けがの原因となります。

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。

けがなどの原因となります。

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

本端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。

充電しながらワンセグ視聴などを長時間行うと本端末やアダプタの温度が高くなることがあります。
温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となったりする恐れがあります。

本端末の取り扱いについて

本端末の内蔵電池の種類は次のとおりです。

表　示	電池の種類
Li-ion00	リチウムイオンポリマー電池

⚠危険

火の中に投下しないでください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

内蔵電池内部の液体などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

失明の原因となります。

⚠警告

禁止

赤外線ポートを目に向けて送信しないでください。

目に悪影響を及ぼす原因となります。

禁止

赤外線通信使用時に、赤外線ポートを赤外線装置のついた家電製品などに向けて操作しないでください。

赤外線装置の誤動作により、事故の原因となります。

禁止

モバイルライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。特に、乳幼児を撮影するときは、1 m以上離れてください。

視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。

禁止

本端末内のドコモminiUIMカードやmicroSDカード挿入口に水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

自動車などの運転者に向けてライトを点灯しないでください。

運転の妨げとなり、事故の原因となります。

指示

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、本端末の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。

医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。

航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられます。

ただし、電波を出さない設定にすることなどで、機内で本端末が使用できる場合には、航空会社の指示に従ってご使用ください。

指示

ハンズフリーに設定して通話する際や、着信音が鳴っているときなどは、必ず本端末を耳から離してください。

また、イヤホンマイクなどを本端末に装着し、ゲームや音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。

音量が大きすぎると難聴の原因となります。

また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。

Earphone Signal Level

The maximum output voltage for the music player function, measured in accordance with EN 50332-2, is 14 mV.

指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ(振動)や着信音量の設定に注意してください。

心臓に悪影響を及ぼす原因となります。

指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。

指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本端末の電源を切ってください。
電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。
ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

指示

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出した本端末の内部にご注意ください。
ディスプレイ部の表面には保護フィルム、カメラのレンズの表面にはプラスチックパネルを使用し、ガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

指示

内蔵電池が漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。
漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

⚠注意

禁止

アンテナなどを持って本端末を振り回さないでください。
本人や他の人に当たり、けがなどの事故の原因となります。

禁止

本端末が破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

モーションセンサーや地磁気センサーのご使用にあたっては、必ず周囲の安全を確認し、本端末をしっかりと握り、必要以上に振り回さないでください。
けがなどの事故の原因となります。

禁止

誤ってディスプレイを破損し、液晶が漏れた場合には、顔や手などの皮膚につけないでください。
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液晶が目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。
また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸で水洗いしてください。

禁止

ディスプレイの表面には、落下や衝撃などにより破損した場合の安全性確保(強化ガラスパネルの飛散防止)を目的とする保護フィルムがあります。このフィルムは無理にはがしたり、傷つけたりしないでください。
フィルムをはがして使用した場合、ディスプレイが破損したときに、けがの原因となることがあります。

禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。
発火、環境破壊の原因となります。不要となった本端末は、ドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

指示

自動車内で使用する場合、自動車メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。

指示

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。
各箇所の材質について☞P.14「材質一覧」

指示

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、画面からある程度の距離をとってご使用ください。
視力低下の原因となります。

指示

内蔵電池内部の液体などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚につけないでください。
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液体などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。
また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診断を受けてください。

アダプタ・卓上ホルダの取り扱いについて

⚠警告

禁止

アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

ACアダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

コンセントやシガーライターソケットにつないだ状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

アダプタのコードの上に重いものをのせないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

濡れ手禁止

濡れた手でアダプタのコード、卓上ホルダ、コンセントに触れないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示

指定の電源、電圧で使用してください。また、海外で充電する場合は、海外で使用可能なACアダプタで充電してください。
誤った電圧で使用すると火災、やけど、感電の原因となります。
ACアダプタ：AC100V
DCアダプタ：DC12V・24V（マイナスアース車専用）
海外で使用可能なACアダプタ：AC100V～240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）

指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。
火災、やけど、感電の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示

電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く場合は、アダプタのコードを無理に引っ張らず、アダプタを持って抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントやシガーライターソケットから電源プラグを抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いて行ってください。
火災、やけど、感電の原因となります。

ドコモminiUIMカードの取り扱いについて

⚠注意

指示

ドコモminiUIMカードを取り外す際は切断面にご注意ください。
けがの原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

警告

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本端末は15cm以上離して携行および使用してください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

身動きが自由に取れないなど、周囲の方と15cm未満に近づく恐れがある場合には、事前に本端末を電波の出ない状態に切り替えてください（機内モードまたは電源オフなど）。

付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着している方がいる可能性があります。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

医療機関内における本端末の使用については、各医療機関の指示に従ってください。

材質一覧

端末

使用箇所	材質／表面処理
ディスプレイ面	強化ガラス／表面飛散防止シート付き
ディスプレイ面の周囲	PA樹脂／表面UV塗装、不連続蒸着
外部接続端子	SUS／Snメッキ、銅合金／金メッキ
外部接続端子カバー	PC樹脂／表面UV塗装、不連続蒸着
外部接続端子カバーのパッキン	シリコン
ドコモminiUIMカードスロット	金メッキ
microSDカードスロット	SUS／Niメッキ
ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー	PC樹脂／表面UV塗装、不連続蒸着
ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーのパッキン	シリコン
イヤホンマイク端子	銅合金／金メッキ
イヤホンマイク端子の周囲	PA樹脂
電源キー	PC樹脂／表面UV塗装
サイドキー	PC樹脂／表面UV塗装
カメラパネル	アクリル樹脂／裏面印刷
カメラ飾り	アルミニウム／表面アルマイト処理
赤外線ポートパネル	アクリル樹脂／裏面印刷
モバイルライト	ABS樹脂
充電端子	SUS／金メッキ
充電端子の周囲	ABS樹脂
モバキャス／ワンセグアンテナ	SUS／表面焼き付け塗装
モバキャス／ワンセグアンテナの金属部	SUS
モバキャス／ワンセグアンテナの留具	SUS／無電解Niメッキ
ディスプレイ面の裏側	PA樹脂
スピーカー部	メッシュ／ポリエステル
スピーカー部の周囲	ポロン
キャビ防水シート	PET／裏面印刷
アンテナ	Niメッキ／表面UV塗装
ネジ	鋼／Niメッキ
アウトマイククッション	ポロン

リアカバー

使用箇所	材質／表面処理
リアカバー本体	PET、PC樹脂／表面PET、裏面印刷

卓上ホルダ

使用箇所	材質／表面処理
本体上ケース	ABS
本体下ケース	ABS、PLA
ツメ	POM
スイッチ	POM

使用箇所	材質／表面処理
充電端子	金メッキ、封孔処理
接続端子の金属部	ステンレス鋼
ネジ	SWCH
ストッパー	ポロン

取り扱い上のご注意

共通のお願い

- **SH-02Eは防水／防塵性能を有しておりますが、本端末内部に水や粉塵を侵入させたり、付属品、オプション品に水や粉塵を付着させたりしないでください。**
  アダプタ、卓上ホルダ、ドコモminiUIMカードは防水／防塵性能を有しておりません。風呂場などの湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- **お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
  - 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
  - ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
  - アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- **端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。**
  端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
  また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- **エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。**
  急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- **本端末などに無理な力がかからないように使用してください。**
  多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板などの破損、故障の原因となります。
  また、外部接続機器を外部接続端子やイヤホンマイク端子に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。
- **ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。**
  傷つくことがあり故障、破損の原因となります。
- **オプション品に添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。**

本端末についてのお願い

- タッチパネルの表面を強く押したり、爪やボールペン、ピンなど先の尖ったもので操作したりしないでください。
  タッチパネルが破損する原因となります。
- 極端な高温、低温は避けてください。
  温度は5℃～40℃(ただし、36℃以上は一時的な使用に限る)、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。
- 一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。
- お客様ご自身で本端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  故障、破損の原因となります。
- 外部接続端子やイヤホンマイク端子に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。
  故障、破損の原因となります。
- 使用中、充電中、本端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。
  素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- 通常は外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード/microSDカードスロットカバーを閉じた状態でご使用ください。
  ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- リアカバーを外したまま使用しないでください。
  故障、破損の原因となります。
- microSDカードの使用中は、microSDカードを取り外したり、本端末の電源を切ったりしないでください。
  データの消失、故障の原因となります。
- 磁気カードなどを本端末に近づけないでください。
  キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。
- 本端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。
  強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。
- 本端末には、正規の内蔵電池を使用しているかを認証する機能が搭載されています。お客様ご自身で内蔵電池を交換しないでください。
- 正規の内蔵電池以外を使用した場合、充電することはできません。
- 正規の内蔵電池以外を使用したことによる事故・故障が発生しましても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 内蔵電池は消耗品です。
  使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは内蔵電池の交換時期です。内蔵電池の交換につきましては、裏表紙の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。
- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 内蔵電池の使用時間は、使用環境や内蔵電池の劣化度により異なります。

- 本端末を保管される場合は、次の点にご注意ください。
  - ■ フル充電状態(充電完了後すぐの状態)での保管
  - ■ 電池残量なしの状態(本体の電源が入らない程消費している状態)での保管

  内蔵電池の性能や寿命を低下させる原因となります。
  保管に適した電池残量は、目安として電池残量が40パーセント程度の状態をお勧めします。
- 端末の表面にアルミ材を使用しております。アルミは柔らかい素材のため、打痕・擦り傷が残りやすくなっておりますので、ご注意ください。

アダプタについてのお願い

- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 次のような場所では、充電しないでください。
  - ■ 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - ■ 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- 充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。
  自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。
- 強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。
  故障の原因となります。

ドコモminiUIMカードについてのお願い

- ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。
- 他のＩＣカードリーダー／ライターなどにドコモminiUIMカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。
- ＩＣ部分はいつもきれいな状態でご使用ください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。
- お客様ご自身で、ドコモminiUIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 環境保全のため、不要になったドコモminiUIMカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。
- ＩＣを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。
  データの消失、故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
  故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードにラベルやシールなどを貼った状態で、本端末に取り付けないでください。
  故障の原因となります。

Bluetooth機能を使用する場合のお願い

- 本端末は、Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を使用した通信を行う際にはご注意ください。
- Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 周波数帯について
  本端末のBluetooth機能が使用する周波数帯は次のとおりです。

① 2.4：2.4GHz帯を使用する無線設備を表します。
② FH：変調方式がFH-SS方式であることを示します。
③ 1：想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。
④ XX：変調方式がその他の方式であることを示します。
⑤ 4：想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
⑥ ：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

- Bluetooth機器使用上の注意事項
  本端末の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

  1. 本端末を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
  2. 万が一、本端末と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
  3. その他、ご不明な点につきましては、裏表紙の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

無線LAN(WLAN)についてのお願い

- 無線LAN(WLAN)は、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。
- 無線LANについて
  電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります(特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります)。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 周波数帯について
  WLAN搭載機器が使用する周波数帯は、ディスプレイ面の裏側に記載されています。ラベルの見かたは次のとおりです。

① 2.4:2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
② DS:変調方式がDS-SS方式であることを示します。
③ OF:変調方式がOFDM方式であることを示します。
④ 4:想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
⑤ ▬▬▬ ▬▬▬ ▬▬▬ :2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

本端末の無線LANで設定できるチャネルは1～13です。これ以外のチャネルのアクセスポイントには接続できませんので、ご注意ください。
利用可能なチャネルは国により異なります。
航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

- 2.4GHz機器使用上の注意事項
  WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

  1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
  2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいた上で、裏表紙の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせいただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
  3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、裏表紙の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

- 5 GHz機器使用上の注意事項
  5 GHzの周波数帯においては、5.2GHz／5.3GHz／5.6GHz帯（W52／W53／W56）の３種類の帯域を使用することができます。
  - W52（5.2GHz帯／36、38、40、44、46、48ch）
  - W53（5.3GHz帯／52、54、56、60、62、64ch）
  - W56（5.6GHz帯／100、102、104、108、110、112、116、118、120、124、126、128、132、134、136、140ch）

  5.2GHz／5.3GHz帯無線LAN（W52／W53）の屋外使用は電波法で禁止されています。

FeliCaリーダー／ライターについて

- 本端末のFeliCa リーダー／ライター機能は、無線局の免許を要しない微弱電波を使用しています。
- 使用周波数は13.56MHz帯です。周囲で他のリーダー／ライターをご使用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を使用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。

FMトランスミッタについて

- 本端末のFMトランスミッタ機能は、無線局の免許を要しない微弱電波を使用しています。
- 使用周波数は77.4～85.0MHz帯です。ご使用の際は、周囲のFMラジオ使用者への影響を避けるため、ご使用の地域のFM放送局と重ならない周波数に設定してください。

注意

- **改造された本端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法／電気通信事業法に抵触します。**
  本端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明および電気通信事業法に基づく端末機器の技術基準適合認定を受けており、その証として「技適マーク〒」が本端末の銘版シールに表示されております。本端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法および電気通信事業法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- **自動車などを運転中の使用にはご注意ください。**
  運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。
  ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合は対象外となります。
- **FeliCa リーダー／ライター機能は日本国内で使用してください。**
  本端末のFeliCa リーダー／ライター機能は日本国内での無線規格に準拠しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。
- **FMトランスミッタは日本国内で使用してください。**
  本端末のFMトランスミッタは日本国内での無線規格に準拠し認定を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。
- **基本ソフトウェアを不正に変更しないでください。**
  ソフトウェアの改造とみなし故障修理をお断りする場合があります。
- **本端末をmicroUSB接続ケーブル 01（別売）でパソコンと接続する場合や、市販のMHL™ケーブルでHDMI端子付きテレビと接続する場合は使用を禁止された区域などでは行わないようご注意ください。**
  自動的に電源が入る場合があります。

防水／防塵性能

SH-02Eは、外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーをしっかりと閉じ、リアカバーを取り付けた状態でIPX5※1、IPX7※2の防水性能、IP5X※3の防塵性能を有しています。

※1　IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約３mの距離から12.5リットル/分の水を最低３分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を有することを意味します。

※2　IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深１mのところにSH-02Eを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに電話機としての機能を有することを意味します。

※3　IP5Xとは、保護度合いを指し、直径75μm以下の塵埃（じんあい）が入った装置に電話機を８時間入れてかくはんさせ、取り出したときに電話機の機能を有し、かつ安全を維持することを意味します。

SH-02Eが有する防水／防塵性能でできること

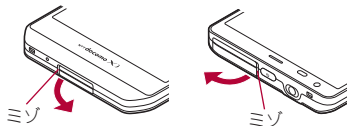
- 雨の中で傘をささずに通話ができます（1時間の雨量が20mm程度）。
- 汚れを洗い流すことができます。洗うときは、やや弱めの水流（6リットル/分以下、常温（5℃～35℃）の水道水）で蛇口やシャワーから約10cm離して洗います。リアカバーを取り付けた状態で、外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。洗ったあとは、水抜きをしてから使用してください（☞P.25）。
- プールサイドで使用できます。ただし、プールの水をかけたり、プールの水に浸けたりしないでください。

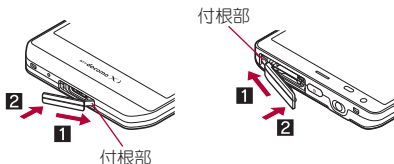
ご利用にあたって

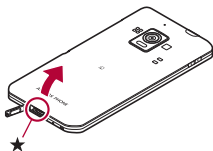
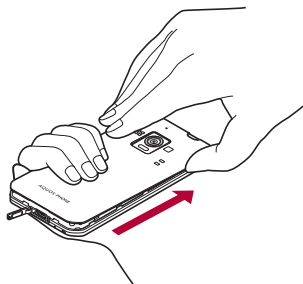
防水／防塵性能を維持するために、必ず次の点を確認してください。

- 外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー、リアカバーをしっかりと閉じてください。開閉するときは、ゴムパッキンに無理な力を加えないように注意してください。
- 外部接続端子カバーやドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー、リアカバーが浮いていないように完全に閉じたことを確認してください。
- 防水／防塵性能を維持するため、外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー、リアカバーはしっかり閉じる構造となっております。無理に開けようとすると爪や指などを傷つける可能性がありますので、ご注意ください。
- イヤホンマイク端子の中に埃が入った場合は、綿棒などで取り除いてご使用ください。

外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーの開きかた

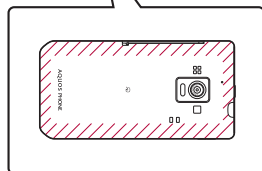
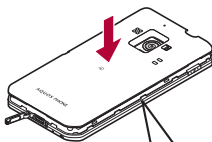
ミゾに指先をかけて、開けてください。

外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーの閉じかた

外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーの付根部を収納し（1）、端末とカバーにすき間が生じないように合わせ、矢印の方向に押して閉じてください（2）。

リアカバーの取り外しかた

1 外部接続端子カバーを開いて端末を両手でしっかりと持ち、★の部分に指先をかけて少し開ける

2 指先を端末の上部までスライドさせてツメを外す

3 上方向に取り外す

リアカバーの取り付けかた

1 リアカバーの向きを確認して端末に合わせるように装着し、リアカバーの周囲（斜線部）をしっかりと押して取り付ける

- リアカバーと端末にすき間がないことを確認してください。

- リアカバー取り付け後は、外部接続端子カバーを閉じてご使用ください。

- リアカバーを外したまま使用しないでください。
- リアカバーはしっかりと閉めてください。不十分だとリアカバーが外れ、防水／防塵性能が損なわれ、水や粉塵が侵入する原因となります。
- リアカバーは無理に取り付けようとしたり、取り外そうとしたりすると破損するおそれがあります。無理な力を加えないようにしてください。

- 防水／防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず2年に1回、部品の交換をおすすめします。部品の交換は端末をお預かりして有料にて承ります。ドコモ指定の故障取扱窓口にお持ちください。

注意事項

- 手が濡れているときや端末に水滴がついているときには、リアカバーの取り付け／取り外し、外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーの開閉はしないでください。
- 外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー、リアカバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）が挟まると、水や粉塵が侵入する原因となります。
- 外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバー、リアカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、ドコモ指定の故障取扱窓口へご連絡ください。
- 外部接続端子カバーまたはドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーと本体の接触面のゴムパッキンは防水／防塵性能を維持する上で重要な役割を担っています。はがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
  ゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、ドコモ指定の故障取扱窓口にてお取り替えください。
- 外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーのすき間に、先の尖ったものを差し込まないでください。ゴムパッキンが傷つき、水や粉塵が侵入する原因となります。
- リアカバーが破損した場合は破損箇所から内部に水が入り、感電や電池の腐食などの故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、裏表紙の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。
- 水中で端末を使用（キー操作を含む）しないでください。故障の原因となります。
- 規定（☞P.21）以上の強い水流（6リットル/分を超える）を直接当てないでください。SH-02EはIPX5の防水性能を有しておりますが、故障の原因となります。
- 常温（5℃～35℃）の水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。
- 洗濯機などで洗わないでください。
- 結露防止のため、寒い場所から暖かい場所へ移動するときは端末が常温になってから持ち込んでください。
- 温泉やせっけん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対に浸けないでください。
- 熱湯に浸けたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 海水には浸けないでください。
- 砂／泥の上に直接置かないでください。
- 濡れたまま放置しないでください。寒冷地で凍結するなど、故障の原因となります。
- 端末は水に浮きません。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水／防塵性能の劣化を招くことがあります。

- 送話口／マイク、スピーカー、アウトマイク、イヤホンマイク端子に水滴を残さないでください。通話不良となるおそれがあります。
- 送話口／マイク、スピーカー、アウトマイク、イヤホンマイク端子などを尖ったものでつつかないでください。
- 端末が水に濡れた状態でイヤホンマイクを挿さないでください。故障の原因になります。
- 付属品、オプション品は防水／防塵性能を有しておりません。付属の卓上ホルダに端末を置いた状態の場合、ACアダプタ（別売）を接続していない状態でも、風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。

せっけん／洗剤／入浴剤

海水

プール

温泉

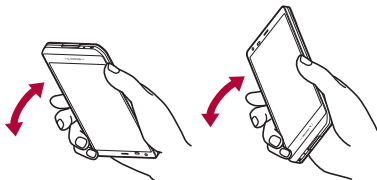
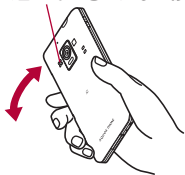
砂／泥

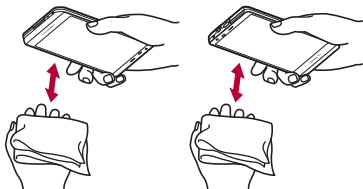
- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

水に濡れたときの水抜きについて

端末を水に濡らした場合、拭き取れなかった水があとから漏れてくる場合がありますので、次の手順で水抜きを行ってください。

1 端末表面の水分を乾いた清潔な布などでよく拭き取る

2 端末をしっかりと持ち、20回程度水滴が飛ばなくなるまで振る

3 送話口／マイク、スピーカー、アウトマイク、キー、イヤホンマイク端子などのすき間に溜まった水は、乾いた清潔な布などに端末を軽く押し当てて拭き取る

- 各部の穴に水が溜まっていることがありますので、開口部に布を当て、軽くたたいて水を出してください。

4 端末から出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取る

- 水を拭き取ったあとに本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。

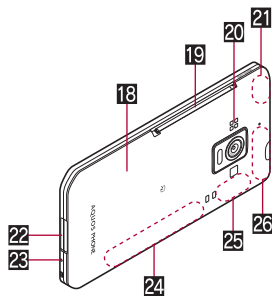
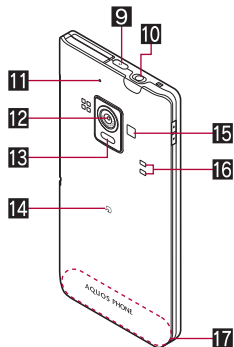
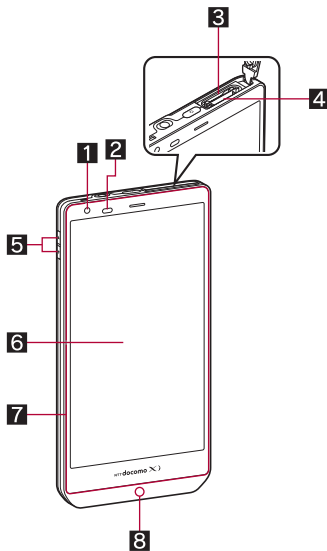
充電のとき

付属品、オプション品は防水／防塵性能を有していません。充電時、および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 端末が濡れていないか確認してください。濡れている場合や水に濡れたあとは、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで拭き取ってから、卓上ホルダに差し込んだり、外部接続端子カバー、ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを開いたりしてください。
- 外部接続端子カバーを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとカバーを閉じてください。外部接続端子からの水や粉塵の侵入を防ぐため、卓上ホルダを使用して充電することをおすすめします。

- 端末が濡れている状態では絶対に充電しないでください。
- 濡れた手でACアダプタ、卓上ホルダに触れないでください。感電の原因となります。
- ACアダプタ、卓上ホルダは、水のかからない状態で使用してください。風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りで使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ご使用前の確認と設定

各部の名称と機能

タッチペン(試供品)のご利用について

指を使ってできる基本的な操作はタッチペンを使っても行うことができます。

- タッチペンを過度に傾けて使用すると動作の認識ができないことがあります。
- 使用するアプリケーションによってはうまく動作しないことがあります。
- タッチペンを使用しないときはイヤホンマイク端子にペン先を挿しておくことができます。

1 インカメラ

2 近接センサー／明るさセンサー※1

- 近接センサーは、通話中に顔の接近を感知して、タッチパネルの誤動作を防ぎます。
- 明るさセンサーは、周りの明るさを検知して、バックライトの明るさを調整します。

3 ドコモminiUIMカードスロット

4 microSDカードスロット

5 ⬆／⬇：音量UP／DOWNキー

- 各種機能で音量を調節します。

6 ディスプレイ／タッチパネル

7 ダイレクトウェーブレシーバー

- 相手の声や、伝言メモ／音声メモの再生音がここから聞こえます。

8 着信／充電ランプ

9 ⏻：電源キー

- 電源を入れる／切るときなどに利用します。
- スリープモードの設定／解除に利用します。

10 イヤホンマイク端子

11 アウトマイク

- 動画撮影時のステレオマイクとして利用します。
- くっきりトーク利用時に、ノイズの低減や相手の声を強調するため周囲のノイズを測定します。

12 アウトカメラ

13 赤外線ポート

14 FeliCaマーク

- ＩＣカードが搭載されています(取り外しはできません)。

15 モバイルライト

16 充電端子

- 付属の卓上ホルダで充電するための端子です。

17 FOMA／Xiアンテナ※2

18 リアカバー

19 モバキャス／ワンセグアンテナ

20 スピーカー

- 着信音や音楽などがここから聞こえます。
- ハンズフリー通話中は相手の声がここから聞こえます。

21 GPSアンテナ※2

22 外部接続端子

23 送話口／マイク

24 FMトランスミッタアンテナ※2

25 Wi-Fi／Bluetoothアンテナ※2

26 FOMA／Xiサブアンテナ※2

※1 センサー部分を手で覆ったり、シールなどを貼らないでください。センサーが正常に動作しないことがあります。

※2 アンテナは本体に内蔵されています。アンテナ付近を手で覆うと品質に影響をおよぼす場合があります。

ダイレクトウェーブレシーバーについて

- ディスプレイ側全体が大きな受話口となっているため、耳を当てる位置を気にすることなく音声を聞き取ることができます。
- ダイレクトウェーブレシーバーに保護シートなどを貼ると、音声が聞き取りにくくなることがあります。

イヤホンマイク端子について

- 対応するイヤホンマイクについては次のサイトをご覧ください。
http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-02e/peripherals.html#!/earphone_support

アウトマイクについて

- アウトマイクを利用する機能を使用する場合は、アウトマイクの穴を塞がないようにしてください。

ドコモminiUIMカード

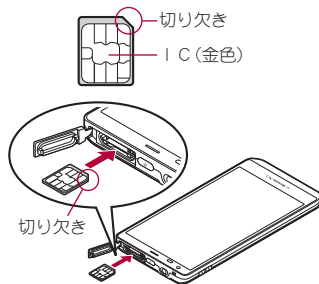
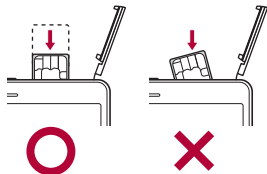
ドコモminiUIMカードは、お客様の電話番号などの情報が記憶されているＩＣカードです。

- ドコモminiUIMカードを取り付けないと、電話、パケット通信などの機能を利用できません。
- ドコモminiUIMカードは、対応端末以外ではご利用いただけないほか、ドコモUIMカードからのご変更の場合は、ご利用のサイトやデータなどの一部がご利用いただけなくなる場合があります。
- 日本国内では、ドコモminiUIMカードを取り付けないと緊急通報番号（110番、119番、118番）に発信できません。
- 本端末では、ドコモminiUIMカードのみご利用できます。ドコモUIMカード、FOMAカードをお持ちの場合には、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。
- ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外しは、電源を切ってから行ってください。端末は、両手でしっかり持ってください。

取り付けかた

1 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを開く（☞P.22）

2 ドコモminiUIMカードのＩＣ（金色）面を上に向けて、ドコモminiUIMカードスロットにゆっくりと挿入する

- 「カチッ」と音がするまで、ゆっくり指で押し込んでください。

- ドコモminiUIMカードが傾いた状態や、表裏が逆の状態で無理に押し込まないでください。ドコモminiUIMカードスロットが破損することがあります。

3 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを閉じる（☞P.22）

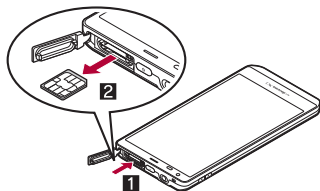
取り外しかた

1 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを開く（☞P.22）

2 ドコモminiUIMカードを軽く押し込む（1）

- 「カチッ」と音がするまで押し込んでください。ドコモminiUIMカードが手前に飛び出します。

3 ドコモminiUIMカードを取り外す（2）

- ゆっくりとまっすぐに取り外してください。ドコモminiUIMカードを落とさないようにご注意ください。

4 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを閉じる（☞P.22）

- 無理に取り付けようとしたり、取り外そうとするとドコモminiUIMカードが破損するおそれがありますので、ご注意ください。
- ドコモminiUIMカードの詳しい取り扱いについては、ドコモminiUIMカードの取扱説明書を参照してください。
- 取り外したドコモminiUIMカードは、なくさないようにご注意ください。

microSDカード

端末内のデータをmicroSDカードに保存したり、microSDカード内のデータを端末に取り込んだりすることができます。

- SH-02Eでは市販の２Gバイトまでのmicro SDカード、32GバイトまでのmicroSDHCカード、64GバイトまでのmicroSDXCカードに対応しています（2012年11月現在）。microSDカードの製造メーカや容量など、最新の動作確認情報については、次のサイトをご覧ください。
http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-02e/peripherals.html#!/microsd_support

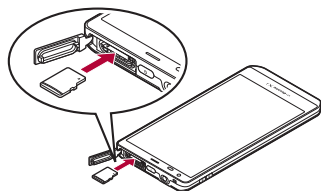
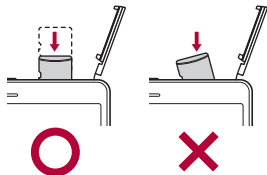
掲載されているmicroSDカード以外については、microSDカードの製造メーカへお問い合わせください。
なお、掲載されている情報は動作確認の結果であり、すべての動作を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

- 利用できるファイルのサイズは、1ファイル2Gバイトまでです。
- 端末にmicroSDカードを挿入した直後（端末で使用するための情報を書き込み中）や、microSDカード内のデータ編集中に電源を切らないでください。データが壊れることや正常に動作しなくなることがあります。
- 初期化されていないmicroSDカードを使うときは、端末で初期化する必要があります（☞P.95）。パソコンなどで初期化したmicroSDカードは、端末では正常に使用できないことがあります。
- 他の機器からmicroSDカードに保存したデータは、端末で表示、再生できないことがあります。また、端末からmicroSDカードに保存したデータは、他の機器で表示、再生できないことがあります。
- microSDXCカードは、SDXC対応機器でのみご利用いただけます。SDXC非対応の機器にmicroSDXCカードを差し込むと、microSDXCカードに保存されているデータが破損することなどがあるため、差し込まないでください。
- データが破損したmicroSDXCカードを再度利用するためには、SDXC対応機器にてmicroSDXCカードの初期化をする必要があります（データはすべて削除されます）。
- SDXC非対応機器とのデータコピーについては、microSDHCカードもしくはmicroSDカードなど、コピー先／コピー元の機器の規格に準拠したカードをご利用ください。
- microSDカードに保存されたデータはバックアップを取るなどして別に保管してくださるようお願いします。万が一、保存されたデータが消失または変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- microSDカードの取り付け／取り外し（マウント解除後を含む）は、電源を切ってから行ってください。端末は、両手でしっかり持ってください。データが壊れることや正常に動作しなくなることがあります。
- 端末の電源を入れると、microSDカードの着脱に関しての注意事項が毎回表示されます。

取り付けかた

1 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを開く（☞P.22）

2 microSDカードの金属端子面を下に向けてゆっくりと挿入する

- microSDカードスロットは、ドコモminiUIMカードスロットの上にあります。ドコモminiUIMカードを取り付ける前にmicroSDカードを挿入する場合、誤ってドコモminiUIMカードスロットに挿入しないようにご注意ください。
- 「カチッ」と音がするまで、ゆっくり指で押し込んでください。

- microSDカードが傾いた状態や、表裏が逆の状態で無理に押し込まないでください。microSDカードスロットが破損することがあります。

3 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを閉じる（☞P.22）

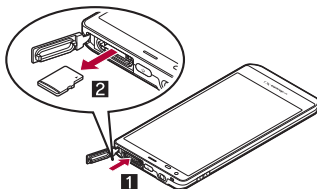
取り外しかた

1 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを開く（☞P.22）

2 microSDカードを軽く押し込む（1）

- 「カチッ」と音がするまで押し込んでください。microSDカードが手前に飛び出します。無理に引き抜くと、端末やmicroSDカードを破損させるおそれがあります。

3 microSDカードを取り外す（2）

- ゆっくりとまっすぐに取り外してください。

4 ドコモminiUIMカード／microSDカードスロットカバーを閉じる（☞P.22）

充電

お買い上げ時は、内蔵電池は十分に充電されていません。必ず充電してからご使用ください。

- 外部接続端子カバーの閉め忘れによる水や粉塵の侵入を防ぐため、付属の卓上ホルダ SH41を使用して充電することをおすすめします（☞P.34）。

充電時のご注意

- 電源を入れたまま長時間充電しないでください。充電完了後、端末の電源が入っていると内蔵電池の充電量が減少します。
  このような場合、ACアダプタ（別売）やDCアダプタ（別売）は再び充電を行います。ただし、ACアダプタやDCアダプタから端末を取り外す時期により、内蔵電池の充電量が少ない、短時間しか使えない、などの現象が起こることがあります。
- 充電完了後でも、端末を長時間放置している場合は電池残量が減少している場合があります。
- 電池が切れた状態で充電開始時に、充電ランプがすぐに点灯しない場合がありますが、充電は始まっています。
- 電池切れの表示がされたあと、電源が入らない場合は、しばらく充電してください。
- 充電中に充電ランプが赤色で点灯していても、電源を入れることができない場合があります。このときは、しばらく充電してから電源を入れてください。
- 電池残量が十分ある状態で、頻繁に充電を繰り返すと、電池の寿命が短くなる場合がありますので、ある程度使用してから（電池残量が減ってからなど）充電することをおすすめします。

- 充電中にモバキャスの視聴やコンテンツの受信などを行う場合は、端末をACアダプタの電源プラグ部からなるべく離してご使用ください。

充電時間の目安

端末の電源を切り、内蔵電池を電池残量のない状態から充電したときの充電時間の目安は次のとおりです。

ACアダプタ 03	約230分
DCアダプタ 03	約260分

- 端末の電源を入れておいても充電できます（充電中は電池マークに[⚡]が重なって表示されます）。
- 電池温度が高くなった場合、充電完了前でも自動的に充電を停止する場合があります。充電ができる温度になると自動的に充電を再開します。

十分に充電したときの利用可能時間（目安）

連続通話時間	FOMA／3G 約580分 GSM 約690分
連続待受時間	FOMA／3G 静止時：約380時間（ネットワークモード：LTE／3G／GSM（自動）） GSM 静止時：約340時間（ネットワークモード：LTE／3G／GSM（自動）） LTE 静止時：約350時間（ネットワークモード：LTE／3G／GSM（自動））
モバキャス視聴時間	約440分
ワンセグ視聴時間	約560分

- 利用可能時間について詳しくは☞P.184

内蔵電池の寿命

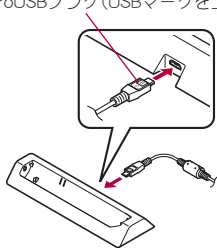
- 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに1回で使える時間が、次第に短くなっていきます。
- 1回で使える時間がお買い上げ時に比べて半分程度になったら、内蔵電池の寿命が近づいていますので、早めに交換することをおすすめします。
- 充電しながらワンセグの視聴などを長時間行うと内蔵電池の寿命が短くなることがあります。

ACアダプタ、DCアダプタ

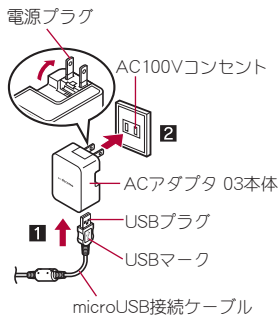
- 詳しくはACアダプタ 03（別売）、DCアダプタ 03（別売）の取扱説明書をご覧ください。
- ACアダプタ 03は、AC100Vから240Vまで対応しています。
- ACアダプタのプラグ形状はAC100V用（国内仕様）です。AC100Vから240V対応のACアダプタを海外で使用する場合は、渡航先に適合した変換プラグアダプタが必要です。なお、海外旅行用の変圧器を使用しての充電は行わないでください。

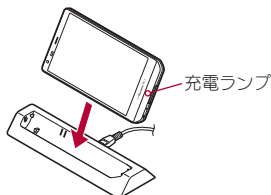
卓上ホルダで充電

1 **microUSB接続ケーブルのmicroUSBプラグを、USBマークを上にして卓上ホルダの接続端子に水平に差し込む**

- microUSBプラグの向き（表裏）をよく確かめ、水平に差し込んでください。

2 **microUSB接続ケーブルのUSBプラグを、USBマークを手前にしてACアダプタ本体のUSBコネクタに水平に差し込む（1）**

- microUSB接続ケーブルのUSBプラグの向き（表裏）をよく確かめ、ACアダプタ本体に水平に差し込んでください。

3 **ACアダプタ本体の電源プラグをコンセントに差し込む（2）**

4 **端末を卓上ホルダに置くと、充電ランプが点灯して、充電が開始する**

- 端末を矢印の方向に「カチッ」と音がするように置いてください。

5 **充電が完了すると、充電ランプが消灯する**

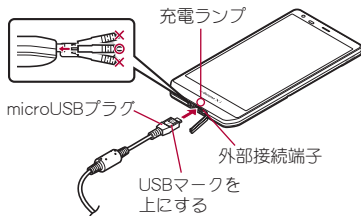
- 卓上ホルダを押さえながら、端末を手前に起こして持ち上げます。

- 長時間使用しないときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
- 充電ランプが点灯しないときは、端末が卓上ホルダに正しく置かれていないことがあります。正しく置き直してください。
- 卓上ホルダとパソコンをmicroUSB接続ケーブルで接続しても充電することはできません。

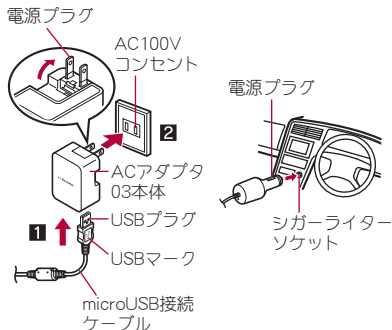
ACアダプタ／DCアダプタで充電

[必ずACアダプタ 03（別売）、DCアダプタ 03（別売）の取扱説明書を参照してください]

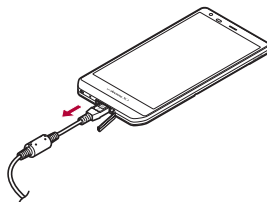
1 **端末の外部接続端子カバーを開き、microUSB接続ケーブル／DCアダプタのmicroUSBプラグを、USBマークを上にして外部接続端子に水平に差し込む**

- microUSBプラグの向き（表裏）をよく確かめ、水平に差し込んでください。

2 **microUSB接続ケーブルのUSBプラグを、USBマークを手前にしてACアダプタ本体のUSBコネクタに水平に差し込む（1）**

- microUSB接続ケーブルのUSBプラグの向き（表裏）をよく確かめ、ACアダプタ本体に水平に差し込んでください。

3 ACアダプタ本体の電源プラグをコンセントに差し込む(2)、またはDCアダプタの電源プラグを車のシガーライターソケットに差し込むと、充電ランプが点灯して、充電が開始する

ACアダプタの場合　　DCアダプタの場合

4 充電が完了すると、充電ランプが消灯する

- 充電が終わったら、microUSBプラグを外部接続端子から水平に抜き、外部接続端子カバーを閉じてください。

- 無理に差し込んだり抜いたりすると、外部接続端子やmicroUSBプラグ、USBプラグが破損や故障する場合がありますので、ご注意ください。
- 長時間使用しないときは、アダプタをコンセントまたはシガーライターソケットから抜いてください。
- 外部接続端子カバーは無理に引っ張らないでください。破損することがあります。
- 充電時、端末の周りに物などを置かないでください。端末に傷を付けるおそれがあります。

DCアダプタのとき

- DCアダプタはマイナスアース車専用です(DC12V・24V両用)。
- 車のエンジンを切ったままで使用しないでください。車のバッテリーを消耗させる場合があります。
- DCアダプタのヒューズは消耗品ですので、交換の際はお近くのカー用品店などでお買い求めください。
- 詳しくは、DCアダプタ 03の取扱説明書をご覧ください。

microUSB接続ケーブル 01で充電

端末の電源が入っているときに、端末とパソコンをmicroUSB接続ケーブル 01（別売）で接続すると、端末を充電することができます。

- あらかじめ、パソコンにUSBドライバをインストールしておいてください。パソコンにUSBドライバをインストールしていない場合、高速転送モードで接続したときに充電することができません。
  - ・USBドライバのインストールについては、次のサイトのPDF版「USBドライバインストールマニュアル」をご覧ください。
    http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-02e/
- パソコンとの接続方法については☞P.117

電源ON／OFF

電源ON

1 **⏻（2秒以上）**

- はじめて端末の電源を入れたときに初期設定画面が表示されます。各設定項目はメニューからも設定できます（☞P.49）。
- ドコモサービスの初期設定画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

- 端末の電源を入れると、microSDカードの着脱に関しての注意事項が毎回表示されます。

電源OFF

1 **⏻（1秒以上）▶［電源を切る］▶［OK］**

強制電源OFF

画面が動かなくなったり、電源が切れなくなったりした場合に、強制的に端末の電源を切ることができます。

1 **⏻（13秒以上）**

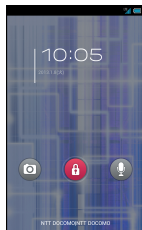
スリープモード

⏻を押したときや端末を一定時間使用しなかったときは、ディスプレイの表示が消えてスリープモードになります。

スリープモード中に⏻を押すと、スリープモードが解除されます。

タッチパネルのロック

電源を入れたときやスリープモードを解除したときはタッチパネルがロックされています。

［🔒］をタッチすると、ロックが解除されます。

タッチパネルのロック解除画面の操作

- マナーモード設定／解除：▯（1秒以上）
- モバイルライト点灯：▯（1秒以上）
  - ・消灯するときはいずれかのキーを押すか、［🔒］をタッチします。
- カメラの起動：［📷］
- しゃべってコンシェルの起動：［🎤］

- モバイルライトは点灯後、約30秒経過すると自動的に消灯します。
- 画面のロックを[スライドまたはタッチ]に設定している場合、ステータスパネルを表示できます。

基本操作

タッチパネルの操作

タッチパネル(ディスプレイ)を直接指またはタッチペン(試供品)で触り、操作を行うことができます。

- 利用中の機能や画面によって操作は異なります。

タッチパネル利用時のご注意

- タッチパネルは指またはタッチペンで軽く触れるように設計されています。指またはタッチペンで強く押したり、先が尖ったもの(爪/ボールペン/ピンなど)を押し付けたりしないでください。
- 次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
  - 手袋をしたままでの操作
  - 爪の先での操作
  - 異物を操作面に乗せたままでの操作
  - 保護シートやシールなどを貼っての操作
  - タッチパネルが濡れたままでの操作
  - 指が汗や水などで濡れた状態での操作

- 確認画面などの表示中に、確認画面やステータスバー以外をタッチすると操作が中止されることがあります。

タッチ

画面に表示されるキーや項目をタッチして、選択・決定を行います。

1 タッチパネルに触れて、指を離す

ロングタッチ

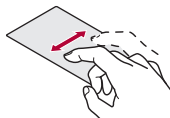
利用中の機能や画面によっては、画面をロングタッチするとメニューが表示されることがあります。

1 タッチパネルに触れたままにする

スライド/ドラッグ

メニュー表示中などに上下にスライドして画面をスクロールしたり、アイコンやウィジェットなどに触れたまま、目的の位置までスライド(ドラッグ)して移動したりできます。

また、メニューや項目に間違って触れたときにメニューや項目から離れるようにスライドすると、選択を中止できます。

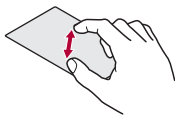
1 タッチパネルに触れたまま、指を動かす

フリック

ホーム画面などで左右にフリックすると、ページの切り替えができます。

1 タッチパネルをはらうように指を動かす

ピンチアウト／ピンチイン

画像表示中などにピンチアウト／ピンチインすると、画像の拡大／縮小ができます。

1 2本の指でタッチパネルに触れ、2本の指の間を広げる（ピンチアウト）／狭める（ピンチイン）ように指を動かす

機能利用中の操作

ナビゲーションキー

画面下部に表示されるナビゲーションキーを使って基本的な操作を行うことができます。

1 ：戻るキー

- 1つ前の画面に戻します。

2 ：ホームキー

- ホーム画面／ホーム画面のメインページを表示します。

3 ：メニューキー

- 利用できる機能（メニュー）を表示します。

4 ：アプリ使用履歴キー

- 最近使用したアプリケーションの履歴を表示します。

メニューを呼び出す

[ ]をタッチしたり画面をロングタッチしたりすると、その画面で利用できる機能（メニュー）が表示されます。

例：ホーム画面

アプリケーション使用履歴の利用

最近使用したアプリケーションの履歴を表示し、アプリケーションを起動することができます。

1 [⧉]

2 **履歴を利用する**

- 横表示中は[音量変更]が表示されます。タッチすると音量を調節できます。

1 すべて消去

- タッチするとアプリケーション使用履歴をすべて削除できます。

2 アプリケーション使用履歴

- タッチするとアプリケーションを起動できます。
- 左右にフリックすると履歴を削除できます。
- バックグラウンドで起動中のアプリケーションには[●(青色)]が表示されます。

- アプリケーションによっては履歴に表示されない場合があります。

設定の切替

設定項目の横にチェックボックスが表示されているときは、チェックボックスをタッチすることで設定の有効／無効や[ON]／[OFF]を切り替えることができます。

例：位置情報サービス画面、アラーム画面

- [☑]は有効、[☐]は無効の状態です。

縦／横表示

端末を傾けたときに画面の表示が切り替わります。

- 端末が地面に対して水平に近い状態で向きを変えても、縦／横表示は切り替わりません。
- 音やバイブレータが動作しているときは、切り替えが正しく行われない場合があります。
- 画面が点灯した直後や電源を入れた直後は、縦横が正しく表示されない場合があります。
- 自動的に切り替わらないように設定することもできます（☞P.92）。
- 縦表示から横表示にした場合、アプリケーションによっては全画面表示されることがあります。

スクリーンショットを撮影

⏻＋▯を１秒以上押すと、表示中の画面を本体メモリに保存できます。

- 撮影時にシャッター音が鳴ります。
- 保存したスクリーンショットはギャラリーで確認することができます。

- モバキャスやワンセグ、ホームネットワーク、電子書籍の表示中などは保存できません。
- アプリケーションによっては全部または一部が保存できない場合があります。

音声ランチャーの利用

スリープモード中に端末の背面を２回タップすると音声ランチャーが起動します。アプリケーションを起動するためのコマンドを音声入力すると、アプリケーションを起動することができます。

２回タップする

- あらかじめON／OFF設定を[ON]に設定しておいてください（☞P.93）。
- 画面のロックを[なし]または[スライドまたはタッチ]以外に設定している場合は、あらかじめ音声ロック解除で音声キーワードを登録しておいてください（☞P.93）。
- コマンドは変更することができます（☞P.93）。

1 端末の背面を２回タップ

- 開始音が鳴り、着信ランプが白色で点滅します。
- 画面のロックが[なし]または[スライドまたはタッチ]に設定されているときは操作３へ

2 音声キーワードを話す

- 着信ランプが点灯している間に音声キーワードを話してください。
- 音声キーワードの認識に成功したときは着信ランプが青色で点滅します。
- 時間切れのときはエラー音が鳴り、着信ランプが赤色で点滅します。

3 コマンドを話す

- 着信ランプが点灯している間にコマンドを話してください。
- コマンドの認識に成功したときは完了音が鳴り、着信ランプが青色で点滅します。
- 時間切れのときはエラー音が鳴り、着信ランプが赤色または黄色で点滅します。

- 「がめんおん」と話したときは画面が表示されます。「ほーむ」と話したときはホーム画面が表示されます。

音声入力について

- 自然な速度でお話しください。次の場合は正しく認識できないことがあります。
  - ■ 周囲の雑音が大きい場合
  - ■ 発声の前後に咳払いなどの雑音が入力された場合
  - ■ 発声が途切れるなど、発声が明瞭でない場合
  - ■ １音ずつ切って発声するなど、発声が不自然な場合

- 正しく認識できない場合は次のことをお試しください。
  - ■ 発声速度が速すぎないよう注意して発声する
  - ■ 声が小さすぎないようマイクを意識して発声する
  - ■ マイクから5～10cm離れて発声する
- 発声によっては別の言葉として認識される場合があります。

音声キーワードについて

- 音声キーワードを入力する場合は前述の「音声入力について」の内容に加え、次のことにご注意ください。
  - ■ 風邪などで声の状態が通常と異なる場合に、音声キーワードを認識しない場合があります。
  - ■ 小学生以下のお子様の場合、うまく動作しない場合があります。
  - ■ 兄弟など、声によっては誤って認識してしまう場合があります。

クイックツールボックスEXの利用

クイックツールボックスEXにアプリケーションやショートカットを設定しておくと、すばやくアプリケーションを起動することができます。

- あらかじめクイックツールボックスEXを[ON]に設定しておいてください(☞P.95)。

1 端末を左右に2回振る

- [⊟]をロングタッチしても操作できます。

2 アプリケーション／ショートカットを選ぶ

クイックツールボックスEXの管理

1 端末を左右に2回振る

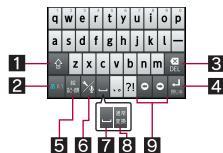
2 アプリケーション／ショートカットをロングタッチ ▶ [🔧]

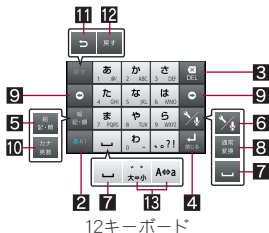
3 項目を選ぶ

- ■ アプリ・ショートカット選択：アプリケーションやショートカットを設定します。
- ■ 購入時に戻す：クイックツールボックスEXをお買い上げ時の状態に戻します。
- ■ はがす：アプリケーションやショートカットを削除します。

キーボードの見かた

- 次の2種類のキーボードを利用できます。

QWERTYキーボード	文字入力キーをタッチすると表示されている文字を入力できます。ローマ字で文字を入力します。
12キーボード	1つの文字入力キーに複数の文字が割り当てられています。文字入力キーをタッチするたびに文字が切り替わります。 ● 文字入力キーを上下左右にフリックして、文字を入力することもできます。

QWERTYキーボード

12キーボード

※各キーは設定や状況に応じて表示が切り替わります。

1 シフトキー

- 大文字／小文字を切り替えるときなどにタッチします。
  - ・[⇧]が表示されているときは小文字が入力されます。[⬆]が表示されているときは最初に入力する文字が大文字になります。[⬆]が表示されているときは大文字が入力されます。
  - ・大文字／小文字を切り替えると、入力できる記号も変わります。

2 入力モード切替キー

- 入力モードを変更するときにタッチします。
  - ・タッチすると、ひらがな漢字→半角英字→半角数字の順に、入力モードが切り替わります。各入力モードで設定したキーボードが表示されます。
  - ・入力モード切替キーを右にスライドしても入力モードを切り替えることができます。

3 削除キー

- 文字削除キー動作で設定した方向の文字を消します。

4 エンターキー

- 改行します。
- 入力した文字を確定します。
- 検索ボックスなどの入力欄に入力した内容を実行します。
- 次の入力欄に移動します。
- ロングタッチすると、キーボードを閉じます。

5 記号キー

- 絵文字／デコメ絵文字®／記号／顔文字リストを表示します。
  - ・アプリケーションによっては、入力できないものがあります。
- 右にスライドすると連携・引用アプリ一覧が表示されます。

6 設定キー

- 設定メニューを表示します。

7 スペースキー

- スペースを入力します。

8 通常変換キー

- 入力した文字を通常変換します。

9 カーソルキー

- カーソルを移動したり、変換する文字の区切りを変更したりできます。

10 カナ英数キー

- 入力した文字のカタカナ、タッチしたキーに割り当てられた英数字や記号の通常変換候補を表示します。
- 右にスライドすると連携・引用アプリ一覧が表示されます。

11 逆トグルキー

- 同じキーに割り当てられた文字を通常とは逆の順序で表示します。

12 戻すキー

- 直前に行った操作を取り消します。

13 文字切替キー

- 大文字／小文字を切り替えるときにタッチします。
- 濁点／半濁点を付けるときにタッチします。

キーボードの切替

例：ひらがな漢字入力モードで縦表示のとき

1 文字入力画面で[ ]▶[入力方式を切替]▶[QWERTYキーボードに切替[あいう[漢字]][縦画面]]／[12キーボードに切替[あいう[漢字]][縦画面]]

- 設定キーを上にスライドしても切り替えることができます。

文字入力の設定

表示・レイアウトの設定

1 文字入力画面で[ ]▶[各種設定]▶[表示・レイアウトの設定]

2 項目を選ぶ

- ■キー入力ガイド表示：選択したキーの拡大表示やフリック入力のガイドを表示するか設定します。
- ■キーボードイメージ：キーボードのデザインを設定します。
- ■キーサイズと候補行数：縦表示のキーボードのサイズと変換候補欄の行数を設定します。
- ■絵記号リスト列数：絵文字・記号リストの列数を設定します。

入力補助の設定

1 文字入力画面で[ ]▶[各種設定]▶[入力補助の設定]

2 項目を選ぶ

- ■キー操作音：文字入力時の操作音の有無を設定します。
- ■キー操作バイブ：文字入力時にバイブレータを動作させるか設定します。
- ■フリック感度：フリック入力をするときの文字選択の感度を設定します。
- ■トグル入力：フリック入力時もトグル入力を利用するか設定します。
- ■サービス接続先：音声入力の接続先を設定します。
- ■文字削除キー動作：削除キーの動作を設定します。
- ■ローマ字キーボード補助：ローマ字で日本語入力するときに不要なキーをタッチできないように設定します。
- ■自動カーソル移動：文字入力後にカーソルを自動的に右側に移動させる速度を設定します。
- ■自動スペース入力：英字入力で英単語を選択したあと半角スペースを自動的に挿入します。

[文字削除キー動作]について

- 文字にカーソルが当たっている場合はカーソル位置の文字を削除します。[左側削除(バックスペース)]に設定したときカーソルが先頭にある場合はカーソル右側の文字を、[右側削除(クリア)]に設定したときカーソルが文末にある場合はカーソル左側の文字を消します。

変換機能の設定

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[各種設定]▶[変換機能の設定]

2 項目を選ぶ

- 予測変換:予測変換を利用するか設定します。
- ワイルドカード予測:ワイルドカード予測を利用するか設定します。
- 入力ミス補正:入力ミス補正について設定します。
- つながり予測:入力確定直後につながり予測変換候補を表示します。
- メールいきなり予測:メールの本文入力時に文頭に使用する文章の候補を表示します。
- 外部変換エンジン:外部の変換エンジンを利用して変換候補を表示します。
- 自動大文字変換:英字入力で文頭文字を大文字で入力します。

辞書の設定

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[各種設定]▶[辞書の設定]

2 項目を選ぶ

- 日本語ユーザー辞書:日本語ユーザー辞書の単語を編集します。
- 英語ユーザー辞書:英語ユーザー辞書の単語を編集します。
- ダウンロード辞書:ダウンロード辞書の登録/解除/削除をします。
- 変換辞書の更新:変換辞書の更新やダウンロード、アンインストールをします。
- 電話帳名前データと連携:電話帳の名前データを辞書に追加/初期化します。

手書き入力の設定

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[各種設定]▶[手書き入力の設定]

2 項目を選ぶ

- 認識言語:認識する言語を切り替えます。
- 予測変換結果表示:予測変換を利用するか設定します。
- インクの太さ:インクの太さを設定します。
- 文字のスライド速度:文字をスライドする速度を設定します。
- 手書き文字自動消去:書いた文字を自動的に削除するか設定します。
- 手書き文字自動消去速度:書いた文字を自動的に削除する速度を設定します。
- バージョン情報:手書き入力の設定のバージョンを確認します。
- 法的情報:手書き入力の設定の商標や契約条項などを確認できます。

スライド切替の設定

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[各種設定]▶[スライド切替の設定]

2 項目を選ぶ

- 上方向スライド:キーボードを下端から上端までスライドしたときの動作を設定します。
- 下方向スライド:キーボードを上端から下端までスライドしたときの動作を設定します。
- 右方向スライド:キーボードを左端から右端までスライドしたときの動作を設定します。
- 左方向スライド:キーボードを右端から左端までスライドしたときの動作を設定します。

各種リセット

1 文字入力画面で[ ]▶[各種設定]▶[各種リセット]

2 項目を選ぶ

- 設定リセット：iWnn IME - SH editionの設定をリセットします。
- 学習辞書リセット：学習辞書をリセットします。
- 顔文字リセット：顔文字リストの内容をリセットします。

文字入力のしかた

例：「文字」と入力するとき

1 文字入力画面で「もじ」と入力

1 拡大／縮小
- 予測変換候補欄を拡大／縮小します。

2 予測変換候補欄
- 予測変換候補が表示されます。変換候補をタッチすると入力できます。
- 外部変換エンジンを設定している場合は[外部変換]が表示されます。タッチすると外部の変換エンジンを利用した変換候補が表示されます。

2 [通常変換]

3 変換候補欄で「文字」を選ぶ

1 閉じる
- 通常変換候補欄を閉じます。

2 通常変換候補欄
- 通常変換候補が表示されます。変換候補をタッチすると入力できます。
- 外部変換エンジンを設定している場合は[外部変換]が表示されます。タッチすると外部の変換エンジンを利用した変換候補が表示されます。

3 文節縮小
- 変換する文字の区切りを縮小することができます。

4 確定
- 変換を確定します。

5 予測変換
- 通常変換候補欄を閉じます。
- 変換する文字の区切りを縮小している場合は、[文節拡大]が表示されます。タッチすると変換する文字の区切りを拡大することができます。

ワイルドカード予測

入力した文字数から変換候補を予測して表示します。

- あらかじめ[ワイルドカード予測]を有効にしておいてください(☞P.45)。
- ひらがな漢字入力モード、半角英字入力モードのとき利用できます。

例:「アナウンス」と入力するとき

1 文字入力画面で「あな」と入力

2 [➡]▶[➡]▶[➡]

- [➡]をタッチするたびに[＊]が入力され、文字数に合わせた予測変換候補が表示されます。

3 変換候補欄で「アナウンス」を選ぶ

区点コードで入力

文字ひとつひとつに付与されている４桁の区点コードを利用して、漢字やひらがな、カタカナ、記号、英数字などを入力できます。

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[文字種を切替]▶[区点コード]

2 区点コードを入力

- ４桁目を入力すると、コード入力した文字が表示されます。
- ４桁目を入力すると区点コード入力モードにする前の入力モードに戻ります。

音声で入力

音声で文字を入力することができます。

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[入力方式を切替]▶[音声入力に切替]

- QWERTYキーボードを利用中は設定キーを右にスライド、12キーボードを利用中は設定キーを下にスライドしても音声入力に切り替えることができます。

2 マイクに向かって話す

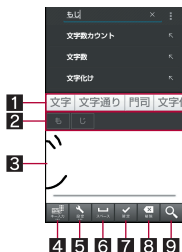
- 次の場合は正しく認識できないことがあります。
  - ■声が大きすぎる場合
  - ■周囲の雑音が大きい場合
  - ■発声が明瞭でない場合
  - ■発声が不自然な場合
  - ■発声速度が速すぎる場合
  - ■キーを押したり、マイクを触ったりした場合

手書き入力

手書きで文字を入力することができます。

1 文字入力画面で[✎🎙]▶[入力方式を切替]▶[手書き入力に切替]

- 設定キーを左にスライドしても手書き入力に切り替えることができます。

2 文字入力部分に文字･記号を手書き入力

1 予測変換候補欄
- 予測変換候補が表示されます。変換候補をタッチすると入力できます。

2 入力候補欄
- 候補の文字をタッチすると候補を変更したり、文字を書き直したりすることができます。
- 候補の文字を上にスライドすると左端の文字からタッチした文字までを確定することができます。

3 入力部分

4 キーボードに切替

5 設定キー
- 認識モードの切り替えや、手書き入力の設定などができます。

6 スペースキー

7 確定／改行キー

8 削除キー

9 検索キー
- アプリケーションによっては表示されません。

- 手書き入力する場合は、ゆっくりと明瞭に入力してください。

テキスト編集

入力した文字を選択して切り取りやコピー、貼り付けなどの操作ができます。

1 入力した文字をロングタッチ

2 文字を編集する

- 選択範囲の指定：[◺]／[◹]をドラッグ
- コピーした文字、切り取った文字の履歴の表示：[✎/🎤] ▶ [アプリ連携･引用（マッシュルーム）] ▶ [コピー履歴SH]

1 すべて選択
- 入力した文字をすべて選択します。

2 切り取り
- 選択した文字を切り取ります。

3 コピー
- 選択した文字をコピーします。

4 貼り付け
- 切り取った文字やコピーした文字を貼り付けます。
- 文字入力欄をロングタッチ ▶ [貼り付け]でも、文字を貼り付けることができます。

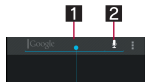
- 文字入力欄をロングタッチ▶[履歴から]▶入力する文字を選ぶと、履歴を選んで貼り付けることができます。

- コピーした文字、切り取った文字は合わせて10件まで保存されます。

端末内やサイトの情報の検索

1 ホーム画面で[⠿]▶[検索]

- Google検索の確認画面が表示された場合は内容を確認し、[OK]を選択してください。
- クイック検索ボックスが表示されます。

2 キーワードを入力

1 検索ボックス
- 検索するキーワードを入力します。
- キーワードを入力すると、入力した文字から始まるアプリケーションやデータなどを検索し、一覧表示します。

2 音声検索切替

3 検索結果を選ぶ

- 検索結果がアプリケーションの場合は対応するアプリケーションが起動します。

検索設定

1 クイック検索ボックスで[☰]▶[設定]

2 項目を選ぶ

■ 検索対象：検索する対象の範囲を設定します。
■ Google検索：Google検索について設定します。

初期設定

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[初期設定]▶[次へ]

2 [マイプロフィールへ]▶プロフィールを設定（☞P.91）▶[次へ]

3 [Googleアカウント設定へ]▶Googleアカウントを設定（☞P.53）▶[次へ]

4 位置情報を設定（☞P.99）▶[次へ]

5 [Wi-Fi設定へ]▶Wi-Fiを設定（☞P.51）▶[次へ]

6 [音声ランチャー設定へ]▶音声ランチャーを設定（☞P.93）▶[次へ]

7 [ロック画面・ホーム一括切替へ]▶ロック解除画面とホームアプリを設定（☞P.95）

8 [完了]

アクセスポイントの設定

インターネットに接続するためのアクセスポイント（spモード、mopera U）は、あらかじめ登録されており、必要に応じて追加、変更することもできます。お買い上げ時には、通常使う接続先としてspモードが設定されています。

利用中のアクセスポイントを確認

1 **ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[アクセスポイント名]**

アクセスポイントを追加で設定

- MCCを440、MNCを10以外に変更しないでください。画面上に表示されなくなります。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[アクセスポイント名]▶[☰]▶[新しいAPN]**

2 **[名前]▶作成するネットワークプロファイルの名前を入力▶[OK]**

3 **[APN]▶アクセスポイント名を入力▶[OK]**

4 **その他、通信事業者によって要求されている項目を入力▶[☰]▶[保存]**

- MCC、MNCの設定を変更して画面上に表示されなくなった場合は、初期設定にリセットするか、手動でアクセスポイントの設定を行ってください。

アクセスポイントの初期化

アクセスポイントを初期化すると、お買い上げ時の状態に戻ります。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[アクセスポイント名]▶[☰]▶[初期設定にリセット]**

- spモードにご契約いただいていない場合や、圏外など電波状況によりアクセスポイントの自動設定に失敗した場合は、再度手動でアクセスポイントを設定する必要があります。

spモード

spモードはNTTドコモのスマートフォン向けISPです。インターネット接続に加え、iモードと同じメールアドレス（@docomo.ne.jp）を使ったメールサービスなどがご利用いただけます。spモードはお申し込みが必要な有料サービスです。spモードの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

mopera U

mopera UはNTTドコモのISPです。mopera Uにお申し込みいただいたお客様は、簡単な設定でインターネットをご利用いただけます。mopera Uはお申し込みが必要な有料サービスです。

mopera Uの設定

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[アクセスポイント名]▶[mopera U]/[mopera U 設定]

- mopera U 設定はmopera U 設定用アクセスポイントです。mopera U 設定用アクセスポイントをご利用いただくと、パケット通信料がかかりません。なお、初期設定画面、および設定変更画面以外には接続できないのでご注意ください。mopera U 設定の詳細については、mopera U のホームページをご覧ください。

Wi-Fiの設定

端末のWi-Fi機能を利用して、自宅や社内ネットワーク、公衆無線LANサービスのアクセスポイントに接続して、メールやインターネットを利用できます。

Bluetooth機器との電波干渉について

- 無線LAN(IEEE802.11b/g/n)とBluetooth機器は同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、Bluetooth機器の近くで使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下や雑音、接続不能の原因になることがあります。この場合、Bluetooth機器の電源を切るか、端末や接続相手の無線LAN機器をBluetooth機器から約10m以上離してください。

- Wi-Fiを[ON]にしている場合もパケット通信を利用できます。Wi-Fi接続中はWi-Fi接続が優先されますが、Wi-Fi接続が切断されると自動的にLTE/3G/GPRSネットワークでの接続に切り替わります。そのままご利用になる場合は、パケット通信料がかかる場合がありますのでご注意ください。
- ご自宅などのアクセスポイントを利用する場合は、無線LAN親機の取扱説明書もご覧ください。
- アクセスポイントを登録するときは、アクセスポイントの近くで操作してください。
- Wi-Fi機能を利用してドコモサービスを利用する場合は、あらかじめドコモWi-Fiオプションパスワードを設定しておいてください。ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ドコモサービス]▶[ドコモアプリWi-Fi利用設定]から設定することができます。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[Wi-Fi]

2 [OFF]を右にスライド

3 アクセスポイントを選ぶ

- セキュリティで保護されたアクセスポイントを選択した場合、パスワード(セキュリティキー)を入力し、[接続]を選択してください。
- WPSに対応しているアクセスポイントは簡単登録ができます。設定方法(WPS使用可)の項目を選択してアクセスポイントを登録してください。
- アクセスポイントを手動で登録:[ネットワークを追加]▶ネットワークSSIDを入力▶セキュリティを設定▶[保存]
- [AOSS]を選択してもアクセスポイントに接続できます。以降は画面の指示に従って操作してください。

- アクセスポイントを選択して接続するときに誤ったパスワード（セキュリティキー）を入力した場合、[インターネット接続不良により無効]または[認証に問題]、[接続（制限）]と表示されます。パスワード（セキュリティキー）をご確認ください。なお、正しいパスワード（セキュリティキー）を入力しても[インターネット接続不良により無効]または[接続（制限）]と表示されるときは、正しいIPアドレスを取得できていない場合があります。電波状況をご確認の上、接続し直してください。
- WPS簡単登録の登録処理には、数分かかります。アクセスポイントの登録処理後、アクセスポイントに適切に接続されていることをご確認ください。
- アクセスポイントの手動登録は、セキュリティ設定としてWEP、WPA／WPA2 PSK、802.1xEAPに対応しています。

詳細設定

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[Wi-Fi]▶[☰]▶[詳細設定]

2 項目を選ぶ

■ ネットワークの通知：オープンネットワークを検出したときに、お知らせアイコンで通知するか設定します。
- Wi-Fiを[ON]にしてから設定してください。

■ Wi-Fiのスリープ設定：Wi-Fi機能をスリープに切り替えるタイミングを設定します。

■ Wi-Fiの周波数帯：使用する周波数帯を設定します。

■ MACアドレス：MACアドレスを確認できます。

■ IPアドレス：IPアドレスを確認できます。

切断

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[Wi-Fi]

2 接続しているアクセスポイントを選ぶ▶[切断]

- パスワードを保持したまま切断します。

Wi-Fiテザリング

本端末をWi-Fiアクセスポイントとして利用することで、Wi-Fi対応機器をインターネットに接続するテザリング機能を利用することができます。

- 同時に接続できるWi-Fi対応機器は10台までです。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[テザリング]

2 項目を選ぶ

■ USBテザリング：USBテザリングを利用するか設定します。
- ご利用の前に、注意事項の詳細をご確認ください。

■ Wi-Fiテザリング：Wi-Fiテザリングを利用するか設定します。
- ご利用の前に、注意事項の詳細をご確認ください。

■ Wi-Fiアクセスポイントを設定：ネットワークSSIDやセキュリティなどWi-Fiテザリングについて設定します。

■ ヘルプ：ヘルプを表示します。

[Wi-Fiアクセスポイントを設定]について

- お買い上げ時は、ネットワークSSIDは[SH-02E_AP]、セキュリティは[WPA2 PSK]、パスワードはランダムな値が設定されています。必要に応じて設定を変更してください。

メールのアカウントの設定

1 ホーム画面で[▦]▶[メール]

- アカウントが設定されていない場合のみ、アカウント設定画面が表示されます。

2 メールアドレス、パスワードを入力▶[次へ]

- いくつかのメールアカウントについてプロバイダ情報がプリセットされており、受信メールサーバーと送信メールサーバーの設定が自動で行われます。
- プロバイダ情報がプリセットされていないアカウントの場合は、受信メールサーバーと送信メールサーバーの設定を手動で行う必要があります。設定については、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。

3 アカウントを設定する▶[次へ]

4 アカウントの名前、あなたの名前を入力▶[次へ]

- 最初に登録したアカウントが、自動的に優先して使用するアカウントとして登録されます。アカウントを複数登録する場合は、アカウント登録時に[いつもこのアカウントでメールを送信]を有効にすると、優先して使用するアカウントとして登録されます。
- アカウントのタイプがExchangeのときに受信メールサーバーの設定を手動で行う場合、利用するプロバイダによっては「ドメイン¥ユーザー名」の項目に「¥ユーザー名ドメイン」と入力する必要があります。詳しくはサーバー管理者にお問い合わせください。

Googleなどのアカウントの設定

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[アカウントと同期]▶[アカウントを追加]

2 アカウントの種類を選ぶ

3 アカウントを設定する

- アカウントが必要となるアプリケーションを起動したときにアカウントが未設定の場合は、アカウント設定画面が表示されます。
- 設定したアカウントおよびパスワードはメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。

アカウントの削除

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[アカウントと同期]

2 アカウントを選ぶ▶[☰]▶[アカウントを削除]▶[アカウントを削除]

Googleアカウントのパスワードの再取得

Googleアカウントのパスワードをお忘れになった場合は、パスワードを再取得してください。

1 ホーム画面で[▦]▶[ブラウザ]

2 URL入力欄に「http://www.google.co.jp/」を入力▶[実行]▶[ログイン]▶[アカウントにアクセスできない場合]▶画面に従って操作

- URL入力欄が非表示の場合は、ブラウザ画面を下にスライドしてください。

電話帳のインポート／エクスポート

ドコモminiUIMカードからのインポート

1 ホーム画面で[▦]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 [☰]▶[その他]▶[インポート／エクスポート]▶[SIMカードからインポート]

3 登録するアカウントを選ぶ

4 インポートする連絡先を選ぶ

- すべての連絡先をインポート：[☰]▶[すべてインポート]

microSDカードからのインポート

1 ホーム画面で[▦]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 [☰]▶[その他]▶[インポート／エクスポート]▶[SDカードからインポート]

3 登録するアカウントを選ぶ

- microSDカードに保存されている電話帳データが1件の場合は、自動的にインポートされます。

4 インポートする電話帳データを選ぶ▶[OK]

microSDカードへのエクスポート

1 ホーム画面で[▦]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 [☰]▶[その他]▶[インポート／エクスポート]▶[SDカードにエクスポート]

3 エクスポートする連絡先を選ぶ▶[OK]

4 [無し]／[有り]▶[OK]

着信／充電ランプ

不在着信がある場合や充電中などに着信／充電ランプを点灯／点滅してお知らせします。

表示状態	色	端末の状態
点灯	赤	充電中
点滅	赤	内蔵電池の交換時期
点滅	緑	着信中／不在着信あり
点滅	黄	新着メールあり
点滅	桃	ボイスレコーダーで録音中／ビデオ録画中

- ディスプレイが表示されている場合、不在着信や新着メールをお知らせする着信ランプが点滅しません。お知らせアイコンで確認してください。モバキャス／ワンセグを横表示で視聴している場合など、お知らせアイコンが表示されないときはステータスバーが表示される画面で確認してください。

画面表示／アイコン

アイコンの見かた

画面上部のステータスバーに表示されるアイコンで、端末の状態や不在着信の有無など、さまざまな情報を知ることができます。ステータスパネルを表示させると詳細情報を確認できます。

- 表示されるアイコンには、次の２種類があります。

お知らせアイコン	不在着信や新着メールなどをお知らせします。
ステータスアイコン	電池残量や電波状態など端末の状態を表します。

主なお知らせアイコン一覧

- お知らせアイコンには件数が重なって表示されるものもあります。

:不在着信あり

:新着SMSあり

:新着メールあり

:新着Gmailあり

:新着インスタントメッセージあり

:エラー表示
- 何らかのエラーが発生したときに表示されます。

:アラーム終了
- アラーム終了操作を行わずにアラームが終了したときに表示されます。

:カレンダーのスケジュール通知あり

ワンセグ情報あり
:ワンセグ視聴情報あり
:ワンセグ録画情報あり

:音楽再生中

:USBデバッグ接続中

通話表示
:発信中／着信中／通話中
:Bluetooth機器で通話中
:保留中

:伝言メモあり

:留守番電話の伝言メッセージあり

microSDカード表示
:microSDカード準備中
:マウントを解除したとき
:microSDカードが取り外されたとき

:本体メモリ／microSDカードスキャン中

:システムメモリの空き容量低下

:おまかせロック設定中

:[Reader／Writer, P2P]が有効

Bluetooth表示
:Bluetooth機器からの登録要求／接続要求あり
:データ受信要求あり

USB接続表示
:USB接続（カードリーダーモード接続時）
:MTPモード／PTPモード／カードリーダーモード／高速転送モード

:MHL™接続中

データ送受信表示
:送信表示
:受信表示

:アプリケーションのインストール完了／アップデートあり

Wi-Fi表示
:オープンネットワークあり
:Wi-Fi接続制限あり

:[USBテザリング]が有効

:[Wi-Fiテザリング]／[Wi-Fi Direct]が有効

:[USBテザリング]、[Wi-Fiテザリング]が有効

:FMトランスミッタが[ON]のとき

:VPN接続

:OSバージョンアップあり

ソフトウェア更新表示
:ソフトウェア更新あり
:ソフトウェア更新完了

:表示されていないお知らせアイコンあり

エコ技設定表示
:技ありモード
:お助けモード

:GPS測位中

モバキャス表示
:コンテンツの蓄積中／新着お知らせあり
:音声コンテンツをバックグラウンド再生中

モバキャス電波受信状態
:レベル 4
:レベル 3
:レベル 2
:レベル 1
:圏外

主なステータスアイコン一覧

:アラーム設定中

電池残量表示
～:約100%～約5％
:約0％
- 充電中は電池マークに[]が重なって表示されます。

電波状態表示
:レベル 4
:レベル 3
:レベル 2
:レベル 1
:レベル 0
:圏外
- 国際ローミング中は電波マークの左上に[R]が表示されます。

:機内モード中

3Gデータ通信状態表示
:3G使用可能
:3Gデータ受信中
:3Gデータ送信中
:3Gデータ送受信中

GSMデータ通信状態表示
:GSM使用可能
:GSMデータ受信中
:GSMデータ送信中
:GSMデータ送受信中

LTEデータ通信状態表示
:LTE使用可能
:LTEデータ受信中
:LTEデータ送信中
:LTEデータ送受信中

HSPAデータ通信状態表示
:HSPA使用可能
:HSPAデータ受信中
:HSPAデータ送信中
:HSPAデータ送受信中

NFC/おサイフケータイ ロック状態表示
(青色):端末またはドコモminiUIMカードをロック中
(青色):端末とドコモminiUIMカードをロック中

おまかせロック状態表示
(赤色):端末またはドコモminiUIMカードを遠隔操作でロック中
(赤色):端末とドコモminiUIMカードを遠隔操作でロック中

:[Reader/Writer, P2P]が有効

文字入力モード表示
:ひらがな漢字
:全角カタカナ
:半角カタカナ
:全角英字
:半角英字
:全角数字
:半角数字
:区点コード

マナーモード表示
:通常マナー
:ドライブマナー
:サイレントマナー

:スピーカーで通話中

:ミュートに設定中

Wi-Fi電波状態表示
:レベル4
:レベル3
:レベル2
:レベル1
:レベル0

Bluetooth表示
:待機中
:接続中

伝言メモ表示
:伝言メモ設定中で伝言メモが0件
:伝言メモ設定中で伝言メモが1～9件
:伝言メモ設定中で伝言メモが10件

ホームネットワーク表示
:停止中
(緑色):準備中
(青色):動作中

ステータスパネルの利用

1 ステータスバーを下にドラッグ

2 ステータスパネルを利用

1 機能キーエリア
- マナーモード、Wi-Fi機能の使用などについて設定できます。

2 拡大／縮小バー
- 機能キーエリアを拡大／縮小します。[並べ替え]をタッチすると機能キーの並べ替えができます。

3 お知らせアイコン詳細情報
- 対応するアプリケーションがある場合、詳細情報をタッチしてアプリケーションを起動できます。
- 左右にフリックすると、お知らせアイコン詳細情報を消去できる場合があります。

4 ステータスアイコン詳細情報
- 対応するアプリケーションがある場合、詳細情報をタッチしてアプリケーションを起動できます。

5 閉じるバー
- 上にドラッグすると、ステータスパネルを閉じることができます。

6 設定
- 「設定」アプリケーションを起動します。

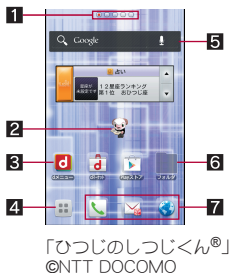
- [⊗]をタッチするとお知らせアイコン詳細情報とお知らせアイコンを消去します。

docomo Palette UI

ホーム画面

ホーム画面の見かた

電源を入れると、ホーム画面が表示されます。ウィジェットを貼り付けたり、ショートカットやクイックメニューを選択してアプリケーションを起動したりすることができます。

「ひつじのしつじくん®」
©NTT DOCOMO

1 インジケータ
- 表示しているページを[■(赤色)]で表します。
- メインページを[■(グレー)]で表します。

2 マチキャラ

3 ショートカット
- よく使うアプリケーションをすばやく起動できます。

4 アプリケーション画面表示
- アプリケーション画面を表示します。

5 ウィジェット
- カレンダーや歩数計など、簡単な機能を利用できます。
- Android標準のウィジェットに対応しています。

6 フォルダ
- フォルダを追加すると、フォルダ内のデータをすばやく表示したり、ショートカットをフォルダに格納したりできます。

7 クイックメニュー
- ショートカットを設定すると、ホーム画面のどのページからもすばやくアプリケーションを起動できます。

- ホーム画面でピンチインすると、ホーム画面一覧を表示します。

ホーム画面の管理

ホーム画面の設定

ホーム画面にショートカットやウィジェットなどを貼り付けたり、ホーム画面について設定したりすることができます。

1 ホーム画面をロングタッチ

2 項目を選ぶ

- ■ ショートカット:アプリケーションへのショートカットを追加します。
- ■ ウィジェット:ウィジェットを追加します。
- ■ フォルダ:フォルダを追加します。
- ■ きせかえ:きせかえについては☞P.60
- ■ 壁紙:壁紙については☞P.60
- ■ グループ:グループへのショートカットを追加します。
- ■ ホーム画面一覧:ホーム画面一覧を表示します。

■ 壁紙ループ設定：ホーム画面を左右にスライドしたときに、壁紙を繰り返して表示するか設定します。

● microSDカードに保存されたウィジェットは、貼り付けられない場合があります。

クイックメニューの設定

クイックメニューにショートカットなどを設定することができます。

● クイックメニューには最大3個までショートカットなどを設定できます。
● あらかじめ設定済みのショートカットなどを移動・削除してから、新しいショートカットなどを設定してください。

1 ホーム画面でショートカットなどをロングタッチ

2 クイックメニューまでドラッグ

ショートカットなどの移動

1 ホーム画面でショートカットなどをロングタッチ

2 移動先までドラッグ

• ページの端までドラッグすると、前／次のページが表示され、前／次のページに移動できます。
• ショートカットの上にショートカットをドラッグした場合、2つのショートカットを格納したフォルダが作成されます。

ショートカットなどの削除

1 ホーム画面でショートカットなどをロングタッチ

2 [削除]

• ショートカットなどを画面左下の[🗑]までドラッグしても削除できます。

ショートカットやウィジェットのアンインストール

1 ホーム画面でショートカット／ウィジェットをロングタッチ

2 [アンインストール]▶[OK]▶[OK]

フォルダ名の変更

1 ホーム画面でフォルダをロングタッチ

• ホーム画面でフォルダを選び、フォルダ名をタッチしても変更できます。

2 [名称変更]

3 フォルダ名を入力▶[OK]

きせかえの変更

1 ホーム画面で[☰]▶[きせかえ]

2 きせかえを選ぶ▶[設定する]

壁紙の変更

1 ホーム画面で[☰]▶[壁紙]

2 データを選ぶ▶[壁紙に設定]

• [ギャラリー]または[コンテンツマネージャー]の場合は、切り取る部分を選び、[トリミング]や[保存]を選択してください。

ページの管理

ページの追加

- ページは最大12ページまで追加できます。

1 ホーム画面でピンチイン▶[＋]

ページの並べ替え

1 ホーム画面でピンチイン▶サムネイルをロングタッチ

2 移動先までドラッグ

ページの削除

1 ホーム画面でピンチイン▶サムネイルをロングタッチ

2 [削除]

- [☒]をタッチしても削除できます。

アプリケーション画面

アプリケーション画面の見かた

アプリケーション画面には、搭載されているアプリケーションがグループごとにアイコンで表示されます。アイコンを選んで、アプリケーションを起動することができます。

- 新しいアプリケーションをインストールすると、アプリケーション画面にアイコンが追加されます。
- アプリケーションをアンインストールするとアイコンが削除されます。

1 アプリタブ
- インストールされているアプリケーションを表示します。

2 グループ名

3 アプリケーションアイコン
- 新しくインストールしたアプリケーションや更新したアプリケーションには[✪]が表示されます。

4 おすすめタブ
- ドコモがおすすめするアプリケーションを表示します。

5 アプリケーション数

- グループをタッチすると、グループ内のアプリケーションアイコンを表示／非表示します。また、アプリケーション画面でピンチアウト／ピンチインすると一括してグループ内のアプリケーションアイコンを表示／非表示します。

アプリケーション一覧

アプリケーションは機能や種類ごとにグループで分類されています。

- 一部のアプリケーションの使用には、別途お申し込み(有料)が必要となるものがあります。
- お買い上げ時にインストールされているアプリケーションは次のとおりです。

ドコモサービス

アイコン	アプリケーション	概　要
	dメニュー	iモードで利用できたコンテンツをはじめ、スマートフォンならではの楽しく便利なコンテンツを簡単に探せる「dメニュー」へのショートカットアプリケーションです(☞P.125)。
	dマーケット	dマーケットを起動するアプリケーションです。dマーケットでは、音楽や動画、書籍などのコンテンツを購入することができます。また、Google Play上のアプリケーションを紹介しています(☞P.125)。
	iチャネル	iチャネルを利用するためのアプリケーションです。
	iコンシェル	iコンシェルを利用するためのアプリケーションです。iコンシェルは、ケータイがまるで「執事」や「コンシェルジュ」のように、あなたの生活をサポートしてくれるサービスです。
	しゃべってコンシェル	「調べたいこと」や「やりたいこと」などを端末に話しかけると、その言葉の意図を読み取り、最適な回答を表示するアプリケーションです。
	ドコモバックアップ	「ケータイデータお預かりサービス」、「電話帳バックアップ」もしくは「SDカードバックアップ」をご利用いただくためのアプリケーションです。電話帳などのデータをバックアップしたり、復元したりすることができます。ドコモバックアップ(microSDカードへ保存)の内容については☞P.163
	docomo Wi-Fiかんたん接続	ドコモの公衆無線LANサービス「docomo Wi-Fi」もしくは自宅のWi-Fi環境を便利に利用するためのアプリケーションです。ウィジェットによりWi-Fiエリア内では、ワンタッチでWi-Fiへの接続／切断ができます。

基本機能／設定

アイコン	アプリケーション	概　要
	電話	電話を利用します（☞P.68）。
	ドコモ電話帳	電話帳を利用します（☞P.75）。
	spモードメール※	ドコモのメールアドレス（@docomo.ne.jp）を利用して、メールの送受信ができます。絵文字、デコメール®の使用が可能で、自動受信にも対応しています（☞P.79）。
	災害用キット	緊急速報「エリアメール」の受信メール確認と各種設定、災害用伝言板にメッセージの登録や確認などができるアプリケーションです。
	取扱説明書※	本端末の取扱説明書です。説明から使いたい機能を直接起動することもできます。
	設定	端末の各種設定をします。 ● ホーム画面で[☰]▶[本体設定]と同様の設定操作ができます。

アイコン	アプリケーション	概　要
	遠隔サポート	「スマートフォンあんしん遠隔サポート」をご利用いただくためのアプリケーションです。「スマートフォンあんしん遠隔サポート」はお客様がお使いの端末の画面を、専用コールセンタースタッフが遠隔で確認しながら、操作のサポートを行うサービスです（☞P.177）。

エンタメ／便利ツール

アイコン	アプリケーション	概　要
	カメラ	カメラを起動します（☞P.140）。
	フォトコレクション※	フォトコレクションを利用するためのアプリケーションです。フォトコレクションは写真・動画の無料ストレージサービスです。
	NOTTV	モバキャスを視聴できます。「NOTTV」などの放送局の番組・コンテンツをお楽しみいただけます（☞P.133）。
	ワンセグ	ワンセグを利用します（☞P.136）。
	メディアプレイヤー	音楽や動画を再生することができるアプリケーションです（☞P.146）。

アイコン	アプリケーション	概　要
	メモ	メモを作成・管理できるアプリケーションです(☞P.155)。i コンシェルサービスに対応しています。
	スケジュール	スケジュールを作成・管理できるアプリケーションです(☞P.154)。i コンシェルサービスに対応しています。
	赤外線	電話帳などのデータを赤外線通信により送受信できるアプリケーションです(☞P.110)。
	ＩＣタグ・バーコードリーダー	ＩＣタグとバーコードを読み取るためのアプリケーションです。
	電卓	電卓を利用します(☞P.156)。
	時計	世界時計(☞P.152)、アラーム(☞P.152)、ストップウォッチ(☞P.154)、タイマー(☞P.154)を利用します。
	おサイフケータイ	おサイフケータイを利用できます(☞P.128)。
	iDアプリ	電子マネーiDを利用するための設定を行うアプリケーションです(☞P.164)。

アイコン	アプリケーション	概　要
	トルカ	トルカの取得・表示・検索・更新などができます(☞P.131)。

AQUOS PHONE

アイコン	アプリケーション	概　要
	おまかせアルバム	画像や動画を人物ごと、イベントごと、場所ごとに振り分けて整理し、利用することができます(☞P.145)。
	モンスターハンターDH	モンスターを狩る「ハンター」となり、1対1でモンスターと戦うゲームです。
	Documents To Go	Documents To Goを利用します。
	メーカーアプリ	シャープのサイトに接続します。
	「書」ノート	スケジュールやノートに手書きでメモを書き込むことができます。
	SHツール	名刺リーダーやバーコードリーダー、辞書、ボイスレコーダーなど、便利な機能を利用することができます(☞P.156)。

Google

アイコン	アプリケーション	概　要
	メール	メールを利用します(☞P.81)。
	Gmail	Gmailを利用します(☞P.83)。
	メッセージ	SMSを利用します(☞P.79)。
	トーク	Googleトークを利用します(☞P.151)。
	ブラウザ	パケット通信やWi-Fi機能による接続でサイトを表示します(☞P.87)。
	Chrome	パケット通信やWi-Fi機能による接続でサイトを表示します。
	検索	クイック検索ボックスを利用します(☞P.49)。
	ダウンロード	サイトからダウンロードした画像などのデータを管理することができます。
	Playストア	Google Playを利用します(☞P.125)。
	YouTube	YouTubeを利用します(☞P.151)。
	Playミュージック	音楽を再生します。
	Playムービー	映画をレンタルしたり、撮影した動画を再生したりすることができます。
	Playブックス	Google Playに接続して電子書籍を購入したり、購入した書籍やサンプルを閲覧したりすることができます。
	Movie Studio	複数の画像や動画を並べて１つの動画として編集することができます。
	ギャラリー	画像を表示します。
	カレンダー	スケジュールを管理します。
	マップ	現在地の測位や目的地までの詳しい移動方法のナビゲーションなどができます(☞P.149)。
	ナビ	現在地から目的地までのルートを検索することができます(☞P.150)。
	ローカル	現在地周辺の施設をジャンル別に検索することができます(☞P.150)。
	Latitude	地図上で友人と位置を確認しあったり、ステータスメッセージを共有したりできます(☞P.151)。

アイコン	アプリケーション	概　要
	Google+	Google+(ストリーム／写真／サークル／メッセンジャー／プロフィールなど)を利用します。
	メッセンジャー	Google+のサークルでグループチャットをすることができます。

※はじめてご利用される際にはアプリケーションをダウンロードする必要があります。アプリケーションのダウンロードには別途パケット通信料がかかります。

- お買い上げ時にインストールされているアプリケーションの中には、アンインストールできるものもあります。アンインストールしたアプリケーションはPlayストアから再度ダウンロードすることができます。

アプリケーションの管理

ホーム画面に追加

1 ホーム画面で[⠿]▶アプリケーションアイコンをロングタッチ

2 [ホームへ追加]

アプリケーションのアンインストール

1 ホーム画面で[⠿]▶アプリケーションアイコンをロングタッチ

2 [アンインストール]▶[OK]▶[OK]

アプリケーションの移動

1 ホーム画面で[⠿]▶アプリケーションアイコンをロングタッチ

2 [移動]▶グループを選ぶ

- アプリケーションアイコンを移動先までドラッグしても移動できます。

グループの管理

グループの追加

- グループは最大50個まで追加できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[☰]▶[グループ追加]

2 グループ名を入力▶[OK]

グループの並べ替え

1 ホーム画面で[⠿]▶グループをロングタッチ

2 移動先までドラッグ

グループ名の編集

1 ホーム画面で[⠿]▶グループをロングタッチ

2 [名称変更]▶グループ名を入力▶[OK]

グループ色の変更

1 ホーム画面で[⠿]▶グループをロングタッチ

2 [ラベル変更]▶色を選ぶ

ホーム画面に追加

1 ホーム画面で[⠿]▶グループをロングタッチ

2 [ホームへ追加]

グループの削除

1 ホーム画面で[⠿]▶グループをロングタッチ

2 [削除]▶[OK]

アプリケーションの検索

1 ホーム画面で[⠿]▶[☰]▶[検索]

- Google検索の確認画面が表示された場合は内容を確認し、[OK]を選択してください。

2 キーワードを入力

3 検索結果を選ぶ

- アプリケーションを起動します。

アプリケーション画面の表示切替

1 ホーム画面で[⠿]▶[☰]▶[リスト形式]／[タイル形式]

おすすめアプリケーションのインストール

アプリケーション画面のおすすめタブには、ドコモがおすすめするアプリケーションが表示されます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[おすすめ]

- はじめてご利用される際には、[おすすめアプリを見る]を選択してください。

2 アプリケーションを選ぶ

- アプリケーションのダウンロード画面を表示します。

- ダウンロードしたアプリケーションは、アプリケーション画面の[ダウンロードアプリ]に分類されます。

アプリケーション情報

1 ホーム画面で[⠿]▶[☰]▶[アプリケーション情報]

電話

電話をかける

1 ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]

2 電話番号を入力

- 同一市内でも、必ず市外局番から入力してください。
- 電話番号の前に「186」/「184」を付けると、その発信に限り番号通知/番号非通知に設定して発信できます。

1 発信
- 電話を発信します。また、発信履歴がある場合、電話番号未入力のときにタッチすると最新の発信履歴が入力されます。

2 削除
- 入力した番号を1文字削除します。

3 発信履歴/着信履歴

4 お気に入り
- お気に入りに設定されている連絡先を表示します。

5 ダイヤル
- ダイヤル画面を表示します。

6 電話帳に登録

7 声の宅配便
- 声の宅配便について、詳細はドコモのホームページをご覧ください。

8 電話帳
- 電話帳を表示します。

3 [📞]

4 通話が終わったら[終了]

プッシュ信号の入力

1 ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]

2 電話番号を入力▶[☰]▶[待機を追加]

3 送信する番号を入力▶[📞]

4 通話中に[はい]

緊急通報

緊急通報	電話番号
警察への通報	110
消防・救急への通報	119
海上での通報	118

- 本端末は、「緊急通報位置通知」に対応しております。
  110番、119番、118番などの緊急通報をかけた場合、発信場所の情報(位置情報)が自動的に警察機関などの緊急通報受理機関に通知されます。お客様の発信場所や電波の受信状況により、緊急通報受理機関が正確な位置を確認できないことがあります。
  なお、「184」を付加してダイヤルするなど、通話ごとに非通知とした場合は、位置情報と電話番号は通知されませんが、緊急通報受理機関が人命の保護などの事由から、必要であると判断した場合は、お客様の設定によらず、機関側が位置情報と電話番号を取得することがあります。
  また、「緊急通報位置通知」の導入地域/導入時期については、各緊急通報受理機関の準備状況により異なります。
- 日本国内ではドコモminiUIMカードを取り付けていない場合やPINコードの入力画面、PINコードロック中、PINロック解除コードの入力画面では緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信できません。
- 端末から110番、119番、118番通報の際は、携帯電話からかけていることと、警察・消防機関側から確認などの電話をする場合があるため、電話番号を伝え、明確に現在地を伝えてください。
  また、通報は途中で通話が切れないように移動せず通報し、通報後はすぐに電源を切らず、10分程度は着信のできる状態にしておいてください。
- かけた地域により、管轄の消防署・警察署に接続されない場合があります。

国際電話(WORLD CALL)

WORLD CALLは国内でドコモの端末からご利用いただける国際電話サービスです。
FOMAサービスをご契約のお客様は、ご契約時にあわせてWORLD CALLもご契約いただいています(ただし、不要のお申し出をされた方を除きます)。

- 世界約240の国・地域にかけられます。海外の一般電話や携帯電話と電話がご利用できます。
- 接続可能な国および海外通信事業者などの情報については、『ご利用ガイドブック(国際サービス編)』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。
- 申込手数料・月額使用料は無料です。
- WORLD CALLの詳細については、裏表紙の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- ドコモ以外の国際電話サービス会社をご利用になるときには、各国際電話サービス会社にお問い合わせください。
- 海外通信事業者によっては発信者番号が通知されないことや正しく表示されない場合があります。この場合、着信履歴を利用して電話をかけることはできません。

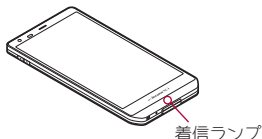
[通話方法]

- 一般電話へかける場合:010 ▶ 国番号 ▶ 地域番号(市外局番) ▶ 相手先電話番号 ▶ [📞]
- 携帯電話へかける場合:010 ▶ 国番号 ▶ 相手先携帯電話番号 ▶ [📞]

・相手先の携帯電話番号、地域番号(市外局番)が「0」から始まる場合は、先頭の「0」を除いてダイヤルしてください(イタリアなど一部の国・地域を除く)。
・「010」の代わりに「+」や従来どおりの「009130-010」でもかけられます。

電話を受ける

1 電話がかかってくると、着信音が鳴り、着信ランプが点滅する

- 着信中に▯／▯を押すと、着信音やバイブレータ、着信ランプの点滅を止めることができます。

2 電話を受ける

- [操作開始]をタッチしてから操作してください。

1 拒否してSMS送信
- 着信を拒否し、選択したメッセージをSMSとして相手に送信することができます。

2 拒否
- 着信を拒否することができます。

3 通話
- 電話を受けることができます。

3 通話が終わったら[終了]

応答保留

1 電話がかかってくると、着信音が鳴り、着信ランプが点滅する

2 [☰]▶[応答保留]

伝言メモで応答

1 電話がかかってくると、着信音が鳴り、着信ランプが点滅する

2 [☰]▶[伝言メモ]

伝言メモの再生

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[通話]

2 [音声・伝言メモ]▶[伝言メモリスト]▶伝言メモを選ぶ

通話中の操作

通話中は利用状況に応じてハンズフリーの利用や通話音量の調節などの操作ができます。

1 通話を追加※
- 通話中の電話を保留にして、別の相手に発信します。

2 終了
- 通話を終了します。

3 ダイヤルキー
- プッシュ信号の入力ができます。

4 保留
- 通話中の電話を保留／保留解除にします。
- 通話を追加している場合は[切り替え]が表示されます。タッチすると通話相手を切り替えることができます。

5 ミュート
- 通話中の電話をミュート／ミュート解除にします。

❻ スピーカー

- ハンズフリーで通話ができます。
- Bluetooth機器を接続している場合、音声の出力先を切り替えることができます。

※キャッチホンのご契約が必要です。

- ハンズフリーで通話するには次の内容にご注意ください。
  - 送話口から約20～40cmが最も通話しやすい距離です。なお、周囲の騒音が大きい場所では、音声が途切れるなど良好な通話ができないことがあります。
  - 屋外や騒音が大きい場所、音の反響が大きい場所で通話を行うときは、イヤホンマイクをご利用ください。
  - ハンズフリー通話中、音が割れて聞き取りにくいときは、通話音量を下げてください。

通話音量調節

1 通話中に／

2 [－]／[＋]

- ／を押しても音量を調節できます。

3 [閉じる]

自局番号確認

1 通話中に[☰]▶[プロフィール参照]

くっきりトークの利用

くっきりトークを[ON]にすると、通話中にアウトマイクを利用して周囲のノイズを低減したり、相手の声を強調したりして通話を明瞭にすることができます。

- 通話開始時、くっきりトークは[OFF]になっています。

1 通話中に／

2 [OFF]／[ON]

3 [閉じる]

- くっきりトークでは通話を明瞭にするために音声を加工処理しています。周囲のノイズ状態や話しかたにより、音声の聞こえかたが異なる場合があります。
- くっきりトークを利用する場合はアウトマイクの穴を塞がないようにして、送話口をできるだけ近づけてお話しください。

発着信履歴

発信履歴／着信履歴が最新の履歴から合わせて50件までシステムメモリに記憶されます。

1 ホーム画面で[⊞]▶[電話]▶[発着信履歴]▶[発信]／[着信]

2 履歴を選ぶ

発信履歴一覧画面

着信履歴一覧画面

1 通常発信
2 相手の名前／電話番号
3 発着信日時
4 ステータスアイコン

(icon)	通知あり発信※
(icon)	通知なし発信※
(icon)	国際電話発信／着信
(icon)	声の宅配便発信

※ 電話番号の前に「186」／「184」を付加した場合、またはダイヤル画面で電話番号を入力して[☰]▶[発信者番号通知]▶[通知する]／[通知しない]で番号通知／番号非通知を設定した場合に表示されます。

5 発信アイコン
- タッチすると発信します。

6 通常着信
7 不在着信

3 [電話をかける]
- SMSの作成・送信：[SMSを送信する]▶SMSを作成・送信
- 声の宅配便の録音：[声の宅配便を録音する]
- 電話帳に登録：[電話帳に登録]▶登録先を選ぶ▶各項目を設定▶[登録完了]

発着信履歴の削除

全件削除

1 発信履歴一覧画面／着信履歴一覧画面で[☰]▶[全件削除]▶[OK]

1件削除

1 発信履歴一覧画面／着信履歴一覧画面で履歴をロングタッチ▶[通話履歴から削除]▶[OK]

通話設定／その他

留守番電話や着信拒否など、通話について設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]▶[☰]▶[通話設定]
- ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[通話]でも通話設定を行うことができます。

2 項目を選ぶ
- ■ ネットワークサービス：ネットワークサービスについては☞P.74
- ■ 着信時キー動作設定：着信時に▯を押したときの動作を設定します。
- ■ クイックサイレント：着信時に端末を裏返して一時的に着信音を停止するか設定します。
- ■ Hello Answer：着信時にコマンドを音声入力して電話に応答するかや応答するためのコマンドを設定します。
- ■ 音声・伝言メモ：音声・伝言メモの再生や設定ができます。伝言メモを設定しておくと、電話に出られないときに端末が応答して伝言を預かることができます。

- ■ 海外設定:海外設定については☞P.170
- ■ 通話詳細設定:通話詳細設定については☞P.74
- ■ 応答拒否SMS:拒否してSMS送信に使用する文章を編集します。
- ■ オープンソースライセンス:オープンソースライセンスを表示します。
- ■ アカウント:インターネット通話のアカウントについて設定します。
- ■ インターネット通話を使用:インターネット通話を使用するか設定します。

[着信時キー動作設定]について

- 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ 応答:着信時に🄰を押すと電話に出ることができます。
  - ■ クイックサイレント:着信時に🄰を押すと一時的に着信音やバイブレータ、着信ランプの点滅を停止できます。

[Hello Answer]について

- クイックサイレントで着信音やバイブレータを停止すると、音声で応答できるようになります。
- 通話中にかかってきた電話に応答するときやイヤホンマイク、Bluetooth機器で応答するときは音声で応答できません。
- 自然な速度でお話しください。次の場合は正しく認識できないことがあります。
  - ■ 周囲の雑音が大きい場合
  - ■ 発声の前後に咳払いなどの雑音が入力された場合
  - ■ 発声が途切れるなど、発声が明瞭でない場合
  - ■ 1音ずつ切って発声するなど、発声が不自然な場合
- 正しく認識できない場合は次のことをお試しください。
  - ■ 発声速度が速すぎないよう注意して発声する
  - ■ 声が小さすぎないようマイクを意識して発声する
  - ■ マイクから5～10cm離れて発声する
- コマンドは5文字以上の言葉を設定すると認識率が向上する場合があります。

[音声・伝言メモ]について

- 伝言メモ／音声メモはそれぞれ10件(1件あたり約60秒)まで録音できます。
- 保存した伝言メモが最大保存件数を超えた場合は、再生済みの古い伝言メモから順に削除されます。伝言メモがすべて未再生のときは電話がかかってきても伝言メモで応答しません。
- 保存した音声メモが最大保存件数を超えた場合は、古い音声メモから順に削除されます。

ネットワークサービス

1 ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]▶[☰]▶[通話設定]▶[ネットワークサービス]

2 項目を選ぶ

- 声の宅配便:声のメッセージを簡単な操作で録音・再生することができます。
- 留守番電話サービス:電話をかけてきた相手に応答メッセージでお答えし、お客様に代わって伝言メッセージをお預かりするサービスです。
- 転送でんわサービス:電話を転送するサービスです。
- キャッチホン:通話中に別の電話がかかってきたときに、現在の通話を保留にして新しい電話に出ることができるサービスです。
- 発信者番号通知:電話をかけるときに、相手の電話機に自分の電話番号を表示させることができます。
- 迷惑電話ストップサービス:いたずら電話などの「迷惑電話」を着信しないように登録することができます。
- 番号通知お願いサービス:電話番号が通知されない電話に対して、番号通知のお願いをガイダンスで応答します。
- 通話中着信設定:通話中にかかってきた電話に対して、事前に設定しておいた方法で対応します。
- 着信通知:着信の情報をSMSでお知らせします。
- 英語ガイダンス:各種ネットワークサービス設定時のガイダンスや、圏外などの音声ガイダンスを英語に設定することができます。
- 遠隔操作設定:留守番電話サービスや転送でんわサービスなどを、プッシュ式の一般電話や公衆電話、ドコモの携帯電話などから操作できるようにします。
- 公共モード(電源OFF)設定:電源をOFFにしている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、自動的に電話を終了します。

通話詳細設定

1 ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]▶[☰]▶[通話設定]▶[通話詳細設定]

2 項目を選ぶ

- サブアドレス設定:電話番号に含まれる「*」をサブアドレスの区切り子にするか設定します。
- プレフィックス設定:プレフィックス番号について設定します。
- 着信拒否:着信拒否について設定します。
  - 指定番号の編集:[指定番号]▶[☰]▶[編集]▶電話番号を編集

[着信拒否]について

- 電話帳登録外を設定している場合でも、シークレット属性を設定した連絡先からは着信します。電話帳に登録した名前は表示されず、電話番号のみが表示されます。

電話帳

電話帳の登録

1 ホーム画面で[ ]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]▶[登録]

- クラウドの利用についての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[利用しない]／[利用する]を選択してください。
- アカウントが複数ある場合は登録するアカウントの選択画面が表示されます。

2 各項目を設定

- 登録できる情報はアカウントの種類によって異なります。

1 画像
- 発着信時や連絡先確認時に表示する画像を登録します。

2 姓、名

3 姓のふりがな、名のふりがな

4 グループ

5 着信音

6 電話番号

7 メールアドレス

8 SNS・ブログ

9 その他
- 住所や所属などの情報を登録します。

10 追加
- 登録する電話番号／メールアドレスなどを追加します。

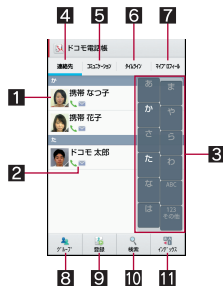
11 削除
- 電話番号／メールアドレスなどを削除します。

3 [登録完了]

電話帳の確認／利用

登録した連絡先を呼び出して電話をかけたり、メールを送信したりできます。

1 ホーム画面で[ ]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 名前を選ぶ

1 画像

- タッチすると連絡先の登録内容に対応するアプリケーションを選んで利用できます。

2 登録内容

- 登録内容がアイコンで表示されます。

3 インデックスバー

- タッチした見出しに移動できます。

4 連絡先

5 コミュニケーション

- 発着信、SMSの送受信、spモードメールの送受信、SNSのメッセージ※の送受信履歴が表示されます。

  ※ クラウドを利用開始の上、マイSNS機能を利用している場合のみ表示されます。

6 タイムライン

- クラウドを利用している場合、マイSNS機能で設定したSNS・ブログのタイムラインなどを表示できます。

7 マイプロフィール

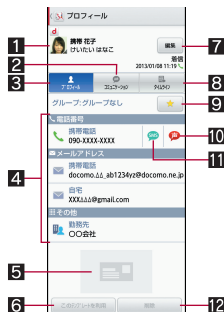
8 グループ

9 登録

10 検索

11 インデックス

- インデックスバーを表示します。

3 登録情報を確認／利用する

1 画像

2 コミュニケーション

3 プロフィール

- 登録内容を表示します。

4 登録内容

- 登録内容を確認／利用できます。

5 名刺

- 名刺交換で受信した名刺を登録すると表示されます。

6 このテンプレートを利用

- 登録してある名刺をテンプレートとして、自分の名刺を作成できます。

7 編集

8 タイムライン

9 お気に入り

- お気に入りに設定します。
- お気に入りに設定した連絡先はグループの[お気に入り]で確認できます。
- ドコモ／Googleアカウントで作成された連絡先に対して設定できます。

⑩ 声の宅配便
- 声の宅配便について、詳細はドコモのホームページをご覧ください。

⑪ SMS

⑫ 削除
- 登録してある名刺を削除します。

表示するアカウントを選択

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 [☰]▶[その他]▶[表示するアカウント]

3 項目を選ぶ
- 表示するアカウントをカスタマイズ:[カスタマイズ...]▶アカウントを選ぶ▶グループを選ぶ▶[OK]

電話帳の削除

全件削除

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 [☰]▶[削除]▶[全選択]▶[削除]▶[OK]

1件削除

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 名前を選ぶ▶[☰]▶[削除]▶[OK]

電話帳の編集

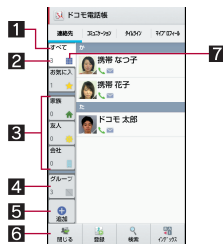
1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]

2 名前を選ぶ▶[編集]

3 各項目を設定▶[登録完了]
- 設定できる各項目の詳細については☞P.75

グループの利用

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]▶[グループ]

2 グループを利用する

1 グループ名

2 グループに登録されている連絡先の数

3 グループ

4 グループなし

5 追加
- グループを追加できます。

6 閉じる
- グループを非表示にします。

7 グループのアイコン

グループへの登録／解除

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]▶[グループ]

2 連絡先をロングタッチ▶グループまでドラッグ

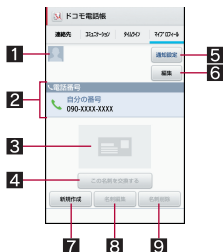
- 登録済みのグループまでドラッグすると、登録を解除できます。

> ● グループはドコモ／Googleアカウントで作成された連絡先に対して利用できます。

マイプロフィール

ドコモminiUIMカードに登録されているお客様の電話番号を表示できます。名前やメールアドレスなどを登録することもできます。

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[マイプロフィール]

2 プロフィールを確認／利用する

1 画像

2 登録内容

3 名刺
- 作成した名刺が表示されます。

4 この名刺を交換する
- 登録した名刺を交換します。

5 通知設定
- フレンド通知設定について設定します。

6 編集

7 新規作成
- 名刺を作成します。
- 名刺の作成には「名刺作成」アプリケーションをダウンロードする必要があります。以降は画面の指示に従って操作してください。

8 名刺編集
- 「名刺作成」アプリケーションで名刺を編集します。

9 名刺削除

マイプロフィールの編集

1 ホーム画面で[⊞]▶[ドコモ電話帳]▶[マイプロフィール]▶[編集]

2 各項目を設定▶[登録完了]

電話帳のバックアップ／復元

ドコモバックアップ（microSDカードへ保存）を利用して電話帳をバックアップ／復元することができます。

- ドコモバックアップ（microSDカードへ保存）については☞P.163

メール／ブラウザ

spモードメール

ｉモードのメールアドレス（@docomo.ne.jp）を利用して、メールの送受信ができます。絵文字、デコメール®の使用が可能で、自動受信にも対応しています。

- spモードメールの詳細については、『ご利用ガイドブック（spモード編）』をご覧ください。

1 ホーム画面で[⊞]▶[spモードメール]

- 以降は画面の指示に従って操作してください。

SMS

電話番号を利用して、他の端末へ全角最大70文字（半角英数字のみの場合は最大160文字）までのテキストメッセージが送受信できます。

- 海外通信事業者のお客様との間でも送受信が可能です。ご利用可能な国・海外通信事業者については、『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

1 ホーム画面で[⊞]▶[メッセージ]

2 [✉]▶宛先、メッセージを入力▶[➤]

- 宛先が海外通信事業者のときは、「＋」、国番号、相手先の携帯電話番号の順で入力します。携帯電話番号が「０」で始まるときは先頭の「０」を除いて入力します。また「010」、国番号、相手先携帯電話番号の順に入力しても送信できます。
- SMSのメッセージに半角カタカナや特殊記号を使うと、受信側で正しく表示されないことがあります。
- 「186」／「184」を付けての送信はできません。

メッセージの表示

1 ホーム画面で[⊞]▶[メッセージ]

2 スレッドを選ぶ

- 宛先／送信元ごとにメッセージをスレッドにまとめて表示します。

1 画像
- 相手の画像を電話帳に登録していると表示されます。タッチすると電話帳の登録内容に対応するアプリケーションを選んで利用できます。電話帳に登録されていない相手の場合は、タッチすると電話帳に登録できます。

2 宛先／送信元

3 スレッド内のメッセージ件数

4 送受信日時

3 メッセージを確認する

1 宛先／送信元
2 電話発信
3 送受信日時
4 メッセージ

メッセージの返信

1 ホーム画面で[ ]▶[メッセージ]
2 スレッドを選ぶ
3 メッセージを入力▶[ ]

メッセージの転送

1 ホーム画面で[ ]▶[メッセージ]
2 スレッドを選ぶ
3 メッセージをロングタッチ▶[転送]▶宛先、メッセージを入力▶[ ]

メッセージの削除

1 ホーム画面で[ ]▶[メッセージ]
2 スレッドを選ぶ
3 メッセージをロングタッチ▶[削除]▶[削除]

スレッドの削除

1 ホーム画面で[ ]▶[メッセージ]
- スレッドの全件削除：[ ]▶[すべてのスレッドを削除]▶[削除]

2 スレッドをロングタッチ▶[ ]▶[削除]

メッセージの設定

1 ホーム画面で[ ]▶[メッセージ]

2 [ ]▶[設定]

3 項目を選ぶ

- ■ 古いメッセージを削除:保存件数が上限に達したとき、古いメッセージを自動的に削除します。
- ■ テキストメッセージの制限件数:スレッドごとに保存するメッセージの件数を設定します。
- ■ 受取確認通知:送信するメッセージの受取確認を毎回通知します。
- ■ SIMカードのメッセージ:ドコモminiUIMカードに保存したメッセージを管理します。
- ■ 通知:メッセージ受信時にステータスバーで通知します。
- ■ 着信音を選択:メッセージ受信時の着信音を設定します。
- ■ バイブレーション:メッセージ受信時のバイブレータの動作を設定します。

[受取確認通知]について

- 他社の携帯電話にメッセージを送信した場合、受取確認通知が届かないことがあります。

Eメール

mopera Uなどのサービスプロバイダが提供するメールアカウントを設定して、メールの送受信ができます。

- あらかじめ、アカウント設定をしておいてください(☞P.53)。

1 ホーム画面で[ ]▶[メール]

2 [ ]

3 メールを作成

- ファイルの添付:[ ]▶[ファイルを添付]▶ファイルを選ぶ

1 宛先
- 電話帳に登録してあるメールアドレスの一部や名前を入力すると、宛先の候補が表示されます。

2 件名

3 本文

4 アカウント

4 [ ]

- 受信側の機種によっては件名をすべて受信できないことがあります。
- Gmailのアカウントで送信したメールは、パソコンからのメールとして扱われます。受信側の機種がパソコンからのメール受信拒否を設定している場合、メールを送信できません。

- 何らかの原因で送信できなかったメールは、未送信メールとして送信トレイに保存されます。
- 電波状況などにより、受信側で文字が正しく表示されないときがあります。

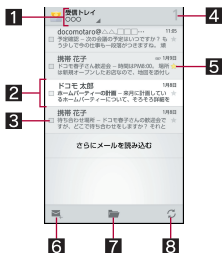
ファイルの添付について

- メール本文と合わせて最大5Mバイトまで添付できます。添付できる個数に制限はありません。
- 受信側の端末によっては、受信できなかったり、正しく表示・再生できなかったりすることがあります。また、動画が粗くなったり、連続静止画に変換されたりすることがあります。

メールの表示

例：mopera Uのアカウントを設定しているとき

1 ホーム画面で[⊞]▶[メール]

2 メールを選ぶ

1 表示中のフォルダ名／アカウント名
- タッチするとフォルダやアカウントを切り替えられます。

2 未読メール
- 既読メールは背景色がグレーになります。

3 チェックボックス
- チェックを付けたメールに一括で削除／未読／既読／スター付きの設定ができます。

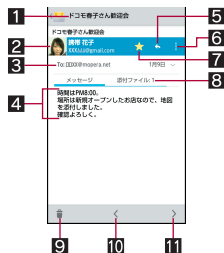
4 未読メール件数

5 スターアイコン
- 特別なメールやあとで対応する必要があるメールの目印として利用できます。
- スターを付けたメールは、スター付きフォルダで確認することができます。

6 メール新規作成

7 すべてのフォルダの表示

8 更新

3 メールを確認する

1 件名

2 送信元
- 画像をタッチすると電話帳の登録内容に対応するアプリケーションを選んで利用できます。電話帳に登録されていない相手の場合は、タッチすると電話帳に登録できます。

3 宛先／受信日時
- タッチすると詳細を表示できます。

4 本文

5 返信

6 全員に返信／転送

7 スターアイコン
- 特別なメールやあとで対応する必要があるメールの目印として利用できます。
- スターを付けたメールは、スター付きフォルダで確認することができます。

8 添付ファイル
- タッチすると添付ファイルを表示できます。

9 削除

10 新しいメールに移動

11 古いメールに移動

メールの返信／転送

1 ホーム画面で[]▶[メール]

2 メールを選ぶ

3 []
- 全員に返信：[]▶[全員に返信]
- 転送：[]▶[転送]

4 メールを作成▶[]

メールの削除

1 ホーム画面で[]▶[メール]
- メールの選択削除：チェックボックスをタッチ▶[]

2 メールを選ぶ

3 []

メールの設定

1 ホーム画面で[]▶[メール]▶[]▶[設定]▶[全般]
- アカウントを選ぶと、署名やメール着信通知など、各アカウントの詳細について設定できます。
- [アカウントを追加]をタッチするとアカウントを追加できます。

2 項目を選ぶ
- ■ 自動表示：メールを削除したあとに表示する画面を設定します。
- ■ メッセージの文字サイズ：メールの文字サイズを設定します。
- ■ 全員に返信：メールを返信する際に全員に返信するか設定します。
- ■ 画像の自動表示を解除：メールに添付された画像を自動的に表示する設定を解除します。

Gmail

Gmailは、Googleのメールサービスです。
- あらかじめ、Googleアカウントの設定をしておいてください（☞P.53）。

1 ホーム画面で[]▶[Gmail]

2 []

3 メールを作成

1 宛先
- 電話帳に登録してあるメールアドレスの一部や名前を入力すると、宛先の候補が表示されます。

2 件名

3 本文

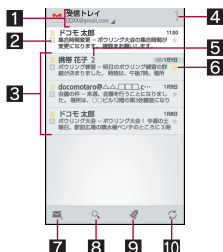
4 アカウント
- 複数のアカウントを設定している場合、アカウントを切り替えられます。

4 [➤]

メールの表示

1 **ホーム画面で[⠿]▶[Gmail]**

2 **スレッドを選ぶ**

- Gmailでは、返信ごとにメールをスレッドにまとめて表示します。新着メールが既存のメールへの返信メールであれば、それらは同じスレッドにまとめられます。新規のメールや件名を変更したメールについては、新しいスレッドが作成されます。

1 表示中のラベル名／アカウント名
- タッチすると表示種別やアカウントを切り替えられます。

2 チェックボックス
- チェックを付けたメールに一括でアーカイブ／削除／ラベル／未読／既読／スター付きなどの設定ができます。

3 未読メールがないスレッド
- 背景色がグレーで表示されます。

4 未読スレッド件数

5 スレッド内のメール件数

6 スターアイコン
- 特別なメールやあとで対応する必要があるメールの目印として利用できます。
- スターを付けたメールは、スター付きフォルダで確認することができます。

7 メール新規作成

8 メール検索

9 すべてのラベルの表示

10 更新

3 **メールを確認する**

1 件名

2 送信元
- 画像をタッチすると電話帳の登録内容に対応するアプリケーションを選んで利用できます。電話帳に登録されていない相手の場合は、タッチすると電話帳に登録できます。

3 宛先／受信日時
- タッチすると詳細を表示できます。

4 添付ファイル

5 本文

6 既読メール
- スレッド内に複数のメールがある場合、タッチすると既読メールの送信者、最初の1行などが表示され、既読メールを確認できます。

7 全員に返信／転送

8 返信

9 スターアイコン
- 特別なメールやあとで対応する必要があるメールの目印として利用できます。
- スターを付けたメールは、スター付きフォルダで確認することができます。

10 アーカイブ

11 削除

12 ラベルを変更

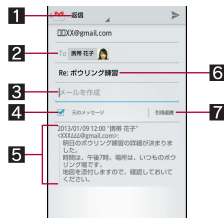
13 未読にする

メールの返信／転送

1 ホーム画面で[⠿]▶[Gmail]

2 スレッドを選ぶ

3 [↩]
- 全員に返信：[⋮]▶[全員に返信]
- 転送：[⋮]▶[転送]

4 メールを作成

1 返信種別
- タッチすると返信／全員に返信／転送を切り替えられます。

2 宛先

3 本文

4 元のメッセージ
- タッチすると、送信元のメールの表示／非表示を切り替えられます。
- 転送のときは操作できません。

5 送信元のメール

6 件名

7 引用返信
- 送信元のメールを本文に入力します。

5 [➤]

スレッドの削除

1 ホーム画面で[⊞]▶[Gmail]

- スレッドの選択削除:チェックボックスをタッチ▶[🗑]

2 スレッドを選ぶ

3 [🗑]

Gmailの設定

1 ホーム画面で[⊞]▶[Gmail]▶[☰]▶[設定]

2 項目を選ぶ

■ 全般設定:Gmail全般について設定します。

■ Gmailについて:Gmailのバージョンを表示します。

- アカウントを選ぶと、署名やメール着信通知など、各アカウントの詳細について設定できます。
- [アカウントを追加]をタッチするとアカウントを追加できます。

緊急速報「エリアメール」

緊急速報「エリアメール」の受信と、受信したエリアメールの確認ができるアプリケーションです。

- エリアメールとは、気象庁が配信する緊急地震速報などを受信できるサービスです。
- エリアメールが送られてきたときは自動的に受信し、スリープモード中や画面ロック設定中にかかわらず内容を表示します。
- 端末の状態によっては、受信できないことや自動表示しないことがあります。
  - 次の場合は、受信できません。
    - ■ 通話中
    - ■ 電源OFF時
    - ■ 圏外時
    - ■ 国際ローミング中
    - ■ 機内モード中
  - 次の場合は、受信しないことがあります。
    - ■ パケット通信中
    - ■ Wi-Fiテザリング中
    - ■ USBテザリング中
    - ■ ソフトウェア更新中
    - ■ OSバージョンアップ中
  - 次の場合は、受信しても自動表示しないことがあります。
    - ■ パケット通信中
    - ■ ソフトウェア更新中
    - ■ OSバージョンアップ中
- エリアメールはお申し込みが不要の無料サービスです。

1 エリアメールを自動的に受信

2 受信すると専用ブザー音または専用着信音が鳴り、エリアメールの本文が表示される

受信したエリアメールをあとで確認する

1 ステータスバーを下にドラッグ ▶ 受信したエリアメールを選ぶ

- ホーム画面で[ ] ▶ [災害用キット] ▶ [緊急速報「エリアメール」]でも確認できます。

- mopera U、ビジネスmoperaインターネット（URL制限）およびspモードを契約しなくても、エリアメールの受信ができます。
- 受信できなかったエリアメールを再度受信することはできません。
- エリアメールは50件まで保存できます。
- システムメモリに保存したエリアメールが最大保存件数を超えた場合は、受信日時が古いメールから順に削除されます。

緊急速報「エリアメール」の設定

エリアメールを受信するかどうかや、受信時の動作などを設定します。

1 ホーム画面で[ ] ▶ [災害用キット] ▶ [緊急速報「エリアメール」]

2 [ ] ▶ [設定] ▶ 項目を選ぶ

- ■ 受信設定：エリアメールを受信するか設定します。
- ■ 着信音：鳴動時間、マナーモード中の動作について設定します。
- ■ 受信画面および着信音確認：受信画面および着信音を確認できます。
- ■ その他の設定：緊急地震速報、津波警報、災害・避難情報のほかに、利用するエリアメールを設定します。

- 緊急地震速報のブザー音や津波警報、災害・避難情報の専用着信音、着信音量、バイブレータの設定は変更できません。

ブラウザ

サイトの表示

本端末では、パケット通信やWi-Fi機能による接続でサイトを表示できます。

1 ホーム画面で[ ] ▶ [ブラウザ]

- サイトによっては、正しく表示されない場合があります。

サイトの検索

1 URL入力欄をタッチ

- URL入力欄が非表示の場合は、ブラウザ画面を下にスライドしてください。

2 キーワードを入力

- 入力した文字を含むキーワードを一覧表示します。

3 キーワードを選ぶ

- キーワードを最後まで入力して[実行]でも検索できます。

新しいタブを開く

1 ブラウザ画面で[ ] ▶ [ ]

タブの切替

1 ブラウザ画面で[ ]

2 タブを選ぶ

シークレットタブを開く

● シークレットタブで表示中は画面左上に[ ]が表示されます。

1 ブラウザ画面で[ ]▶[ ]▶[新しいシークレットタブ]

2 URL入力欄をタッチ▶キーワードを入力▶キーワードを選ぶ

ページ内の文字の検索

1 ブラウザ画面で[ ]▶[ページ内を検索]

2 検索する

1 検索終了

2 キーワード入力欄

● 検索するキーワードを入力します。

3 前へ

4 次へ

文字のコピー

1 ブラウザ画面で[ ]▶[テキストコピー]

2 始点から終点までドラッグ

• コピー範囲の変更：[ ]／[ ]をドラッグ

3 [コピー]

便利な機能

リンクを新しいタブで表示したり、画像などをダウンロードしたりできます。

1 ブラウザ画面でリンク／画像をロングタッチ

2 利用する機能を選ぶ

ブラウザの再読み込み

1 ブラウザ画面で[ ]▶[再読み込み]

ブラウザの終了

1 ブラウザ画面で[ ]▶[ブラウザ終了]

ブラウザの設定

1 ブラウザ画面で[☰]▶[設定]

2 項目を選ぶ

- ■ 全体設定：ブラウザ全体にかかわる機能について設定します。
- ■ プライバシーとセキュリティ：キャッシュやCookieなどのプライバシーやセキュリティについて設定します。
- ■ ユーザー補助：文字サイズやズームなどの画面表示について設定します。
- ■ 高度な設定：ブラウザの詳細について設定します。
- ■ 帯域幅の管理：サイトの読み込みについて設定します。
- ■ クイック操作・Labs：クイックツールボックス、クイックコントロール、全画面表示について設定します。

ブックマークや履歴、保存したページの利用

ブックマークの登録

1 ブラウザ画面で[☰]▶[ブックマークへ登録]

2 [OK]

ブックマークからのサイト表示

1 ブラウザ画面で[☰]▶[ブックマーク一覧]

2 ブックマークを選ぶ

履歴からのサイト表示

1 ブラウザ画面で[☰]▶[ブックマーク一覧]▶[履歴]

2 履歴を選ぶ

ページの保存

1 ブラウザ画面で[☰]▶[ページを保存]

保存したページの表示

1 ブラウザ画面で[☰]▶[ブックマーク一覧]▶[保存したページ]

2 保存したページを選ぶ

本体設定

設定メニュー

ホーム画面で[⊞]▶[設定]で表示されるメニューから、端末の各種設定を行うことができます。

プロフィール	ドコモminiUIMカードに登録されているお客様の電話番号を表示できます。名前やメールアドレスなどを登録することもできます。
音・バイブ・ランプ	マナーモードや着信音などについて設定します。
壁紙・画面設定	画面表示などについて設定します。
音声ランチャー設定	音声ランチャーについて設定します。
省エネ設定	エコ技設定を起動します。
microSDと端末容量	microSDカードまたは端末の空き容量の確認や、バックアップの管理などができます。
電池	電池残量や電池消費量の変化などを、視覚的に確認できます。
通話	留守番電話や着信拒否など、通話について設定します。
ロック画面・ホーム切替	利用するロック解除画面やホームアプリを切り替えます。
クイックツールボックスEX	端末を左右に2回振ってクイックツールボックスEXを表示するか設定します。
MediaJet	パソコンにMediaJetをインストールして、端末とパソコンとの間で音楽データ／動画／静止画を転送することができます。
チャージング機能	充電を開始すると起動する機能について設定します。
歩数計	ユーザー情報の登録など歩数計について設定します。
アプリ	アプリケーションの名前やバージョン、メモリの使用状況などの確認、microSDカードへの移動、有効／無効の設定、アンインストールなどができます。
Wi-Fi	Wi-Fi機能について設定します。
ワイヤレス出力	端末とワイヤレス接続機能付きテレビを接続すると、端末と同じ画面をテレビに表示することができます。
Bluetooth	端末とBluetooth機器をワイヤレスで接続できます。
FMトランスミッタ	FMトランスミッタについて設定します。
データ使用	データ通信量を測定し、グラフで表示します。
ネットワーク設定	Wi-FiテザリングやWi-Fiアクセスポイントなど、通信について設定します。
ドコモサービス	ドコモサービスの設定を行います。
アカウントと同期	端末とオンラインサービスとの間でデータを同期させることができます。
位置情報サービス	位置情報の取得方法について設定します。
ロックとセキュリティ	セキュリティロックについて設定します。
言語と文字入力	画面に表示される言語や、文字入力、テキスト読み上げなどについて設定します。
バックアップとリセット	オールリセットやデータの移行を行います。
外部接続	端末をmicroUSB接続ケーブル 01(別売)でパソコンに接続して利用するときの設定を変更します。
日付と時刻	日時の設定や日時の表示形式について設定します。

ユーザー補助	ユーザー補助オプションについて設定します。
開発者向けオプション	アプリケーションを開発する際に使用する設定やデバッグ機能などを利用するか設定します。
セルフチェック	端末のセルフチェックを行ったり、セルフチェックの履歴を表示したりすることができます。
端末情報	端末情報の確認ができます。
初期設定	初期設定を変更できます。

プロフィール

ドコモminiUIMカードに登録されているお客様の電話番号を表示できます。名前やメールアドレスなどを登録することもできます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[プロフィール]

2 [編集]▶各項目を設定▶[登録完了]

音・バイブ・ランプ

マナーモードや着信音などについて設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[音・バイブ・ランプ]

2 項目を選ぶ

- ■マナーモード設定：マナーモード設定については☞P.91
- ■音量：メディア再生音や着信音などの音量を設定します。
- ■電話着信：着信時の動作について設定します。
- ■お知らせ：お知らせ受信時の動作について設定します。
- ■ダイヤルパッド操作音：ダイヤル音の有無を設定します。
- ■タッチ操作音：メニューなどをタッチしたときの操作音の有無を設定します。
- ■画面ロックの音：タッチパネルのロック／ロック解除時の音の有無を設定します。
- ■タッチ操作バイブ：特定のキー操作時などにバイブレータを動作させるか設定します。
- ■充電開始音：充電開始時に音を鳴らすか設定します。

マナーモード設定

公共の場所などで、端末の音を周囲に出さないように設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[音・バイブ・ランプ]▶[マナーモード設定]

- ●[⏻](1秒以上)▶[🚗]／[🔇]／[☺]／[🔊]でもマナーモードを設定／解除できます。

2 マナーモードの種類を選ぶ

- ■通常マナー：着信音や操作音は鳴らず、着信時などはバイブレータが動作します。伝言メモ設定が[マナーモード連動]に設定されているときは、伝言メモが有効になり、伝言メモの設定に従って動作します。
- ■ドライブマナー：着信音や操作音は鳴らず、着信時などはバイブレータも動作しません。伝言メモが有効になり、応答メッセージ設定が[ドライブ]で動作します。
- ■サイレントマナー：着信音や操作音は鳴らず、着信時などはバイブレータも動作しません。伝言メモ設定が[マナーモード連動]に設定されているときは、伝言メモが有効になり、伝言メモの設定に従って動作します。
- ■OFF：マナーモードを解除します。

- マナーモード設定中も、次の音は鳴ります。
  - ■ カメラのシャッター音
  - ■ ビデオカメラの撮影開始音／停止音
  - ■ ボイスレコーダーの録音開始音／停止音
- マナーモード設定中は、[▲]／[▼]を押しても着信音量を変更できません。

壁紙・画面設定

画面表示などについて設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[壁紙・画面設定]

2 項目を選ぶ

- ■ 壁紙：ホーム画面の画像を設定します。
- ■ ウェルカムシート（ロック画面）：タッチパネルのロック時の画像を設定します。
- ■ 画面の明るさ：画面の明るさについては☞P.93
- ■ バックライト点灯時間：バックライトの点灯時間を設定します。
- ■ Bright Keep：端末を手に持っているときはスリープモードにならないように設定します。
- ■ 画質モード：画質について設定します。
- ■ 画面の自動回転：端末を左右に90度回転させたとき、画面の縦／横表示を切り替えるか設定します。
- ■ 文字サイズ：文字サイズを設定します。
- ■ 文字フォント切替：Google Playなどでダウンロードしたフォントやあらかじめ登録されているフォントを設定します。
- ■ ベールビュー：周りの人からディスプレイを見えにくくします。

[ウェルカムシート（ロック画面）]について

- ロック画面・ホーム一括切替で[Feel UX]を選択した場合のみ設定できます。

[バックライト点灯時間]について

- 点灯時間を長くすると、連続待受時間が短くなりますので、ご注意ください。

[Bright Keep]について

- 端末の静止状態が続いた場合や、一定時間何も操作していない場合はスリープモードになる場合があります。

[画面の自動回転]について

- 利用中のアプリケーションによっては、設定に従わない場合があります。

[文字サイズ]、[文字フォント切替]について

- Google Playなどでダウンロードしたアプリケーションを起動したときに、正しく表示されない場合があります。

[ベールビュー]について

- 周りの人から見えにくくする効果は、選択したパターンによってそれぞれ異なります。
- 濃度は[濃い]、[普通]、[薄い]の順で周りの人から見えにくくする効果があります。
- 電源を切ると[ベールビュー]が無効になります。

画面の明るさ

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[壁紙・画面設定]▶[画面の明るさ]

2 項目を選ぶ

■ アウトドアビュー：明るい場所でバックライトの明るさを調整するか設定します。
■ 明るさを自動調整：バックライトの明るさを自動で調整するか設定します。自動で調整を行わない場合は、手動で明るさを設定してください。
■ エコバックライトコントロール：画質調整を効率良く行うことで、バックライトの消費電力を抑えます。

3 [OK]

[明るさを自動調整]について

- 画面の明るさを上げると、連続待受時間が短くなりますので、ご注意ください。

[エコバックライトコントロール]について

- 画質調整により、色味が変わる場合があります。

音声ランチャー設定

音声ランチャーについて設定します。

- 音声ランチャーの利用については☞P.41

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[音声ランチャー設定]

2 設定を選ぶ

■ はじめに（使い方の説明）：音声ランチャーの使いかたを確認したり、タップの練習をしたりすることができます。
■ ON／OFF設定：音声ランチャーを使用するか設定します。
■ 音声コマンドの設定：音声ランチャーで起動するアプリケーションや起動するためのコマンドを設定します。
■ 音声認識の開始・完了音：音声ランチャー使用時の開始音、完了音について設定します。
■ 音声ロック解除：音声でタッチパネルのロックを解除するための音声キーワードの登録やリセットを行ったり、音声ロック解除についての説明を表示したりすることができます。
■ ダブルタップの練習：タップの練習をすることができます。
■ ダブルタップ感度の設定：端末の背面を2回タップしたときの感度を設定します。

[音声コマンドの設定]について

- コマンドは5文字以上の言葉を設定すると認識率が向上する場合があります。

省エネ設定

エコ技設定を起動します。利用するモードを設定したり、電池残量や時刻でモードを切り替えるよう設定したりすることができます。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[省エネ設定]

2 設定する

1 設定中
- 設定されているモードに表示されます。

2 編集
- Wi-Fi機能やBluetooth機能、GPS機能の利用など、省エネさせる機能を個別に設定します。

3 ecoレベル
- 省エネの効果を表します。

4 電池残量グラフ
- 時刻ごとの電池残量がグラフで表示されます。

5 モード
- 設定できるモードは次のとおりです。
  - ■ 標準：お好みの内容に設定を変更できます。
  - ■ 技あり：電池の消費を抑えながら、快適に使用できます。
  - ■ お助け：電池の消費を極力抑えます。

6 確認
- モードの詳細を確認します。

7 電池残量
- 指定した電池残量になったとき、指定したモードに切り替わるよう設定できます。

8 切替時刻
- 指定した時刻になったとき、指定したモードに切り替わるよう設定できます。

- [電池残量]の設定によってモードが切り替わっている場合、切替時刻で設定した時刻になってもモードは切り替わりません。
- [電池残量]の回復時切替は、消耗時切替によりモードが切り替わった場合のみ動作します。また、一度消耗時切替によりモードが切り替わった場合、回復時切替によりモードが切り替わらない限り再度消耗時切替は動作しません。
  ただし、次の場合は状態がリセットされます。
  - ■ 電池残量指定の有効／無効を切り替えた場合
  - ■ 手動でモードを変更した場合
  - ■ 切替電池残量の設定を変更した場合
- 省エネ待受を[ON]にすると、スリープモード中にバックグラウンドで動作するアプリケーションを制御します。技ありモードでは、編集画面で省エネ待受の[❓]をタッチすると、制御したいアプリケーションを個別に設定することができます。

- 定期的に通信するアプリケーションは、省エネ待受を[OFF]にしていても通信を開始しない場合があります。その場合は該当のアプリケーションで再度設定を行ってください。
- 省エネWi-Fiを[ON]にすると、アプリケーションによっては相手機器と正常に接続できなくなる場合があります。

microSDと端末容量

microSDカードまたは端末の空き容量の確認や、バックアップの管理などができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[microSDと端末容量]

2 項目を選ぶ

- ■ 本体内データを消去:本体メモリを初期化します。
- ■ microSDをマウント/microSDのマウント解除:microSDカードをマウント/マウント解除します。
- ■ microSDバックアップ:microSDバックアップについては☞P.162
- ■ microSD内データを消去:microSDカードを初期化します。
- ■ 優先インストール先:アプリケーションの優先インストール先を設定します。

- 端末の電源を入れると、microSDカードの着脱に関しての注意事項が毎回表示されます。

[microSDをマウント]、[microSDのマウント解除]について

- microSDカードの取り付け/取り外しは、microSDカードをマウント解除し、電源を切ってから行ってください。

[microSD内データを消去]について

- 初期化を行うと、microSDカードの内容がすべて消去されますのでご注意ください。

電池

電池残量や電池消費量の変化などを、視覚的に確認できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[電池]

- 電池使用履歴の詳細を表示:[電池使用時間]

ロック画面・ホーム切替

利用するロック解除画面やホームアプリを切り替えます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ロック画面・ホーム切替]

2 項目を選ぶ

- ■ ロック画面・ホーム一括切替:ロック解除画面とホームアプリを切り替えます。
- ■ ホーム切替:ホームアプリを切り替えます。

クイックツールボックスEX

端末を左右に2回振ってクイックツールボックスEXを表示するか設定します。

- クイックツールボックスEXの利用については☞P.42

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[クイックツールボックスEX]

2 [OFF]を右にスライド

チャージング機能

充電を開始すると起動する機能について設定します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[チャージング機能]

2 [OFF]を右にスライド

3 項目を選ぶ

■ドックトゥプレイ:充電を開始するとNOTTVやYouTubeなどの最新情報を表示します。

■チャージングシアター:充電を開始するとスライドショーを表示します。

• [⚙]をタッチすると各項目の詳細を設定できます。

● 次の場合に充電を開始するとドックトゥプレイ／チャージングシアターが起動します。

■ホーム画面表示中(スリープモード中を含む)

■アプリケーション画面表示中(スリープモード中を含む)

歩数計

ユーザー情報の登録など歩数計について設定します。

● [歩数計ON]を有効にするには、あらかじめユーザー情報を登録しておいてください。

● 歩数計の利用については☞P.157

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[歩数計]

2 項目を選ぶ

■歩数計ON:歩数計を利用するか設定します。

■ユーザー情報:身長や体重、歩幅を登録します。

■歩数計リセット時刻設定:歩数計をリセットする時刻を設定します。

● [歩数計ON]を有効にすると、電源がONになっている間は常に歩数がカウントされます。

● 歩数計の表示は、1日に一度歩数計リセット時刻設定で設定した時刻にリセットされます。

アプリ

アプリケーションの名前やバージョン、メモリの使用状況などの確認、microSDカードへの移動、有効／無効の設定、アンインストールなどができます。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[アプリ]

2 アプリケーションを選ぶ

アプリケーションの無効

アプリケーションの動作を停止し、アンインストールせずにアプリケーション画面に表示しないように設定します。

- アンインストールできないアプリケーションを無効にできます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[アプリ]

2 アプリケーションを選ぶ▶[無効にする]▶[OK]

- アプリケーションを無効にすると、無効にされたアプリケーションと連携している他のアプリケーションが正しく動作しない場合があります。その場合は、アプリケーションを有効にしてください。

アプリケーションの有効

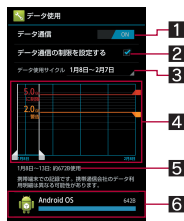
1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[アプリ]

2 アプリケーションを選ぶ▶[有効にする]

データ使用

データ通信量を測定し、グラフで表示します。また、設定した通信量に達したときに警告を表示したり、それ以上データ通信を行わないように設定したりすることができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[データ使用]

2 データ通信量を確認する

1 データ通信
- データ通信を利用するか設定します。

2 データ通信の制限を設定する
- データ通信量に制限を設け、制限値に達した場合にデータ通信を停止します。
  - ・データ使用画面で[☰]▶[バックグラウンド制限]▶[OK]でバックグラウンドで動作しているアプリケーションのデータ通信も制限できます。

3 データ使用サイクル
- データ通信量の表示をリセットする日を設定します。

4 グラフ
- データ通信量を表示します。
- 警告ラインや制限ラインを設定することができます。

5 指定期間内のデータ通信量

6 データ通信を使用したアプリケーション

ネットワーク設定

Wi-FiテザリングやWi-Fiアクセスポイントなど、通信について設定します。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ネットワーク設定]

2 項目を選ぶ

- 機内モード：電話やメールなど、通信を利用する一部の機能を使用できないようにします。
- テザリング：テザリングについては☞P.52
- NFC／おサイフケータイ 設定：NFC／おサイフケータイ 設定については☞P.130
- Wi-Fi Direct：Wi-Fi Directを利用するか設定します。
- ホームネットワーク設定：ホームネットワーク設定については☞P.122
- VPN設定：VPN設定については☞P.123
- モバイルネットワーク：モバイルネットワークについては☞P.167

[機内モード]について

- [SIMカードをロック]が有効の場合は、緊急通報番号（110番、119番、118番）に発信できません。[SIMカードをロック]が無効の場合は、機内モード中でも緊急通報番号（110番、119番、118番）に発信できます。緊急通報番号をダイヤルすると、[機内モード]が無効になり、発信を行います。
- [機内モード]が有効の場合でも、Wi-FiやBluetooth機能を[ON]にすることができます。

ドコモサービス

ドコモサービスの設定を行います。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ドコモサービス]

2 項目を選ぶ

- アプリケーション管理：アプリケーションのアップデートの確認などについて設定します。
- ドコモアプリWi-Fi利用設定：Wi-Fi機能を利用してドコモサービスを利用するための設定を行います。
- ドコモアプリパスワード：ドコモが提供するアプリケーションで利用するパスワードを設定します。
- オートGPS：オートGPSについて設定します。
- ドコモ位置情報：位置情報サービス機能について設定します。
- docomo Wi-Fiかんたん接続：docomo Wi-Fiや自宅のWi-Fiについて設定します。
- データ量確認アプリ：「データ量確認アプリ」アプリケーションを起動します。
- オープンソースライセンス：オープンソースライセンスを表示します。

[ドコモアプリパスワード]について

- ドコモアプリパスワードは、お買い上げ時は[0000]に設定されています。

アカウントと同期

端末とオンラインサービスとの間でデータを同期させることができます。データを同期させると、端末やパソコンからオンラインサービス上の同じ個人情報にアクセスし、データを利用・更新することができます。

- アカウントと同期を[ON]にするとすべてのアプリケーションが自動的にデータの同期を行うことを許可します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[アカウントと同期]

2 [OFF]を右にスライド

- アカウントの追加については☞P.53

- システムメモリの電話帳とオンラインサービス上の連絡先を同期する場合、Googleアカウント以外と同期する場合でも、最初にGoogleアカウントを登録してください。

位置情報サービス

位置情報の取得方法について設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[位置情報サービス]

2 項目を選ぶ

- ■ Googleの位置情報：Wi-Fiのアクセスポイントや携帯電話の基地局を利用して位置情報を測位します。
- ■ GPS機能を使用：GPS衛星を利用して位置情報を測位します。

- 現在地を測位するためには、位置情報サービス([Googleの位置情報]もしくは[GPS機能を使用])を有効にする必要があります。

[GPS機能を使用]について

- 端末の消費電力が増加しますので、あらかじめご了承ください。

ロックとセキュリティ

セキュリティロックについて設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ロックとセキュリティ]

2 項目を選ぶ

- ■ 画面のロック：電源を入れたときやスリープモードを解除したときのタッチパネルのロック解除方法について設定します。
- ■ NFCでの画面ロック解除設定：NFCでの画面ロック解除について設定します。
- ■ 所有者情報：タッチパネルのロック解除画面に表示する所有者情報について設定します。
- ■ アプリケーションロック：アプリケーションロックについては☞P.101
- ■ シークレット設定：シークレット設定については☞P.101
- ■ 電話帳アクセスモニター：電話帳の情報を使用するアプリケーションやサービスを制限することができます。
- ■ SIMカードロック設定：SIMカードロック設定については☞P.103
- ■ パスワードを表示：PINコードなどを入力する際、[･]が表示される前に入力した文字を表示させることができます。
- ■ デバイス管理機能：デバイス管理者にデバイス管理権限を与えるかどうか設定します。

- ■ 提供元不明のアプリ:Google Play以外のサイトやメールなどから入手したアプリケーションのインストールを許可します。
- ■ 安全な認証情報の使用:安全な証明書とその他の認証情報へのアクセスを許可します。
- ■ microSDからインストール:暗号化された証明書をmicroSDカードからインストールします。
- ■ 認証ストレージの消去:すべての認証情報を削除します。

[画面のロック]について

- ● Googleアカウントを設定している場合、画面ロック一時解除時にパターンの入力に5回失敗すると、[パターンを忘れた場合]が表示されます。Googleアカウントでログインしてロックを一時解除し、新しいパターンを入力し直してください。
- ● 設定できる項目は次のとおりです。
  - ■ なし:タッチパネルのロック解除画面を表示しません。
  - ■ スライドまたはタッチ:[🔒]をタッチしてロックを解除するように設定します。ロック解除画面を切り替えたときは[🔓]をスライドしてロックを解除します。
  - ■ 顔認証(フェイスアンロック):顔認識機能を利用してロック解除をするように設定します。
  - ■ パターン:4つ以上の点を結ぶパターンを設定します。
  - ■ ロックNo.:4～16桁の数字を設定します。
  - ■ パスワード:英字1文字以上を含んだ、4～16桁の英数字と記号を設定します。
- ● 画面のロックの設定によって、ロックとセキュリティの次の項目が表示/非表示になります。
  - ■ 顔認識の精度を改善:顔認証(フェイスアンロック)する場合の顔を読み込み直します。
  - ■ パターンを表示する:パターンの入力時の軌跡を線で表示します。
  - ■ 自動ロック:タッチパネルがロックされるまでの時間を設定します。
  - ■ 電源キーですぐにロックする:[⏻]を押してスリープモードにしたときに、自動ロックで設定した時間にかかわらずタッチパネルをロックするか設定します。
  - ■ タッチ操作バイブ:ロックNo.入力時などにバイブレータを動作させるか設定します。
  - ■ 所有者情報:タッチパネルのロック解除画面に表示する所有者情報について設定します。

[提供元不明のアプリ]について

- ● サイトからダウンロードするアプリケーションは情報源が不明な場合もあります。端末と個人データを保護するため、Google Playなど信頼できる情報源からのアプリケーションのみダウンロードしてください。

アプリケーションロック

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ロックとセキュリティ]▶[アプリケーションロック]

2 暗証番号を入力▶[OK]

3 項目を選ぶ

- ■ 音声発信制限:電話発信できないようにします。
- ■ パターンを表示する:指リストの入力時の軌跡を線で表示します。
- ■ 入力時バイブ:指リスト、暗証番号、パスワードの入力時にバイブレータを動作させます。
- ■ セキュリティキー変更:セキュリティキー変更については☞P.103

- 各制限を設定している場合、一時解除するにはセキュリティキーの入力が必要になります。

[音声発信制限]について

- 音声発信制限を設定中でも、緊急通報番号(110番、119番、118番)へは発信できます。

シークレット設定

電話帳の連絡先にシークレット属性を設定し、電話帳や発信履歴/着信履歴などに表示させないようにすることができます。

- シークレットモードを一時解除すると、通常の連絡先とシークレット属性設定した連絡先の両方が表示されます。
- シークレットモード一時解除中にスリープモードになると、シークレットモードになります。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ロックとセキュリティ]▶[シークレット設定]

2 暗証番号を入力▶[OK]

- シークレットモードが一時解除されます。

3 項目を選ぶ

- ■ 連絡先シークレット設定:電話帳の連絡先にシークレット属性を設定します。
- ■ シークレットモード一時解除の設定:シークレットモード一時解除について設定します。
- ■ 使い方ガイド:シークレットモード一時解除の方法やシークレット設定した電話帳の連絡先についての説明を表示します。

シークレットモードの一時解除

1 ステータスバーを下にドラッグ

2 [🔧]をロングタッチ

3 暗証番号を入力▶[OK]

端末で利用する暗証番号

端末には、便利にお使いいただくための各種機能に、暗証番号の必要なものがあります。各種端末操作用の暗証番号のほかに、ネットワークサービスでお使いになるネットワーク暗証番号などがあります。用途ごとに上手に使い分けて、端末を活用してください。

- 各種機能用の暗証番号、PINコード入力時は、[・]で表示されます。

各種暗証番号に関するご注意

- 設定する暗証番号は「生年月日」、「電話番号の一部」、「所在地番号や部屋番号」、「1111」、「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一、暗証番号が他人に知られ悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、契約者ご本人であることが確認できる書類(運転免許証など)や端末、ドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。
  詳しくは裏表紙の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コードは、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書(お客様控え)に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、契約者ご本人であることが確認できる書類(運転免許証など)とドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、裏表紙の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

セキュリティキー(各種機能用の暗証番号)

セキュリティキーは、お買い上げ時は暗証番号[0000]に設定されていますが、お客様ご自身で変更できます(☞P.103)。

- セキュリティキーの入力を、5回連続して間違えると30秒間入力ができません。

ネットワーク暗証番号

ドコモショップまたはドコモ インフォメーションセンターでのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字4桁の番号です。ご契約時に任意の番号を設定いただきますが、お客様ご自身で番号を変更できます。

パソコン向け総合サポートサイト「My docomo」の「docomo ID/パスワード」をお持ちの方は、パソコンから新しいネットワーク暗証番号への変更手続きができます。なお、dメニューからはホーム画面で[⋮⋮]▶[dメニュー]▶[お客様サポート]▶[各種お申込・お手続き]からお客様ご自身で変更ができます。

- 「My docomo」、「お客様サポート」については、本書の裏表紙の裏面をご覧ください。

PINコード

ドコモminiUIMカードには、PINコードという暗証番号があります。この暗証番号は、ご契約時は[0000]に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます(☞P.103)。
PINコードは、第三者による端末の無断使用を防ぐため、ドコモminiUIMカードを取り付ける、または端末の電源を入れるたびに使用者を認識するために入力する4～8桁の暗証番号です。PINコードを入力することにより、発着信および端末操作が可能となります。

- 別の端末で利用していたドコモminiUIMカードを差し替えてお使いになる場合は、以前にお客様が設定されたPINコードをご利用ください。設定を変更されていない場合は[0000]となります。
- PINコードの入力を3回連続して間違えると、PINコードがロックされて使えなくなります。この場合は、「PINロック解除コード」でロックを解除してください。

PINロック解除コード(PUKコード)

PINロック解除コードは、PINコードがロックされた状態を解除するための8桁の番号です。なお、お客様ご自身では変更できません。

- PINロック解除コードの入力を、10回連続して間違えるとドコモminiUIMカードが完全にロックされます。その場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。

セキュリティキー変更

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ロックとセキュリティ]▶[アプリケーションロック]

2 暗証番号を入力▶[OK]▶[セキュリティキー変更]

3 項目を選ぶ

- 指リスト:4つ以上の点を結ぶパターンを設定します。
- 暗証番号:4～16桁の数字を設定します。
- パスワード:英字1文字以上を含んだ、4～16桁の英数字と記号を設定します。

SIMカードロック設定

PINコードについて設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ロックとセキュリティ]▶[SIMカードロック設定]

2 項目を選ぶ

- SIMカードをロック:電源を入れたときにPINコードを入力するか設定します。
- SIM PINの変更:PINコードを変更します。

- 日本国内ではドコモminiUIMカードを取り付けていない場合やPINコードの入力画面、PINコードロック中、PINロック解除コードの入力画面では緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信できません。
- 設定はドコモminiUIMカードに保存されます。

PINロックの解除

1 PINロック中画面でPINロック解除コードを入力

2 新しいPINコードを入力

3 もう一度、新しいPINコードを入力▶[OK]

言語と文字入力

画面に表示される言語や、文字入力、テキスト読み上げなどについて設定します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[言語と文字入力]

2 項目を選ぶ

- ■ 言語(Language)を選択:日本語表示/英語表示を選択します。
- ■ スペルチェッカー:スペルチェッカーを利用するか設定します。
- ■ ユーザー辞書:任意の単語を辞書に登録し、Androidキーボードでの文字入力時に、変換候補として表示させます。
- ■ デフォルト:文字入力時に使用する入力ソフトを設定します。
- ■ Androidキーボード:Androidキーボードについて設定します。
- ■ Google音声入力:Google音声入力を利用するか設定します。
- ■ iWnn IME - SH edition:iWnn IME - SH editionについて設定します。設定できる各項目の詳細については☞P.44
- ■ ドコモ文字編集:ドコモ文字編集を利用するか設定します。
- ■ 音声検索:音声検索利用時の音声入力について設定します。
- ■ テキスト読み上げの出力:端末に表示される文字を読み上げる音声について設定します。
- ■ ポインタの速度:ポインタの速度を設定します。
- • [>]をタッチすると各項目の詳細を設定できます。

- ● テキスト読み上げは、音声データやユーザー補助オプションなどをダウンロードすることで利用できるようになります。
- ● お買い上げ時にインストールされている音声データに日本語のデータは含まれません。

キーボードについて

- ● 日本語を入力するときはiWnn IME - SH editionを利用してください。

バックアップとリセット

オールリセットやデータの移行を行います。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[バックアップとリセット]

2 項目を選ぶ

- ■ オールリセット:オールリセットについては☞P.105
- ■ データ移行モード:ドコモショップで端末内のデータを移行する際に設定します。

オールリセット

システムメモリ内のすべてのデータを消去します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[バックアップとリセット]▶[オールリセット]

2 [携帯端末をリセット]▶暗証番号を入力▶[OK]▶[すべて消去]

- [本体内データを消去]/[microSD内データを消去]を有効にすると、本体メモリやmicroSDカード内のデータも同時に消去されます。

- 消去されるデータは次のとおりです。
  - ■作成、保存、登録したデータ
  - ■「設定」アプリケーションで設定した内容
  - ■ダウンロードしたアプリケーション
  - ■お買い上げ時にインストールされている一部のアプリケーション
- お買い上げ時にインストールされているアプリケーションを消去した場合は、メーカーサイトからダウンロードできます。次のサイトの製品情報をご確認ください。
  http://3sh.jp/

外部接続

端末をmicroUSB接続ケーブル 01(別売)でパソコンに接続して利用するときの設定を変更します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[外部接続]▶[USB接続]

2 項目を選ぶ

- ■MTPモード:MTP対応のパソコンで本体メモリまたはmicroSDカードにデータを転送するときのモードです。
- ■PTPモード:PTP対応のパソコンで本体メモリに静止画を転送するときのモードです。
- ■カードリーダーモード:端末に挿入したmicroSDカードを、パソコンの外部メモリとして使用するときのモードです。
- ■高速転送モード:本体メモリとパソコン間の高速データ通信をするときのモードです。
- ■MediaJetインストール:MTPモードでパソコンと接続したときに、MediaJetをインストールするか設定します。

- 大量のデータを転送した場合、転送が中断することがあります。その場合はデータを分けて転送してください。

日付と時刻

日時の設定や日時の表示形式について設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[日付と時刻]

2 項目を選ぶ

- ■ 日付と時刻の自動設定:日時を自動的に補正するか設定します。
- ■ タイムゾーンの自動設定:ネットワークから提供されたタイムゾーンを利用するか設定します。
- ■ 日付設定:日付を手動で設定します。
- ■ 時刻設定:時刻を手動で設定します。
- ■ タイムゾーンの選択:タイムゾーンを手動で設定します。
- ■ 24時間表示:12時間制/24時間制を切り替えます。
- ■ 日付形式:日付の表示形式を設定します。

[日付と時刻の自動設定]を有効にしたとき

- ● 電源を入れてもしばらく時刻が補正されない場合は、電源を入れ直してください。
- ● 電波状況によっては時刻を補正できないときがあります。
- ● 数秒程度の誤差が生じるときがあります。

ユーザー補助

ユーザー補助オプションについて設定します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ユーザー補助]

2 項目を選ぶ

- ■ TalkBack:TalkBackを利用するか設定します。
- ■ 文字サイズ特大:端末に表示される文字のサイズを特大にするか設定します。
- ■ 電源キーで通話を終了する:(⏻)を押して通話を終了するか設定します。
- ■ 画面の自動回転:端末を左右に90度回転させたとき、画面の縦/横表示を切り替えるか設定します。
- ■ パスワードの音声出力:パスワードの音声出力を利用するか設定します。
- ■ 押し続ける時間:ロングタッチする時間を設定します。
- ■ ウェブスクリプト:ウェブスクリプトのインストールを許可するか設定します。

[TalkBack]について

- ● TalkBackを[ON]にすると、選択した項目や起動したアプリケーションなどの情報を音声化できます。お買い上げ時は日本語に対応していません。

開発者向けオプション

アプリケーションを開発する際に使用する設定やデバッグ機能などを利用するか設定します。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[開発者向けオプション]

2 項目を選ぶ

- USBデバッグ:USB接続時にデバッグモードを利用するか設定します。
- 開発端末ID:端末IDを表示します。
- スリープモードにしない:充電中はスリープモードにならないようにするか設定します。
- 擬似ロケーションを許可:擬似的な現在地情報の使用を許可するか設定します。
- PCバックアップパスワード:パソコンでバックアップを取るときのパスワードを設定します。
- 厳格モードを有効にする:プログラムの処理時間が長い場合に画面を点滅させるか設定します。
- ポインタの位置:タッチした位置の情報を表示するか設定します。
- タップを表示:タッチした位置を白い点で表示するか設定します。
- CPU使用状況を表示:CPUの使用状況を表示するか設定します。
- ウィンドウアニメスケール:ウィンドウのアニメーション速度を設定します。
- トランジションアニメスケール:画面切替時のアニメーション速度を設定します。
- すべてのANRを表示:バックグラウンドで動作しているアプリケーションの実行に時間がかかっている場合に、通知するか設定します。
- その他のオプション:GPUレンダリングやアクティビティの保持などについて設定します。

● 開発機能の詳細については、次のサイトをご覧ください。
http://developer.android.com/

セルフチェック

端末のセルフチェックを行ったり、セルフチェックの履歴を表示したりすることができます。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[セルフチェック]

2 項目を選ぶ

- 携帯電話のセルフチェック:端末の診断をします。
- セルフチェックの履歴表示:セルフチェックを行った履歴を表示します。

端末情報

端末情報の確認ができます。

1 **ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[端末情報]**

2 **項目を選ぶ**

- ■ビルド番号:ビルド番号を確認できます。
- ■端末の状態:電池残量や利用中のネットワークなどを確認できます。
- ■タッチパネル補正:タッチパネルを補正します。
- ■センサー感度補正:モーションセンサー、地磁気センサーの取得精度を補正します。
- ■ソフトウェア更新:ソフトウェア更新については☞P.180
- ■メジャーアップデート:端末のOSバージョンアップを行うことができます。OSバージョンアップの詳細については☞P.183
- ■法的情報:著作権情報や利用規約などを確認できます。
- ■モデル番号:モデル番号を確認できます。
- ■Androidバージョン:Androidバージョンを確認できます。
- ■ベースバンドバージョン:ベースバンドバージョンを確認できます。
- ■カーネルバージョン:カーネルバージョンを確認できます。

[タッチパネル補正]について

- [画面に触れないでください]が表示されている間はタッチパネル(ディスプレイ)や(⏻)に触れないようにしてください。
  タッチパネル全体の感度補正をしていますので、補正に失敗することがあります。

[センサー感度補正]について

- 補正画面が表示され、約10秒経過してから補正を行ってください。
- 補正を行う環境や同時に起動しているアプリケーションによっては、補正に失敗することがあります。補正を行う場所を変えるか、起動中のアプリケーションを終了させるなどしてください。

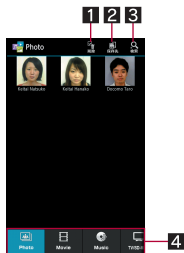
ファイル管理

コンテンツマネージャー

本体メモリまたはmicroSDカードに保存されたデータを管理し、種類ごとに分類して表示します。

1 ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[コンテンツマネージャー]

2 データを選ぶ

- 対応するアプリケーションがインストールされている場合、データを選択すると表示することができます。
- 対応するアプリケーションが複数インストールされている場合、アプリケーション選択画面が表示されることがあります。アプリケーションを選択すると表示します。

1 データ削除
- データを選択して削除できます。

2 保存先
- 選択した保存先にあるデータを表示できます。

3 データ検索
- 検索条件を選んで、本体メモリまたはmicroSDカード内のデータを検索できます。

4 カテゴリ
- 選択したカテゴリのデータが表示されます。

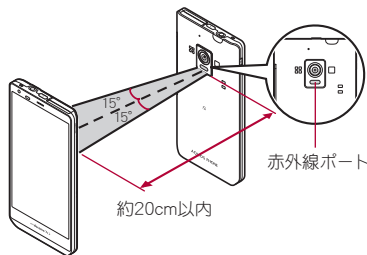
カテゴリ	表示されるデータ
Photo	端末で撮影した静止画やダウンロードした画像
Movie	端末で撮影した動画やダウンロードした動画
Music	端末で録音したデータやメロディ、WMAファイル
TV／SD-Video	ワンセグの録画ファイルリストやレコーダー連携のデータ
Doc.	Office系データ(.doc、.xls、.ppt、.docx、.xlsx、.pptx、.csv)、PDFデータ、Textファイル
Others	その他のデータ

赤外線通信

赤外線通信の利用

赤外線通信機能を搭載した他の端末などと、データを送受信することができます。

- 電話帳、spモードメール、マイプロフィール、名刺、メモ、スケジュール、トルカ、静止画、動画などを送受信できます。
- 赤外線通信機能は、IrMC™ 1.1規格に準拠しています。ただし、相手側の機器がIrMC™ 1.1規格に準拠していても、データの種類によっては送受信できない場合があります。
- 機内モード中は赤外線通信できません。
- 全件データの送受信には、ドコモアプリパスワードまたは暗証番号の入力と認証コードの入力が必要になります。認証コードは、赤外線通信のための専用パスワードです。送受信を始める前にお好きな４桁の数字を決めておき、送信側・受信側で同じ数字を入力します。

赤外線通信のご利用にあたって

- 図のように受信側と送信側の端末の赤外線ポートが約20cm以内に向き合うようにしてください。
- データの送受信が終わるまでは、お互いの赤外線ポートを向き合わせたままにして、動かさないでください。
- 直射日光が当たっている場所や蛍光灯の真下、赤外線装置の近くでは、これらの影響によって正常に通信できないことがあります。
- 赤外線ポートが汚れていると通信できにくくなります。汚れているときは、傷つかないように柔らかい布で拭き取ってください。

赤外線送受信

- データを送信する場合は、それぞれの機能（メニュー）から操作することもできます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[赤外線]

2 項目を選ぶ

- ■ 全件送信：アプリケーションを選んで全件送信します。
- ■ １件受信：１件受信します。
- ■ 全件受信：全件受信します。
- ■ オープンソースライセンス：オープンソースライセンスを表示します。
  - 受信操作と送信操作は同時に行ってください。
  - 受信操作が終わると、受信待ち状態になります。約60秒以内に送信側の端末からデータが送信されると、自動的に通信を開始します。

- 全件受信時に[保存する]を選択すると、登録していた該当機能のデータがすべて削除されますので、ご注意ください。

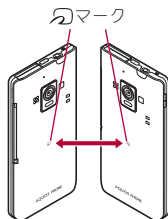
- データの種類によっては、全件受信できないことがあります。
- 受信中に保存先の空き容量が不足した場合は、それまでに受信したデータを保存し、受信を終了します。

ｉＣ通信

ｉＣ通信の利用

ｉＣ通信機能を搭載した他の端末と、データを送受信することができます。

- あらかじめ、おサイフケータイの初期設定をしておいてください（☞P.128）。
- 次の場合はｉＣ通信ができません。
  - ■機内モード中
  - ■NFC／おサイフケータイ ロック設定中
- 次の場合はｉＣ通信によるデータの送信ができないことがあります。
  - ■充電中
  - ■イヤホンマイク接続中
  - ■USB接続中
  - ■MHL™接続中
- 電話帳、マイプロフィール、ブックマーク、静止画、動画、ボイスレコーダーで録音したデータなどを送受信できます。

ｉＣ通信のご利用にあたって

- 図のように受信側と送信側の端末のマークを重ね合わせてご利用ください。
- データの送受信が終わるまでは、端末を動かさないでください。
- 相手の端末によっては、データを送受信しにくいことや端末を近づけた際にディスプレイの表示が消えてしまうことがあります。そのときは、マークどうしの間隔を近づけたり遠ざけたりするか、上下左右にずらしてください。

ｉＣ通信送受信

全件データの送受信には、認証コードの入力が必要になります。認証コードは、ｉＣ通信のための専用パスワードです。送受信を始める前にお好きな４桁の数字を決めておき、送信側・受信側で同じ数字を入力します。また、全件データの送信には、暗証番号の入力が必要になる場合があります。

データを送信

例：静止画のとき

1 **ホーム画面で[ ]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[コンテンツマネージャー]▶[Photo]**

2 **静止画をロングタッチ▶[共有]▶[ＩＣ送信]**

3 **[OK]**

4 **相手の端末と マークを重ね合わせる**

データを受信

1 **相手の端末と マークを重ね合わせる**

2 **[OK]**

3 **ステータスバーを下にドラッグ▶受信したデータを選ぶ**

Bluetooth機能

端末とBluetooth機器をワイヤレスで接続できます。

- すべてのBluetooth機器とのワイヤレス通信を保証するものではありません。

対応バージョンと対応プロファイル

■ 対応バージョン

Bluetooth標準規格 Ver.4.0※1

■ 対応プロファイル※2（対応サービス）

HSP：Headset Profile（ヘッドセットプロファイル）※3

HFP：Hands Free Profile（ハンズフリープロファイル）※4

A2DP：Advanced Audio Distribution Profile（アドバンスドオーディオディストリビューションプロファイル）※5

AVRCP：Audio／Video Remote Control Profile（オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル）※5

HID：Human Interface Device Profile（ヒューマンインターフェースデバイスプロファイル）※6

OPP：Object Push Profile（オブジェクトプッシュプロファイル）※7

SPP：Serial Port Profile（シリアルポートプロファイル）※8

PBAP：Phone Book Access Profile（フォンブックアクセスプロファイル）※9

PAN：Personal Area Networking Profile（パーソナルエリアネットワークプロファイル）※10

HDP：Health Device Profile（ヘルスデバイスプロファイル）※11

PXP：Proximity Profile（プロキシミティプロファイル）※12

FMP：Find Me Profile（ファインドミープロファイル）※13

ANP：Alert Notification Profile（アラートノーティフィケーションプロファイル）※14
PASP：Phone Alert Status Profile（フォンアラートステータスプロファイル）※15
TIP：Time Profile（タイムプロファイル）※16

※1　端末およびすべてのBluetooth機能搭載機器は、Bluetooth SIGが定めている方法でBluetooth標準規格に適合していることを確認し、認証を取得しています。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作方法が異なる場合や、接続してもデータのやりとりができない場合があります。
※2　Bluetooth機器の通信手順を製品の特性ごとに標準化したものです。
※3　端末に市販のBluetooth対応ヘッドセットをBluetooth接続すると、ワイヤレスで通話できます。
※4　端末にカーナビなど市販のBluetooth対応ハンズフリー機器をBluetooth接続すると、カーナビなどを利用してハンズフリー通話できます。
※5　端末に市販のBluetooth対応オーディオ機器をBluetooth接続すると、ワイヤレスで音楽やワンセグの音声などを再生できます。また、Bluetooth機器からリモコン操作できる場合もあります。ただし、データの種類によっては対応する機器が制限されます。
※6　端末にキーボードやマウスなど市販のBluetooth対応入力デバイスをBluetooth接続すると、Bluetooth機器から端末を操作できます。
※7　端末にBluetooth機器をファイル転送サービスで接続すると、Bluetooth機器との間でデータの送受信を行うことができます。
※8　仮想的なシリアルケーブル接続を設定し機器間を相互接続することができます。
※9　Bluetooth機器にシステムメモリの電話帳データを転送することができます。電話帳データの内容によっては、相手のBluetooth機器で正しく表示されない場合があります。
※10　パソコンなどのネットワークに参加し、インターネット接続を共有することができます。
※11　体重計などの市販のBluetooth対応健康器具とデータ通信を行うことができます。
※12　Bluetooth機器との距離が離れてBluetooth接続が切断されたときに、Bluetooth機器を鳴動させたり振動させたりすることができます。
※13　Bluetooth機器を操作して、端末を鳴動させたり振動させたりすることができます。
※14　Bluetooth機器に着信や新着メールを通知することができます。
※15　Bluetooth機器を操作して、端末の着信音やバイブレータを停止することができます。
※16　Bluetooth機器の時刻を端末の時刻と同期することができます。

- Bluetooth機器の取扱説明書もご覧ください。
- SCMS-T非対応のBluetooth機器では、ワンセグなどの音声が出力できない場合があります。

Bluetooth機器取り扱い上のご注意

Bluetooth機器を利用するときは、次の事項にご注意ください。

- 良好な接続を行うために、次の点にご注意ください。
  - ■ 端末と他のBluetooth機器とは、見通し距離約10m以内で接続してください。間に障害物がある場合や、周囲の環境（壁、家具など）、建物の構造によっては接続可能距離が短くなります。特に鉄筋コンクリートの建物の場合、上下の階や左右の部屋など鉄筋の入った壁を挟んで設置したときは、接続できないことがあります。上記接続距離を保証するものではありませんので、ご了承ください。
  - ■ 電気製品、AV機器、OA機器などからなるべく離して接続してください。電子レンジ使用時は影響を受けやすいため、できるだけ離れてください。近づいていると、他の機器の電源が入っているときは、正常に接続できなかったり、テレビやラジオの雑音や受信障害の原因になったりすることがあります。
  - ■ 放送局や無線機などが近くにあり正常に接続できないときは、接続相手のBluetooth機器の使用場所を変えてください。周囲の電波が強すぎると、正常に接続できないことがあります。
  - ■ Bluetooth機器をかばんやポケットに入れたままでもワイヤレス接続できます。ただし、Bluetooth機器と端末の間に身体を挟むと、通信速度の低下や雑音の原因になることがあります。
- Bluetooth機器が発信する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では端末の電源および周囲のBluetooth機器の電源を切ってください。
  - ■ 電車内　■ 航空機内　■ 病院内
  - ■ 自動ドアや火災報知機から近い場所
  - ■ ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所

Wi-Fi対応機器との電波干渉について

- Bluetooth機器と無線LAN（IEEE802.11b/g/n）は同一周波数帯（2.4GHz）を使用するため、無線LANを搭載した機器の近くで使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下や雑音、接続不能の原因になることがあります。この場合、無線LANの電源を切るか、端末や接続相手のBluetooth機器を無線LANから約10m以上離してください。

Bluetooth

- Bluetooth機器の登録・接続には、Bluetoothパスキーの入力が必要な場合があります。登録を始める前にお好きな1～16桁の数字を決めておき、端末・相手のBluetooth機器で同じ数字を入力してください。
- あらかじめ相手のBluetooth機器を登録待機状態にしておいてください。

1 ホーム画面で[ ]▶[設定]▶[Bluetooth]

2 [OFF]を右にスライド

3 Bluetooth機器を選ぶ▶[ペア設定する]

- 相手のBluetooth機器によっては、Bluetoothパスキーを入力する場合があります。また、登録完了後、続けて接続まで行う場合があります。
- 他のBluetooth機器に表示／非表示：[SH-02E]
  - ・表示のタイムアウトで設定した時間が経過すると、自動的に非表示になります。
- Bluetooth機器を検索：[デバイスの検索]
- ペア設定済みのBluetooth機器の[ ]をタッチして相手のBluetooth機器の名前や接続種別を変更できます。

- 接続に失敗する場合、Bluetooth機器を再登録すると接続できるようになる場合があります。
- Bluetooth機能を[ON]にすると、他のBluetooth機器からの登録要求／接続要求を受けられる状態になります。他のBluetooth機器から検索できるようにするには、あらかじめ他のBluetooth機器に表示されるよう設定しておいてください。
- 接続待機中、Bluetooth機器からの接続要求を受けても、電波状況などにより接続できないことがあります。
- 相手のBluetooth機器の操作方法の詳細は、ご使用になるBluetooth機器の取扱説明書をお読みください（ご覧になる取扱説明書によっては、「検索」の代わりに「探索」または「サーチ」、「ペア設定」の代わりに「ペアリング」または「機器登録」と表記されています）。

Bluetooth機器からの登録要求や未登録のBluetooth機器からの接続要求を受けた場合

1 Bluetooth機器からの登録要求／接続要求

2 ステータスバーを下にドラッグ▶[ペア設定リクエスト]▶[ペア設定する]

- ペア設定の確認画面が表示された場合は[ペア設定する]を選択してください。
- 相手のBluetooth機器によっては、Bluetoothパスキーの入力をする場合もあります。
- 接続確認画面が表示される場合があります。

Bluetooth機器の登録解除

1 **Bluetooth画面で登録を解除するBluetooth機器の[ ]▶[ペアを解除]**

Bluetooth機器の接続解除

1 **Bluetooth画面で接続を解除するBluetooth機器を選ぶ▶[OK]**

Bluetoothの設定

- Bluetooth機能を[ON]にしてから設定してください。

1 **Bluetooth画面で[ ]**

2 **項目を選ぶ**

- 端末の名前を変更：本端末の名称を変更します。
- 表示のタイムアウト：他のBluetooth機器に表示される時間を設定します。
- aptX：aptX®を利用するかどうか設定します。
- 常にハンズフリー通話：音声通話時に、接続中のBluetooth対応ハンズフリー機器から常に音声を出力するか設定します。
- 受信済みファイルを表示：Bluetooth通信のデータ受信履歴を表示します。

[aptX]について

- [aptX]を有効にすると、Bluetooth機器によっては音声が出力されないことがあります。その場合は[aptX]を無効にしてください。

Bluetooth通信送受信

データを送信

例：静止画のとき

1 **ホーム画面で[ ]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[コンテンツマネージャー]▶[Photo]**

2 **静止画をロングタッチ▶[共有]▶[Bluetooth]**

- 受信側のBluetooth機器を受信待ち状態にします。

3 **接続するBluetooth機器を選ぶ**

データを受信

1 **送信側のBluetooth機器からデータ送信**

2 **ステータスバーを下にドラッグ▶着信通知を選ぶ▶[承諾]**

3 **ステータスバーを下にドラッグ▶受信したデータを選ぶ**

- 全件受信時に[全件削除して登録]を選択すると、登録していた該当機能のデータがすべて削除されますので、ご注意ください。
- データの種類によっては、全件受信できないことがあります。
- 受信中に保存先の空き容量が不足した場合は、それまでに受信したデータを保存し、受信を終了します。

FMトランスミッタ

ワンセグの音声や音楽データ、ナビの音声などをFM電波で送信し、FMラジオや車載FMチューナーなどで受信して再生できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[FMトランスミッタ]

2 [OFF]を右にスライド

3 項目を選ぶ

- ■ 周波数設定：FM電波の周波数を設定します。
- ■ 自動OFF設定：ワンセグの音声や音楽などの再生が行われない場合、自動的にFMトランスミッタを[OFF]にする時間を設定します。

4 受信機器の周波数を合わせる

5 音楽などを再生する

- 次の場合はFMトランスミッタを利用できません。また、FMトランスミッタを[ON]にしているときに次の状態になった場合は、FMトランスミッタが[OFF]になります。
  - ■ 機内モード中
  - ■ Bluetooth接続中
  - ■ 国際ローミング中
  - ■ 端末の電源を入れてから一度も圏内に入っていないとき
- 次の場合はFMトランスミッタを[ON]にしているときでも、受信機器から音声が出力されないことがあります。
  - ■ 充電中
  - ■ USB接続中
  - ■ イヤホン接続中
  - ■ MHL™接続中
- 次の場合はFMトランスミッタを[ON]にしているときでも、受信機器から音声は出力されません。
  - ■ 通話中
  - ■ 着信中
- FMトランスミッタ出力時は端末または受信機器で音量を調節してください。また、FMトランスミッタ機能終了時は、端末と受信機器の音量が大きくなりすぎていないことをご確認の上、終了してください。

外部機器接続

端末とパソコンの接続方法

1 microUSB接続ケーブル 01（別売）のmicroUSBプラグを端末の外部接続端子に水平に差し込む（1）

2 microUSB接続ケーブル 01のUSBプラグをパソコンのUSBコネクタに水平に差し込む（2）

- USB接続のモードについては☞P.105

- USBケーブルはmicroUSB接続ケーブル 01をご利用ください。パソコン用のUSBケーブルはプラグ部の形状が異なるため使用できません。
- USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

- パソコンとデータのやりとりをしているときは、microUSB接続ケーブル 01を取り外さないでください。データが壊れることがあります。
- 接続可能なパソコンのOSは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8（いずれも日本語版）です。

microSDリーダーライター

microSDカードを、パソコンの外部メモリとして使用できます。

- あらかじめmicroSDカードを挿入し、USB接続のモードを[カードリーダーモード]に設定しておいてください（☞P.105）。
- microSDXCカードを使用する場合は、P.118「データ転送」を参照してください。また初期化を促すメッセージが表示された場合は、初期化しないでください。

1 端末をmicroUSB接続ケーブル 01でパソコンに接続する

- USBマスストレージ画面が表示されます。表示されない場合は、ステータスバーを下にドラッグして[USB接続]を選択してください。

2 [USBストレージをONにする]

- 確認画面が表示された場合は内容を確認し、[OK]を選択してください。

3 microSDリーダーライターとして利用する

4 利用が終わったら、パソコンでハードウェアの安全な取り外しを行う

5 [USBストレージをOFFにする]

6 microUSB接続ケーブル 01を端末とパソコンから取り外す

- microSDリーダーライターとして利用中は、他のアプリケーションからmicroSDカードを利用できません。また、他のアプリケーションからmicroSDカードを利用中は、microSDリーダーライターとして利用できない場合があります。

データ転送

パソコンから本体メモリまたはmicroSDカードにデータを転送することができます。

- あらかじめUSB接続のモードを[MTPモード]または[PTPモード]に設定しておいてください（☞P.105）。

1 端末をmicroUSB接続ケーブル 01でパソコンに接続する

- MediaJetインストール画面が表示された場合は[スキップ]を選択してください。

2 データを転送する

3 利用が終わったら、microUSB接続ケーブル 01を端末とパソコンから取り外す

USBホスト機能

本端末にはUSBホスト機能が搭載されています。市販の周辺機器接続用USBケーブルを外部接続端子に接続することでマウスなどのUSB機器を利用できます。

- USBホスト機能について詳しくは、周辺機器接続用USBケーブルやUSB機器の取扱説明書をご覧ください。

- すべてのUSB機器と接続を保証するものではありません。また、100mAを超える電流を必要とする機器は使用できません。

MHL™接続

端末とHDMI端子付きテレビを接続すると、端末と同じ画面をテレビに表示することができます。

- テレビと端末を市販のMHL™ケーブルで接続して利用します。詳しい操作方法はテレビの取扱説明書をお読みください。
- 対応機器などの詳細については「SH DASH」をご覧ください。
  http://k-tai.sharp.co.jp/support/

1 端末をMHL™ケーブルでテレビに接続する

- MHL™ケーブルを抜くとMHL™接続が終了します。

- テレビで視聴される場合は、MHL™接続後にテレビ側の画面表示サイズを全画面に設定しておいてください。
- MHL™接続は、海外ではご利用になれません。
- 電池残量が少ないときは利用できません。
- 起動しているアプリケーションによっては、MHL™接続できない場合があります。
- MHL™接続中は、ワンセグを受信できない場合がありますので、ワンセグの視聴／録画のご利用はお控えください。
- MHL™接続中に着信があった場合は、MHL™接続を中断します。
- MHL™接続中は、MHL™ケーブルやテレビによっては十分に充電できない場合があります。

MHL™ケーブルについて

- 2種類のmicroUSBプラグの形状に対応しています。
- MHL™ケーブルを接続するときは、確実に差し込んでください。無理に差し込んだり抜いたりすると、外部接続端子やコネクタが破損や故障する場合がありますので、ご注意ください。
- プラグを抜くときは、プラグを持ってゆっくり抜いてください。
- MHL™ケーブルは、テレビのHDMI入力端子に接続してください。

ワイヤレス出力

端末とワイヤレス接続機能付きテレビを接続すると、端末と同じ画面をテレビに表示することができます。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ワイヤレス出力]

2 [OFF]を右にスライド

3 テレビを選ぶ

- 接続するテレビによっては、設定画面が表示される場合があります。設定内容についてはご利用のテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 起動しているアプリケーションによっては、ワイヤレス出力ができない場合があります。
- 起動しているアプリケーションによっては、途中で終了する場合があります。
- 電池残量が少なくなった場合は、自動的にワイヤレス出力を停止します。
- 通話中、着信中、MHL™接続中はワイヤレス出力ができません。ワイヤレス出力中に着信があった場合は、ワイヤレス出力を停止します。
- エコ技設定で省エネWi-Fiを［ON］にしている場合に相手のテレビと正常に接続できなくなることがあります。
  このような場合には、省エネWi-Fiを［OFF］にしてください。

MediaJet

パソコンにMediaJetをインストールして、端末とパソコンとの間で音楽データ／動画／静止画を転送することができます。

1 ホーム画面で［⊞］▶［設定］▶［MediaJet］

- はじめてご利用される際には、「エンドユーザーライセンス許諾条項」に同意いただく必要があります。

2 項目を選ぶ

- PC接続：パソコンとの同期を確認できます。
- オンラインファイル：データをオンラインに保存できます。
- 設定：パソコンとの同期について設定します。

MediaJetのインストール

- あらかじめUSB接続のモードを［MTPモード］に設定し、［MediaJetインストール］を有効にしておいてください（☞P.105）。また、パソコンはインターネットに接続しておいてください。

1 端末をmicroUSB接続ケーブル 01（別売）でパソコンに接続する

2 ［インストール］

- パソコンでインストールが始まります。以降は画面の指示に従って操作してください。

- パソコンからMediaJetをインストールする場合は、次のサイトをご覧ください。
  http://mediaJet.nero.com

USB接続でデータ転送

- あらかじめUSB接続のモードを［MTPモード］に設定しておいてください（☞P.105）。

1 パソコンのMediaJetを起動する

2 端末をmicroUSB接続ケーブル 01でパソコンに接続する

- MediaJetインストール画面が表示された場合は［スキップ］を選択してください。

3 MediaJetを利用する

4 利用が終わったら、MediaJetでデバイスの取り外しを行う

5 microUSB接続ケーブル 01を端末とパソコンから取り外す

Wi-Fi機能でデータ転送

- あらかじめWi-Fiを[ON]にし、パソコンと同じアクセスポイントに接続しておいてください（☞P.51）。

1 パソコンのMediaJetを起動する

2 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[MediaJet]▶[PC接続]▶[OFF]

- PC接続が[ON]に切り替わり、パソコンと接続されます。

3 MediaJetを利用する

4 利用が終わったら、MediaJetでデバイスの取り外しを行う

5 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[MediaJet]▶[PC接続]▶[ON]

- PC接続が[OFF]に切り替わり、パソコンとの接続が解除されます。

充電時自動接続／転送

充電するだけで端末とパソコンが接続され、自動的に音楽データ／動画／静止画を転送することができます。

- あらかじめWi-Fiを[ON]にし、パソコンと同じアクセスポイントに接続しておいてください（☞P.51）。

充電時自動接続の準備

端末側の設定

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[MediaJet]▶[設定]▶[PC接続設定]▶[許可するアクセスポイント]

2 許可するアクセスポイントを選ぶ▶[OK]

3 [充電時自動接続]

パソコン側の設定

1 パソコンのMediaJetを起動する

2 端末をmicroUSB接続ケーブル 01またはWi-Fi機能でパソコンに接続する

3 MediaJet画面でデバイスを選択▶[デバイス接続時に自動的に同期]

- 本体メモリのデータを自動的に取り込む：[デバイス接続時にデバイスから自動的にインポート]

4 [同期オプション]▶同期したいプレイリスト／アルバムを選ぶ▶[OK]

充電時自動転送

- あらかじめ充電時自動接続の準備をしておいてください。
- 付属の卓上ホルダで充電している場合も自動転送できます。

1 パソコンのMediaJetを起動する

2 充電を開始する

- 自動的にMediaJetと接続され、転送が行われます。

3 利用が終わったら、MediaJetでデバイスの取り外しを行う

ブルーレイディスクレコーダー連携

ブルーレイディスクレコーダーに録画した動画をmicroSDカードに転送して再生できます。

- microSDXCカードへは転送はできません。
- ブルーレイディスクレコーダーと端末をmicroUSB接続ケーブル 01(別売)で接続し、動画を転送します。ブルーレイディスクレコーダーに接続し、USB接続のモードを[カードリーダーモード]に設定してください(☞P.105)。接続方法は、端末とパソコンなどを接続する方法と同様です(☞P.117)。動画を転送する操作方法はブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をお読みください。
- 動画を転送すると、microSDカードに保存できるビデオの件数は少なくなります。

ホームネットワーク設定

Wi-Fi通信を利用して、microSDカードの静止画や動画、音楽データを、ホームネットワーク対応のテレビなどで視聴することができます。

- コンテンツマネージャーで管理されている次のデータを公開できます。

データの種別	ファイル形式
静止画※1	JPEG
動画	MP4、3GP(映像コーデック:H.264、音声コーデック:aac)
音楽データ※2	MP3、LPCM(44.1kHz/2ch)、WAV(44.1kHz/2ch)

※1 画像サイズが「4096×4096」より大きい静止画は、表示できません。

※2 WAVファイルはデータ形式がLPCMの場合のみ再生できます。また、LPCMは端末には表示されません。

・それぞれ1000件を超えるデータは公開できない場合があります。

- 公開するデータは、あらかじめmicroSDカードの次のフォルダに格納しておいてください。

データの種別	フォルダ階層
静止画	¥DCIM、¥PRIVATE¥SHARP¥CM¥PICTURE
動画	¥DCIM、¥PRIVATE¥SHARP¥CM¥MOVIE
音楽データ	¥PRIVATE¥SHARP¥CM¥MUSIC、¥PRIVATE¥SHARP¥CM¥SOUND

- ホームネットワークサーバーを利用するにはあらかじめWi-Fi接続について設定されている必要があります。Wi-Fiの設定については☞P.51
- 本端末が接続可能なテレビの機種については、次のサイトをご覧ください。
  http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-02e/peripherals.html#!/dlna
- ホームネットワーク対応のテレビから端末に接続する操作方法は、ホームネットワーク対応のテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 無線LANアクセスポイントやご使用の環境により、正常に接続できない場合や、使用中に接続が解除される場合があります。その場合は、一度ホームネットワーク設定の[サーバー]を無効にし、再度ホームネットワーク設定の[サーバー]を有効にしてください。

- 正常に接続できない場合は、次のことを確認してください。
  - ■ アクセスポイントの設定
  - ■ Wi-Fi接続の状態
  - ■ 接続するホームネットワーク対応機器のネットワークの設定
  - ■ ホームネットワーク対応機器のセキュリティソフト／ファイアウォールの設定
  - ■ 端末のホームネットワーク設定
  - ■ 省エネWi-Fiの設定

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[ホームネットワーク設定]

2 項目を選ぶ

- ■ サーバー：ホームネットワークサーバーを利用するか設定します。
- ■ 公開ネットワーク：Wi-Fi接続で設定したアクセスポイントから利用するネットワークを設定します。
- ■ サーバー名：ホームネットワーク対応のテレビで表示するホームネットワークサーバー名を登録します。

VPN（仮想プライベートネットワーク）

VPNの追加

VPN（Virtual Private Network）とは、外出先などから自宅のパソコンや社内のネットワークに仮想的な専用回線を用意し、安全にアクセスできる接続方法です。

- 端末からVPN接続を設定するには、ネットワーク管理者からセキュリティに関する情報を入手してください。
- ISPをspモードに設定している場合は、PPTPはご利用いただけません。
- あらかじめ画面のロックをパターン、ロックNo.、またはパスワードに設定しておいてください（☞P.99）。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[VPN設定]▶[VPNネットワークの追加]

2 各項目を設定▶[保存]

VPNの接続

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[VPN設定]

2 接続するVPNを選ぶ

3 VPNの接続情報を入力▶[接続]

VPNの切断

1 ステータスバーを下にドラッグ▶VPN有効化の通知をタッチ

2 [切断]

ワイヤレス印刷

EPSON製のWi-Fi対応プリンターでブラウザ画面や画像を印刷することができます。

- 対応するWi-Fi対応プリンターなど詳細については、次のサイトをご覧ください。
  http://www.epson.jp/products/colorio/printer/
- Wi-Fi対応プリンターの操作方法は、Wi-Fi対応プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- あらかじめWi-Fiを[ON]にし、Wi-Fi対応プリンターと同じアクセスポイントに接続しておいてください(☞P.51)。
- 印刷できる画像のファイル形式はJPEG、BMP、PNGです。

ワイヤレス印刷の設定

1 ブラウザ画面／おまかせアルバムの画像表示画面で[☰]▶[ワイヤレス印刷]

- ギャラリーの画像表示画面の場合は[<]▶[EPSON プリンター]と操作してください。
- 使用許諾についての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[OK]を選択してください。

2 各項目を設定

- プリンター:プリンターを設定します。
- 用紙サイズ:用紙サイズを設定します。
- 用紙種類:用紙の種類を設定します。
- レイアウト:レイアウトを設定します。
- 印刷品質:印刷品質を設定します。
- 印刷部数:印刷部数を設定します。
- 印刷範囲:印刷範囲を設定します。ブラウザ画面の場合のみ設定できます。
- その他の設定:給紙装置やカラー、両面印刷などの設定を行います。

3 [完了]

印刷

- あらかじめワイヤレス印刷の設定を行っておいてください(☞P.124)。

1 ブラウザ画面／おまかせアルバムの画像表示画面で[☰]▶[ワイヤレス印刷]

- ギャラリーの画像表示画面の場合は[<]▶[EPSON プリンター]と操作してください。
- 設定の変更:[⚙]▶各項目を設定▶[完了]

2 [印刷]

- ブラウザ画面を印刷した場合、ブラウザの表示内容と実際の印刷内容が異なることがあります。

アプリケーション

dメニュー

dメニューでは、ドコモのおすすめするサイトや便利なアプリケーションに簡単にアクセスすることができます。

1 ホーム画面で[▦]▶[dメニュー]

- ブラウザが起動し、dメニューが表示されます。

- dメニューのご利用には、パケット通信(LTE/3G/GPRS)もしくはWi-Fiによるインターネット接続が必要です。
- dメニューへの接続およびdメニューで紹介しているアプリケーションのダウンロードには、別途パケット通信料がかかります。なお、ダウンロードしたアプリケーションによっては自動的にパケット通信を行うものがあります。
- dメニューで紹介しているアプリケーションには、一部有料のアプリケーションが含まれます。

dマーケット

dマーケットでは、自分に合った便利で楽しいコンテンツを手に入れることができます。

1 ホーム画面で[▦]▶[dマーケット]

- dマーケットの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

Playストア

Google Playを利用すると、便利なアプリケーションや楽しいゲームを端末にダウンロード、インストールすることができます。

- あらかじめGoogleアカウントを設定しておいてください(☞P.53)。

1 ホーム画面で[▦]▶[Playストア]

- 利用規約についての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[同意する]を選択してください。
- ヘルプの表示:[☰]▶[ヘルプ]

- アプリケーションのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する場合があります。
- 万が一、お客様がインストールを行ったアプリケーションなどにより各種動作不良が生じた場合、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- お客様がインストールを行ったアプリケーションなどにより、自己または第三者への不利益が生じた場合、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

アプリケーションの購入

- 有料のアプリケーションをダウンロードする場合は、Google ウォレット アカウントを作成してアプリケーションを購入する必要があります。

1 Google Play画面で購入するアプリケーションを選ぶ

2 価格をタッチ

- 以降は画面の指示に従って操作してください。
- 無料のアプリケーションのとき:[インストール]/[ダウンロード]▶[同意してダウンロード]
- アプリケーションの初回購入時は、Google ウォレット アカウントにログインする必要があります。
- アプリケーションの購入後規定の時間以内であれば返金を要求することができます。アプリケーションは削除され、料金は請求されません。なお、返金要求は、各アプリケーションに対して最初の一度のみ有効です。過去に一度購入したアプリケーションに対して返金要求をし、同じアプリケーションを再度購入した場合には、返金要求はできません。アプリケーション購入時の支払い方法や返金要求の規定などについて詳しくは、Google Play画面で[☰]▶[ヘルプ]▶[Androidアプリ]▶[アプリケーションの購入]の各項目をご覧ください。

- アプリケーションのインストールに承諾すると、アプリケーションの使用に関する責任を負うことになります。多くの機能または大量のデータにアクセスするアプリケーションをインストールするときは、特にご注意ください。
- アプリケーションに対する支払いは一度だけです。一度ダウンロードしたあとにアンインストールしたアプリケーションの再ダウンロードには料金はかかりません。
- 同じGoogleアカウントを設定しているAndroidデバイスが複数ある場合、購入したアプリケーションは他のデバイスすべてに無料でダウンロードすることができます。
- Google Playからのアプリケーションの購入および返金などについては、当社では一切対応できかねますのであらかじめご了承ください。

アプリケーションのアンインストール

1 Google Play画面で[☰]▶[マイアプリ]

2 アンインストールするアプリケーションを選ぶ▶[アンインストール]▶[OK]

おサイフケータイ

お店などの読み取り機に端末をかざすだけで、お支払いやクーポン券などとして使える「おサイフケータイ対応サービス」や、家電やスマートポスターなどにかざして情報にアクセスできる「かざしてリンク対応サービス」がご利用いただける機能です。
電子マネーやポイントのバリューをＩＣカード内、またはドコモminiUIMカード内に保存することができます。
さらに、ネットワークを使って電子マネーの入金や残高、ポイントの確認などができます。また、紛失時の対策として、おサイフケータイの機能をロックすることができるので、安心してご利用いただけます。
おサイフケータイの詳細については、『ご利用ガイドブック（spモード編）』をご覧ください。

※おサイフケータイ対応サービスをご利用いただくには、サイトまたはアプリケーションでの設定が必要です。

おサイフケータイ対応端末のご利用にあたって

- 本端末の故障により、ＩＣカード内データ※1およびドコモminiUIMカード内データ※2が消失・変化してしまう場合があります（修理時など、端末をお預かりする場合は、データが残った状態でお預かりすることができませんので、原則データをお客様自身で消去していただきます）。データの再発行や復元、一時的なお預かりや移し替えなどのサポートは、おサイフケータイ対応サービス提供者にご確認ください。重要なデータについては必ずバックアップサービスのあるおサイフケータイ対応サービスをご利用ください。
- 故障、機種変更など、いかなる場合であっても、ＩＣカード内データおよびドコモminiUIMカード内データが消失・変化、その他おサイフケータイ対応サービスに関して生じた損害について、当社としては責任を負いかねます。
- 本端末の盗難、紛失時は、すぐにご利用のおサイフケータイ対応サービス提供者に対応方法をお問い合わせください。
- ドコモminiUIMカード（赤色）をお使いの場合は、海外利用などドコモminiUIMカードを利用する一部のおサイフケータイ対応サービスを利用することができませんので、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。
  なお、ＩＣカード内に保存することができるおサイフケータイ対応サービスや、かざしてリンク対応サービスについては、ご利用いただけます。

※1　おサイフケータイ対応端末に搭載されたＩＣカードに保存されたデータ（電子マネーやポイントのバリューを含む）

※2　ドコモminiUIMカードに保存されたデータ（電子マネーやポイントのバリューを含み、電話帳データおよびSMSデータを除く）

ｉＣお引っこしサービス

ｉＣお引っこしサービスは、機種変更や故障修理時など、おサイフケータイをお取り替えになる際、おサイフケータイのｉＣカード内データを一括でお取り替え先のおサイフケータイに移し替えることができるサービスです。なお、ドコモminiUIMカード内データはｉＣお引っこしサービスをご利用後も、そのままドコモminiUIMカード内に残ります。
ｉＣお引っこしサービスは、お近くのドコモショップなどでご利用いただけます。
ｉＣお引っこしサービスの詳細については、『ご利用ガイドブック（spモード編）』をご覧ください。

「おサイフケータイ対応サービス」の利用

- おサイフケータイ対応サービスをご利用いただくには、おサイフケータイ対応サイトより、おサイフケータイ対応アプリケーションをダウンロードし、設定を行ってください。なお、サービスによってはおサイフケータイ対応アプリケーションのダウンロードが不要なものもあります。

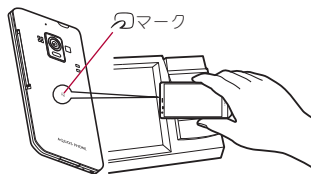
1 ホーム画面で[▦]▶[おサイフケータイ]

- 初期設定が完了していない場合は、初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

2 サービスを選ぶ

- サービスのサイト、またはサービスに対応したアプリケーションをダウンロードしてから設定してください。

3 端末の⌒マークを読み取り機にかざす

- 読み取り機と通信できます。

- 次の場合は、おサイフケータイ対応サービスを利用できません。ただし、読み取り機に本端末をかざしてのお支払いは利用できます。
  - ■ 機内モード中
  - ■ 充電中、またはmicroUSB接続ケーブル 01（別売）接続中、またはイヤホンマイク接続中で、ドコモminiUIMカードが挿入されていない場合／一度も電波を受信していない場合
- おサイフケータイ対応サービスは、ドコモminiUIMカードのPINコードの解除ができない場合またはPINコードロック中においても利用できます。
- spモードをご契約されていない場合は、おサイフケータイ対応サービスの一部機能がご利用できなくなる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

「かざしてリンク対応サービス」の利用

- あらかじめ[Reader／Writer, P2P]を有効にしておいてください(☞P.130)。

1 NFCモジュールが内蔵された機器、またはスマートポスターなどに端末のマークをかざす

Androidビーム

Reader／Writer, P2P機能を搭載した端末との間でデータを送受信できます。

- あらかじめ[Reader／Writer, P2P]を有効にし、Androidビームを[ON]にしておいてください。
- NFC／おサイフケータイ ロックを設定している場合は、Androidビームを利用できません。
- アプリケーションによってはAndroidビームをご利用になれません。
- すべてのReader／Writer, P2P機能を搭載した端末との通信を保証するものではありません。
- Androidビームのご利用にあたっての注意事項はｉC通信と同様です(☞P.111)。

データを送信

例：電話帳のとき

1 ホーム画面で[]▶[ドコモ電話帳]▶[連絡先]▶名前を選ぶ

2 相手の端末とマークを重ね合わせる

- [タップしてビーム]が表示されます。

3 画面をタッチ

データを受信

1 相手の端末とマークを重ね合わせる

対向機にかざす際の注意事項

- 読み取り機やNFCモジュールが内蔵された機器など、対向機にかざすときは、次のことに注意してください。
  - ■ マークを対向機にかざす際に、強くぶつけないように注意してください。
  - ■ マークは対向機の中心に平行になるようにかざしてください。
  - ■ マークを対向機にかざす際はゆっくりと近づけてください。
  - ■ マークを対向機の中心にかざしても読み取れない場合は、本端末を少し浮かす、または前後左右にずらしてかざしてください。
  - ■ マークと対向機の間に金属物があると読み取れないことがあります。また、ケースやカバーに入れたことにより、通信性能に影響をおよぼす可能性がありますので注意してください。

NFC／おサイフケータイ ロック

NFC／おサイフケータイ ロックを設定すると、おサイフケータイの機能やサービスの利用を制限できます。

- NFC／おサイフケータイ ロックは、本端末の画面ロック、SIMカードロック設定とは異なります。

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[NFC／おサイフケータイ 設定]▶[NFC／おサイフケータイ ロック]

- ホーム画面で[⊞]▶[おサイフケータイ]▶[ロック設定]でもNFC／おサイフケータイ ロックの設定を行うことができます。

2 画面の指示に従って、NFC／おサイフケータイ ロックNo.を入力

- NFC／おサイフケータイ ロック設定中は、ステータスバーに[ ](青色)]、[ ](青色)]が表示されます。
- NFC／おサイフケータイ ロック設定中に電池が切れると、NFC／おサイフケータイ ロックが解除できなくなります。電池残量にご注意ください。電池が切れた場合は、充電後にNFC／おサイフケータイ ロックを解除してください。
- NFC／おサイフケータイ ロック設定中におサイフケータイのメニューをご利用になるには、NFC／おサイフケータイ ロックを解除してください。
- NFC／おサイフケータイ ロックNo.は、本端末を初期化すると削除されます。
- NFC／おサイフケータイ ロック解除時には、NFC／おサイフケータイ ロックの設定を行った際の端末に挿入されていたドコモminiUIMカードを挿入した状態で解除を行ってください。

NFC／おサイフケータイ 設定

1 ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[NFC／おサイフケータイ 設定]

2 項目を選ぶ

- ■ NFC／おサイフケータイ ロック：NFC／おサイフケータイ ロックについては☞P.130
- ■ Reader／Writer, P2P：Reader／Writer, P2P機能を利用するか設定します。
- ■ Androidビーム：Androidビームを利用したデータ通信ができます。
  - Androidビームについては☞P.129
- ■ ロックNo.変更：NFC／おサイフケータイ ロックのロックNo.を変更します。

NFC

NFCとはNear Field Communicationの略で、ISO(国際標準化機構)で規定された国際標準の近接型無線通信方式です。非接触ICカード機能やリーダー／ライター機能(R／W)、機器間通信機能(P2P)などが本製品でご利用いただけます。

トルカ

トルカとは、端末に取り込むことができる電子カードです。店舗情報やクーポン券などとして、読み取り機やサイトから取得できます。取得したトルカは「トルカ」アプリケーションに保存され、「トルカ」アプリケーションを利用して表示、検索、更新ができます。

トルカの詳細については、『ご利用ガイドブック(spモード編)』をご覧ください。

1 ホーム画面で[⠿]▶[トルカ]

- トルカを取得、表示、更新する際には、パケット通信料がかかる場合があります。
- ｉモード端末向けに提供されているトルカは、取得・表示・更新できない場合があります。
- IP(情報サービス提供者)の設定によっては、次の機能がご利用になれない場合があります。
  - ■ 読み取り機からの取得
  - ■ 更新
  - ■ トルカの共有
  - ■ microSDカードへの移動、コピー
  - ■ 地図表示
- IPの設定によって、トルカ(詳細)からの地図表示ができるトルカでもトルカ一覧からの地図表示ができない場合があります。
- NFC／おサイフケータイ ロック設定中は、読み取り機からトルカを取得できません。
- [重複チェック]を有効にした場合、同じトルカを重複して取得することができません。同じトルカを重複して取得したいときは、無効にしてください。
- メールを利用してトルカを送信する際は、トルカ(詳細)取得前の状態で送信されます。
- ご利用のメールアプリケーションによっては、メールで受信したトルカを保存できない場合があります。
- ご利用のブラウザによっては、トルカを取得できない場合があります。
- トルカをmicroSDカードに移動、コピーする際は、トルカ(詳細)取得前の状態で移動、コピーされます。
- おサイフケータイの初期設定を行っていない状態では、読み取り機からトルカを取得できない場合があります。

モバキャス／ワンセグ

モバキャス

モバキャスは、スマートフォン向けの放送サービスです。番組をリアルタイムに視聴できる「リアルタイム」（リアルタイム型放送）、映画やドラマだけでなく、マンガ・小説・音楽・ゲームなどがいつでもどこでも楽しむことができる「シフトタイム」（蓄積型放送）の２つの視聴スタイルで楽しめます。また、端末の通信機能を利用したソーシャルサービスとの連携など、今までにない放送サービスを楽しめます。

モバキャスの詳細については、モバキャス放送局のホームページをご覧ください。

NOTTV：http://www.nottv.jp/

モバキャスのご利用にあたって

- モバキャスのご利用には別途モバキャス放送局（NOTTV）との有料放送受信契約が必要になります。
- 端末にドコモminiUIMカードが入っていない場合は放送の受信・視聴ができません。
- モバキャスは日本国内で提供される放送サービスです。

ワンセグ

ワンセグは、モバイル機器向けの地上デジタルテレビ放送サービスで、映像・音声と共にデータ放送を受信することができます。また、モバイル機器の通信機能を使った双方向サービス、通信経由の詳細な情報もご利用いただけます。

「ワンセグ」サービスの詳細については、下記ホームページでご確認ください。

社団法人　デジタル放送推進協会：

http://www.dpa.or.jp/

ワンセグのご利用にあたって

ワンセグは、テレビ放送事業者（放送局）などにより提供されるサービスです。映像、音声の受信には通信料がかかりません。なお、NHKの受信料については、NHKにお問い合わせください。

データ放送領域に表示される情報は「データ放送」「データ放送サイト」の２種類があります。

「データ放送」は映像・音声と共に放送波で表示され、「データ放送サイト」はデータ放送の情報から、テレビ放送事業者（放送局）などが用意したサイトに接続し表示します。

「データ放送サイト」などを閲覧する場合は、パケット通信料がかかります。

サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なものがあります。

放送電波・受信エリアについて

モバキャス／ワンセグは、XiサービスおよびFOMAサービスとは異なる電波を受信しています。また、モバキャス／ワンセグもそれぞれ異なる電波を利用しています。そのため、XiサービスおよびFOMAサービスの圏外／圏内にかかわらず、モバキャス／ワンセグの放送電波が届かない場所や放送休止中などの時間帯は受信できません。

また、モバキャス放送／地上デジタルテレビ放送のエリア内であっても、次のような場所では、受信状態が悪くなったり、受信できなくなったりする場合があります。

- ■放送電波が送信される基地局／電波塔から離れている場所
- ■山間部やビルの陰など、地形や建物などによって電波がさえぎられる場所
- ■トンネル、地下、建物内の奥まった場所など電波の弱い場所および届かない場所

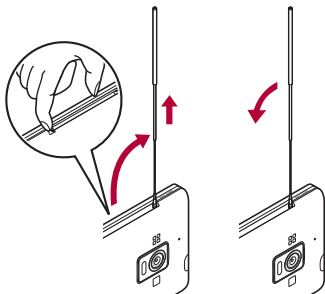
受信状態をよくするには

モバキャス／ワンセグアンテナを十分伸ばし、向きを変えたり場所を移動したりすることで受信状態が良くなることがあります。

モバキャス／ワンセグアンテナについて

- モバキャス／ワンセグアンテナをご使用の際は、以下の点にご注意ください。
  - ■モバキャス／ワンセグアンテナを最後まで引き出してください。
  - ■モバキャス／ワンセグアンテナを引き出す際や、方向を変える際に無理に力を加えないでください。
  - ■収納するときは先端を持って無理に収納しようとせず、止まるところまでまっすぐ押し込み、モバキャス／ワンセグアンテナを倒して収納してください。

  無理な力を加えると、破損の原因となります。

モバキャス／ワンセグアンテナの先端に指先をかけて引き出します。

モバキャス

1 ホーム画面で[▦]▶[NOTTV]

- はじめてご利用される際には、「初回起動時設定」に同意いただく必要があります。
  - ・[同意する]を選択すると、自動的に初期設定が行われます。初期設定は通信環境の良いところで行ってください。

2 [すぐ見る]

3 番組／コンテンツを選ぶ

4 番組／コンテンツを視聴する

- すぐに視聴できない番組／コンテンツの場合は、詳細情報が表示されます。
- タイトルやシークバーなどが非表示になっている場合、映像をタッチすると[▲]が表示されます。[▲]をタッチするとタイトルやシークバーなどが表示されます。
- 音量調節：▲／▼

モバキャス視聴画面の見かた

モバキャス視聴画面（縦表示）

モバキャス視聴画面(横表示)

1 映像
- 左右にスライドすると、番組／コンテンツを切り替えることができます。

2 ソーシャルキー
- 番組／コンテンツに関連したタイムラインを表示します。

- モバキャス視聴画面に表示される内容は番組／コンテンツによって異なります。

番組表から検索

番組表を利用して、リアルタイム番組を視聴することができます。

1 ホーム画面で[⊞]▶[NOTTV]▶[番組表]
- メニューから一覧形式で表示することもできます。

2 番組を選ぶ
- すぐに視聴できない番組の場合は、詳細情報が表示されます。

条件を指定して検索

1 ホーム画面で[⊞]▶[NOTTV]▶[すべて]

2 項目を選ぶ

3 番組／コンテンツを選ぶ

モバキャスの受信予約

1 ホーム画面で[⊞]▶[NOTTV]▶[すべて]

2 [コンテンツ予定表]
- 今後放送されるコンテンツ一覧が表示されます。

3 コンテンツを選ぶ
- 詳細画面が表示されます。

4 [受信予約する]

- 次の場合はコンテンツを受信できないことがあります。
  - ■ コンテンツの放送時間に端末の電源が入っていない場合
  - ■ 電池残量が不足している場合
  - ■ モバキャス放送エリア外にいる場合
  - ■ 本体メモリの容量不足の場合
- 利用期限を過ぎたコンテンツは自動的に本体メモリから削除されます。なお、利用期限が過ぎる前のコンテンツを削除することもできます。
- [自動受信]を有効にしている場合、お客様が受信予約を行っていないときでも自動的にコンテンツが予約されることがあります。[自動受信]は無効にすることもできます(☞P.135)。
- 自動コンテンツ補完を[ON]にしている場合、放送電波の受信状況などによってコンテンツを完全に受信できなかったときに、自動的にパケット通信でデータを補完します。自動コンテンツ補完は[OFF]にすることもできます(☞P.135)。

モバキャスの設定

表示・音声

1 ホーム画面で[⠿]▶[NOTTV]
2 [☰]▶[設定]▶[表示・音声]
3 項目を選ぶ
■ 字幕表示：字幕表示について設定します。
■ 文字スーパー表示：文字スーパーを表示するか設定します。
■ 音声：音声言語と主音声・副音声について設定します。
■ サウンド設定：サウンド効果について設定します。

[文字スーパー表示]について
- [文字スーパー表示]を無効にしていても文字スーパーが表示される場合があります。

自動処理

1 ホーム画面で[⠿]▶[NOTTV]
2 [☰]▶[設定]▶[自動処理]
3 項目を選ぶ
■ 自動受信：コンテンツを自動受信するか設定します。
■ おすすめのリセット：おすすめの番組／コンテンツを自動受信するための情報をリセットします。
■ 番組・コンテンツ情報取得：番組表／コンテンツリストの情報を放送で取得する時間帯を設定します。
■ 自動コンテンツ補完：放送電波の受信状況などによってコンテンツを完全に受信できなかった場合に、自動的にパケット通信でデータを補完するか設定します。
■ 利用ログ送信：リアルタイム型放送の視聴、蓄積型放送の再生／利用、アプリケーションの操作に関するログなどを送信するか設定します。
■ 自動ライセンス取得：コンテンツのライセンスを自動的に取得するか設定します。
■ ペアレンタルコントロール：年齢に応じた番組／コンテンツの利用制限について設定します。

ワンセグ

チャンネル設定

ワンセグを利用するには、あらかじめチャンネル設定を行い、チャンネル設定されたエリアを1つ選択しておく必要があります。

- エリアは10件まで登録できます。また、1つのエリアには放送局を12件まで登録できます。
- チャンネル設定は、地上デジタルテレビ放送サービスのエリア内でモバキャス／ワンセグアンテナを十分伸ばしてから行ってください。

1 ホーム画面で[⊞]▶[ワンセグ]

- チャンネルが設定されていない場合のみ、チャンネル設定画面が表示されます。
- エリアを追加するとき：ワンセグ視聴画面で[☰]▶[チャンネル設定]▶[エリア切替]▶登録先を選ぶ▶[OK]

2 エリアを選ぶ

3 都道府県を選ぶ

4 地域を選ぶ

- 放送局の検索が開始されます。

5 [OK]

- 海外では、放送形式や放送の周波数が異なるためワンセグを利用できません。

テレビ視聴

ワンセグを視聴します。

1 ホーム画面で[⊞]▶[ワンセグ]▶[テレビ視聴]

2 ワンセグを視聴する

- 音量調節：▯／▯

1 映像

- タッチすると番組情報などの表示／非表示を切り替えられます。縦表示中に2回タッチすると画面サイズを変更できます。
- 左右にフリックするとUP／DOWN選局ができます。

2 字幕

- 番組によって字幕の有無は異なります。

3 データ放送

- 番組に関連したサイトに接続したり、投票などで番組に参加するなど、静止画や動画を含むさまざまな情報を利用できます。

4 操作パネル

- ワンセグ操作中に表示されるキーで次の操作ができます。
  - UP／DOWN選局：[CH▶]／[CH◀]※1※2
  - 録画開始／停止：[●]／[■]

- チャンネル切替画面を表示：[CH]
- 番組表を起動：[▦]※3
- データ放送操作に切替：[d]※4
- サーチ選局の中止：[■]

※1　縦表示中は映像部分に表示されます。
※2　ロングタッチするとサーチ選局になります。
※3　横表示中のみ操作できます。
※4　縦表示中のみ操作できます。

- データ放送操作中に表示されるキーで次の操作ができます。
  - カーソルを上下に移動：[△]／[▽]
  - カーソルを合わせているデータ放送サイトに接続：[✓]
  - データ放送サイトの前ページへ戻る：[←]
  - ワンセグ操作に切替：[TV]
  - 対応する項目を選択：[1]～[9]、[0]、[#]、[*]※

  ※ 表示／非表示はデータ放送によって異なります。

- ワンセグ視聴時には、通常時に比べて画面の色が変わることがあります。
- ワンセグ起動中にホーム画面を表示してもワンセグは起動状態となるため、データ放送／データ放送サイトの情報が自動的に更新されることがあります。このとき、パケット通信料がかかることがありますので、ご注意ください。
- 視聴中に着信があった場合は、通話終了後に視聴を再開します。録画中の場合は、録画はバックグラウンドで継続されます。

ワンセグの録画

ビデオの保存件数と録画時間の目安

	保存件数	録画時間
本体メモリ	最大99件	最長約6000分
microSDカード（32Gバイト）	最大99件	最長約9600分

- 1回あたりの録画サイズは2Gバイト、録画時間は約600分までです。本体メモリまたは2Gバイトを超えるmicroSDカードを使用し、空き容量があっても、それまで録画したビデオを保存して録画を終了します。
- 本体メモリまたはmicroSDカードの空き容量がなくなったときは、自動的に録画が終了し、それまで録画したビデオが保存されます。

1 **ワンセグ視聴画面で[■]**

2 **録画を止めるときは[■]**

- 録画を終了し、自動的に保存されます。

- 番組によっては、録画が禁止されていることがあります。
- ビデオ録画中に録画／視聴予約を設定した時刻になると、録画／視聴予約が優先されます。それまでのビデオ録画は終了し、映像が保存されます。

ワンセグの録画再生

本体メモリまたはmicroSDカードに保存されたビデオを再生します。

- ビデオ再生画面の操作は、ワンセグ視聴画面の操作と基本的な部分は同様です。ここでは、異なる部分を説明します。

1 **ホーム画面で[ ]▶[ワンセグ]▶[録画再生]**

2 **ビデオを選ぶ**

3 **ビデオを視聴する**

1 操作パネル

- 表示されるキーで次の操作ができます。
  - 一時停止／再生：[ ]／[ ]
  - 停止：[ ]
  - 早戻し／早送り：[ ]／[ ]※1
  - コマ戻し／コマ送り：[ ]／[ ]※2
  - 約15秒前の位置にバック／約30秒先の位置にスキップ：[ ]／[ ]※3

※1　タッチするたびに、段階的に速度が上がります。
※2　一時停止中に表示されます。
※3　横表示中のみ操作できます。

- 他の機器などで編集（分割）されたビデオを再生すると、映像や音声が途切れることがあります。
- ビデオ再生時は、再生中のビデオを録画した放送局のデータ放送が表示されます。

テレビリンク

データ放送によっては、メモ情報や関連するサイトのURLをテレビリンクとして登録できます。テレビリンクに登録すると、テレビリンク画面からメモ情報やサイトを表示できます。

- テレビリンクは50件まで登録できます。
- テレビリンクの登録方法は、番組によって異なります。

1 **ホーム画面で[ ]▶[ワンセグ]▶[テレビリンク]**

- 登録したテレビリンクを表示します。

2 **テレビリンクを選ぶ**

テレビリンクの削除

1 **ホーム画面で[ ]▶[ワンセグ]▶[テレビリンク]**

2 **テレビリンクをロングタッチ▶[削除]▶[はい]**

ワンセグの録画/視聴予約

ワンセグの視聴や録画を予約できます。また、予約の状態や結果などを確認できます。

- 視聴予約・録画予約合わせて50件まで登録できます。
- 複数の番組を同時に視聴・録画することはできないため、予約の日時が重複すると、登録確認画面が表示されます。内容を確認し、登録を行ってください。

1 ホーム画面で[⠿]▶[ワンセグ]▶[録画/視聴予約]

- 予約の一覧画面が表示されます。

2 [予約]▶[手動で設定]▶[視聴予約]/[録画予約]

- 番組表から予約:[予約]▶[番組表から]▶予約する

3 各項目を設定

1 予約種別
- 視聴予約/録画予約を切り替えます。

2 チャンネル
- チャンネルを設定します。

3 開始日時
- 開始日時を設定します。

4 終了日時
- 終了日時を設定します。

5 番組名
- 番組名を入力します。

6 リピート
- 予約の繰り返しについて設定します。

7 残量
- 本体メモリまたはmicroSDカードの空き容量を表示します。

4 [保存]

- 端末の使用状況や本体メモリまたはmicroSDカードの空き容量、番組の種類などにより、視聴・録画ができなかったり、途中で録画を終了したりする場合があります。

ワンセグの設定

データ放送やワンセグの自動終了時間について設定できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[ワンセグ]▶[設定]

2 項目を選ぶ

- ■ 予約お知らせ設定:予約時間を通知する方法を設定します。
- ■ データ放送設定:データ放送について設定します。
- ■ 縦画面サイズ設定:縦表示の画面のサイズを設定します。
- ■ オートオフ時間設定:ワンセグを自動的に終了するまでの時間を設定します。
- ■ 録画保存先設定:録画時の保存先を設定します。

[データ放送設定]について

- [通信接続時確認設定]を無効にすると、データ放送の確認画面が表示されなくなり、データ放送/データ放送サイトの情報が自動的に更新されることがあります。このとき、パケット通信料がかかることがありますので、ご注意ください。

[オートオフ時間設定]について

- ビデオ録画中にオートオフを設定した時刻になると、ワンセグ起動前の画面に戻り、録画はバックグラウンドで継続されます。

字幕と音声の設定

ワンセグ視聴中に字幕を表示させたり、音声言語を変更したりすることができます。

1 ワンセグ視聴画面で[☰]▶[字幕/音声設定]

2 項目を選ぶ

- ■ 字幕表示:字幕を表示するか設定します。
- ■ 字幕位置:横表示中の字幕の位置を設定します。横表示中のみ設定できます。
- ■ 音声言語:音声言語を設定します。

[字幕表示]について

- 番組によって字幕の有無は異なります。
- [マナーモード連動]のときは、マナーモード設定中にワンセグを起動すると字幕が表示されます。

[音声言語]について

- 番組によって音声言語の有無は異なります。

カメラ

カメラをご利用になる前に

- レンズ部に指紋や油脂などが付くとピントが合わなくなります。また、画像がぼやけたり、強い光源からすじを引いたりすることなどがあります。撮影前に、柔らかい布で拭いてください。
- 電池残量が少ないときは撮影できません。充電中でも、電池残量が少ないと画像が暗くなったり、画像が乱れたりすることがあります。カメラを使用する場合は事前に十分な充電を行ってください。
- カメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、常時明るく見える画素や線、暗く見える画素や線もあります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますので、ご了承ください。
- 端末を暖かい場所に長時間置いていたあとで撮影または保存したときは、画質が劣化することがあります。
- カメラのレンズに直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して映像が変色することがあります。
- 太陽やランプなどの強い光源が含まれる撮影環境で被写体を撮影しようとすると、画像が暗くなったり画像が乱れたりすることがありますので、ご注意ください。
- 太陽を直接撮影すると、CMOSの性能を損なうときがありますので、ご注意ください。

- 次の場合、端末が温かくなり、カメラを終了することがありますが、異常ではありません。
  - ■ 静止画を連続撮影する
  - ■ 動画を長時間撮影する
  - ■ 長時間カメラを起動する

  しばらくたってからカメラをご利用ください。
- フォーカス設定を切り替えたとき、カメラのレンズが動作する音が聞こえますが、異常ではありません。
- 撮影時に端末が動くと、画像がぶれる原因となります。なるべく動かないようにしっかりと固定して撮影してください。静止画撮影時は手ぶれ補正撮影機能を使ってください。
- カメラで撮影した画像は、実際の被写体と色味や明るさが異なるときがあります。
- 撮影時は、カメラのレンズに指や髪などがかからないようにしてください。
- 撮影サイズを大きくすると情報量が多くなるため、端末に表示される画像の動きが遅くなることがあります。
- 室内で撮影するとき、蛍光灯などの影響で画面がちらついたり、すじ状の濃淡が発生したりするときがあります。室内の照明条件や明るさを変更したり、カメラの明るさやホワイトバランスを調整したりすることにより、画面のちらつきや濃淡を軽減できるときがあります。
- 撮影した静止画は、DCF 1.0準拠(Exif Ver.2.3、JPEG準拠)の形式で保存されます。
- モバキャスまたはワンセグ動作中はカメラをご利用になれません。

著作権・肖像権について

お客様が端末で撮影または録音したものは、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また、他人の肖像や氏名を無断で使用、改変などすると、肖像権の侵害となる場合がありますので、そのようなご利用もお控えください。撮影したものをインターネットホームページなどで公開する場合も、著作権や肖像権には十分にご注意ください。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。著作権にかかわる画像の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用になれませんので、ご注意ください。

お客様が本端末を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律、条例(迷惑防止条例など)に従い処罰されることがあります。

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

カメラを使用中の動作について

- ビデオカメラ起動中はモバイルライトが赤色で点滅します。
- 各カメラモード起動中に約3分間何も操作しないと、カメラモードが自動的に終了し、読み取り結果は削除されます。
- 各カメラモード起動中にモバイルライトを計3分間点灯すると、点灯できなくなります。再度点灯する場合は、各カメラモードを終了して、もう一度起動してください。
- シャッター音の音量は変更できません。

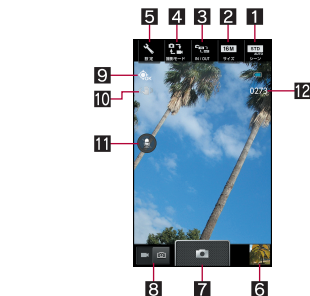
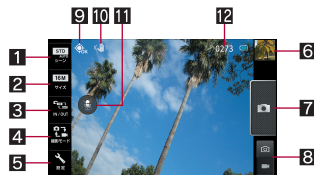
カメラの撮影サイズ

- 設定できる撮影サイズは次のとおりです。

	撮影サイズ
静止画撮影	VGA：640×480
	HD：1280×720
	1.2M：1280×960※
	FULL HD：1920×1080
	4M：2304×1728
	QFHD：3840×2160
	16M：4608×3456
動画撮影	QVGA：320×240
	VGA：640×480
	HD：1280×720
	FULL HD：1920×1080

※ インカメラのみ設定できます。

撮影画面の見かた

静止画撮影画面

動画撮影画面

1 シーン設定
- 撮影シーンを設定します。

2 撮影サイズ
- 撮影サイズを設定します。

3 イン／アウトカメラ切替
- インカメラ／アウトカメラに切り替えます。

4 撮影モード
- 撮影モードについて設定します。

5 各種設定
- 撮影時の各種設定を行います。

6 サムネイル
- 撮影した静止画／動画が保存されると表示されます。タッチすると、撮影した静止画／動画を表示することができます。

7 シャッター

8 カメラ／ビデオカメラ切替
- カメラモードをカメラ／ビデオカメラに切り替えます。

9 自動位置情報付加

10 手ぶれ補正

11 音声操作
- コマンドを音声入力することで、静止画の撮影や明るさの調整などの操作を行うことができます。

12 撮影可能枚数／撮影残時間
- 撮影をしても、撮影可能枚数／撮影残時間の表示が変わらない場合があります。

13 モバイルライト
- モバイルライトを点灯／消灯します。

音声操作について

- 自然な速度でお話しください。次の場合は正しく認識できないことがあります。
  - 周囲の雑音が大きい場合
  - 発声の前後に咳払いなどの雑音が入力された場合
  - 発声が途切れるなど、発声が明瞭でない場合
  - 1音ずつ切って発声するなど、発声が不自然な場合
- 正しく認識できない場合は次のことをお試しください。
  - 発声速度が速すぎないよう注意して発声する
  - 声が小さすぎないようマイクを意識して発声する
  - マイクから5～10cm離れて発声する
- 発声によっては別の言葉として認識される場合があります。

カメラ

静止画を撮影します。

1 ホーム画面で[▦]▶[カメラ]

- 位置情報についての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[同意しない]／[同意する]を選択してください。
- 明るさの調整：上下にスライド
- ズーム：左右にスライド
  - ・最大倍率（ズームの段階）は約16.0倍（25段階）です。ただし、インカメラで撮影時に「VGA：640×480」に設定している場合、最大倍率（ズームの段階）は約12.7倍（23段階）です。
- フォーカスロック：被写体をタッチ
  - ・フォーカス枠以外をタッチすると解除されます。

2 [◉]

- シャッター音が鳴り、撮影した静止画が自動的に保存されます。
- フォーカスロックをしている場合、フォーカス枠をタッチしても撮影することができます。

ビデオカメラ

動画を撮影します。

1 ホーム画面で[▦]▶[カメラ]▶[撮影モード]▶[ビデオカメラ]

- 位置情報についての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[同意しない]／[同意する]を選択してください。
- 明るさの調整：上下にスライド
- ズーム：左右にスライド
  - ・最大倍率（ズームの段階）は約16.0倍（25段階）です。

2 [▭]

- 撮影開始音が鳴り、撮影が開始されます。

3 [□]

- 撮影停止音が鳴り、撮影した動画が自動的に保存されます。

- 撮影残時間の表示は目安であり、撮影対象により、撮影開始前の残時間表示よりも長く撮影できるときや、残時間があっても撮影が自動的に停止するときがあります。
- 撮影残時間の表示は、本体メモリまたはmicroSDカードの空き容量や電池残量によって変わります。

おまかせアルバム

画像や動画を人物ごと、イベントごと、場所ごとに振り分けて整理し、利用することができます。

1 **ホーム画面で[⊞]▶[おまかせアルバム]**

2 **カテゴリを選ぶ**

- フォルダ別表示／一覧表示の切替：[すべて]▶[フォルダ]／[画像]

3 **データを選ぶ**

4 **データを確認する**

- ファイルが表示されない場合は、おまかせアルバムのデータベースファイルを削除することで正常に動作する可能性があります。端末とパソコンをmicroUSB接続ケーブル 01（別売）で接続して、本体メモリまたはmicroSDカードの¥PRIVATE¥SHARP¥PM¥DATABASEフォルダを削除してから使用してください。データベースファイルを削除した場合、作成された人物などの情報も削除されます。十分にご確認の上、操作してください。

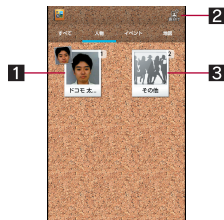
データの振り分け

画像や動画を作成したグループごとに整理できます。

人物ごとに振り分け

1 **おまかせアルバム画面で[人物]**

- 自動振り分けの設定：[☰]▶[設定]▶[おまかせ振り分け設定]▶各項目を設定

2 **グループを選ぶ**

1 設定済みのグループ

2 振分け

- 画像を人物ごとに振り分けます。

3 その他

- グループが未設定のデータを表示します。新規のグループを作成したり、作成済みのグループに振り分けたりできます。

3 **[整理]▶[人物を新規作成]**

4 **分類するデータを選ぶ▶[実行]**

- 複数のデータを選択した場合は、最も新しいデータが表示されます。

5 **切り取り部分を選ぶ▶[決定]**

- オレンジ色の枠線をドラッグすると、枠を拡大／縮小できます。

6 [人物名を入力する] ▶ 人物名を入力 ▶ [OK]

- [電話帳]を選択すると、電話帳から選択して人物名を入力できます。

● おまかせ振り分け設定によって人物が写った写真を自動的に振り分けます。撮影された人物の表情や向きによっては、正しく振り分けられないことがあります。

イベントごとに振り分け

1 おまかせアルバム画面で[イベント]

2 [未設定]

3 [整理] ▶ [イベントを新規作成]

4 分類するデータを選ぶ ▶ [実行]

5 [イベント名を入力する] ▶ イベント名を入力 ▶ [OK]

- [日付]を選択すると、日付をイベント名に入力できます。

場所ごとに振り分け

● 位置情報の付加されているデータは、自動的に地図上に振り分けられます。

1 おまかせアルバム画面で[地図]

2 [☰] ▶ [場所設定]

3 分類するデータをロングタッチ ▶ 登録する位置までドラッグ ▶ [OK]

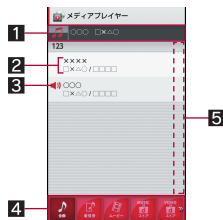
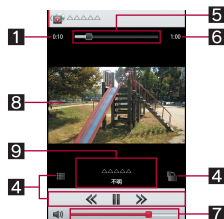
メディアプレイヤー

本体メモリまたはmicroSDカードに保存された音楽データや動画データを再生します。

● 再生できる音楽データの主なファイル形式は次のとおりです。
AAC、AAC+、HE-AAC v1、HE-AAC v2、MP3、MIDI※、WMA9、OGG
※ 全曲一覧には表示されませんが、他のアプリケーションから起動すると再生できます。

● 再生できる動画データの主なファイル形式は次のとおりです。
H.263、H.264、MPEG4、WMV、WEBM

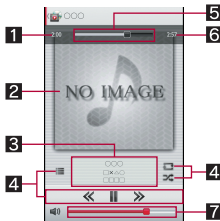
1 ホーム画面で[⠿] ▶ [メディアプレイヤー]

2 データを選ぶ

音楽データ一覧画面

動画データ一覧画面

1 再生／一時停止中の音楽
2 タイトル／アーティスト名／アルバム名
3 再生／一時停止中アイコン
4 ボトムバー
5 インデックス
- インデックスをスライドすると選択した見出しに移動できます。

6 タイトル／アーティスト名
7 サムネイル
8 総再生時間

3 音楽／動画を再生する

- 再生音量調節:／

音楽再生画面

動画再生画面

1 再生時間
2 ジャケット画像
3 タイトル／アーティスト名／アルバム名
4 操作パネル
- 表示されるキーで次の操作ができます。
  - 前のデータを再生／頭出し:[≪]※1
  - 次のデータを再生:[≫]
  - 再生／一時停止:[▶]／[❚❚]
  - データ一覧画面の表示:[☰]
  - リピート:[⇄]※2
  - シャッフル:[⤨]
  - 画面の自動回転ロック:[ ]

  ※1 再生経過時間が約2秒未満:前のデータを再生
  再生経過時間が約2秒以上:頭出し
  ※2 [❶]が重なって表示されている場合は、1曲のみをリピート再生します。

5 シークバー
- シークバーをドラッグすると再生位置を変更できます。

6 総再生時間
7 音量バー
8 映像
9 タイトル／アーティスト名

アイコンの並べ替え

1 データ一覧画面で[☰]▶[設定]▶[アイコンの並べ替え]

2 [≑]を並べ替える位置までドラッグ▶[決定]

プレイリストの管理

プレイリストの作成

1 データ一覧画面で[プレイリスト]▶[プレイリスト作成]▶プレイリスト名を入力▶[OK]

2 [プレイリストに曲を追加]▶音楽データを選ぶ▶[決定]▶[完了]▶[OK]

プレイリストの編集

1 データ一覧画面で[プレイリスト]▶プレイリストを選ぶ

2 [編集]

- プレイリスト名の変更:[タイトル編集]▶プレイリスト名を入力▶[OK]
- 音楽データの並べ替え:並べ替える曲の[≑]を並べ替え位置までドラッグ
- 音楽データの削除:音楽データを選ぶ

3 [完了]▶[OK]

プレイリストの削除

1 データ一覧画面で[プレイリスト]▶[編集]

2 プレイリストを選ぶ▶[完了]▶[OK]

GPS/ナビ

GPS機能の利用

- GPSとは、GPS衛星からの電波を受信して端末の位置情報を取得する機能です。現在地を測位するためには、位置情報サービス([Googleの位置情報]もしくは[GPS機能を使用])を有効にする必要があります(☞P.99)。
- 航空機、車両、人などの航法装置や、高精度の測量用GPSとしての使用はできません。これらの目的で使用したり、これらの目的以外でも、端末の故障や誤動作、停電などの外部要因(電池切れを含む)によって測位結果の確認や通信などの機会を逸したりしたために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- GPSは米国国防総省により運営されているため、米国の国防上の都合によりGPSの電波の状態がコントロール(精度の劣化や電波の停止など)される場合があります。また、同じ場所・環境で測位した場合でも、人工衛星の位置によって電波の状況が異なるため、同じ結果が得られないことがあります。

- GPSは人工衛星からの電波を利用しているため、次の環境下では、電波を受信できない、または受信しにくいため位置情報の誤差が300m以上になる場合がありますのでご注意ください。
  - ■ 密集した樹木の中や下、ビル街、住宅密集地
  - ■ 建物の中や直下
  - ■ 地下やトンネル、地中、水中
  - ■ 高圧線の近く
  - ■ 自動車や電車などの室内
  - ■ 大雨や雪などの悪天候
  - ■ かばんや箱の中
  - ■ 端末の周囲に障害物(人や物)がある場合
  - ■ 端末のカメラ・モバキャス/ワンセグアンテナや近接センサー周辺を手で覆い隠すように持っている場合
- 海外でGPS機能を利用するときは、各国・地域の法制度などにより、取得した位置情報(緯度経度情報)に基づく地図上の表示が正確ではない場合があります。
- 現在地を測位する際に、自動的に衛星の運行情報などのアシストデータを取得し、パケット通信料がかかる場合があります。
- 位置情報から地図を表示した場合などは、パケット通信料がかかります。

マップ

現在地の測位や目的地までの詳しい移動方法のナビゲーションなどができます。

- 現在地を測位するためには、位置情報サービス([Googleの位置情報]もしくは[GPS機能を使用])を有効にする必要があります(☞P.99)。

1 ホーム画面で[ ]▶[マップ]

2 マップを利用する

- 画面を回転:2本の指で回転
- 立体的に表示:2本の指で上下にスライド
- ローカルの起動:[ ]
- レイヤの利用:[ ]▶項目を選ぶ
- 現在地の測位:[ ]

ストリートビュー

1 マップ画面で任意の場所をロングタッチ

2 吹き出しをタッチ▶[ ]

- 表示する方角の変更:画面を上下左右にスライド
- 表示する場所の移動:[ ]を移動先までドラッグ
- コンパスモード:[ ]▶[コンパスモード]

- ストリートビューは対応していない地域もあります。非対応の場合、[(グレー)]が表示されます。
- コンパスモードを利用すると、端末の地磁気コンパスとストリートビューで表示される方角が連動します。

場所の検索

1 マップ画面で[🔍]

2 検索する場所を入力

- 住所、地名、施設名などを入力して検索できます。

3 検索結果を利用する

- 検索結果が複数ある場合は、[検索結果一覧]をタッチすると検索結果が一覧表示されます。
- 検索結果の詳細を表示：地図上のマーカーをタッチ ▶ 吹き出しをタッチ

経路の検索

1 マップ画面で[◈]

2 上の検索ボックスをタッチ ▶ 出発地を入力

3 下の検索ボックスをタッチ ▶ 目的地を入力

4 移動手段を選ぶ ▶ [経路を検索]

5 検索結果を利用する

- 複数の経路が表示された場合は利用する経路を選択してください。
- 地図の表示：[地図表示]
- ナビの起動：[A]

ナビ

現在地から目的地までのルートを検索することができます。

- 現在地を測位するためには、位置情報サービス([GPS機能を使用])を有効にする必要があります(☞P.99)。

1 ホーム画面で[⠿] ▶ [ナビ]

- ナビについての確認画面が表示された場合は内容を確認し、[同意する]を選択してください。

2 項目を選ぶ

- ■ 目的地を音声入力：目的地を音声入力して検索します。
- ■ 目的地をキーボードで入力：目的地を文字入力して検索します。
- ■ 自宅に戻る：登録されている自宅の住所を検索します。
- ■ 地図表示：地図を表示します。
- 画面を左右にスライドすると、マップのスター付きの場所や電話帳の連絡先を目的地に設定することができます。

ローカル

現在地周辺の施設をジャンル別に検索することができます。

- 現在地を測位するためには、位置情報サービス([Googleの位置情報]もしくは[GPS機能を使用])を有効にする必要があります(☞P.99)。

1 ホーム画面で[⠿] ▶ [ローカル]

2 検索したい施設のジャンルを選ぶ

3 目的の施設を選ぶ

Latitude

地図上で友人と位置を確認しあったり、ステータスメッセージを共有したりできます。

- 現在地を測位するためには、位置情報サービス([Googleの位置情報]もしくは[GPS機能を使用])を有効にする必要があります(☞P.99)。
- 位置情報は自動的に共有されません。Latitudeに参加して自分の位置情報を提供する友人を招待するか、友人からの招待を受ける必要があります。
- Latitudeの詳細についてはヘルプをご確認ください。
  マップ画面で[☰]▶[ヘルプ]▶[操作手順]▶[その他のマップの機能]▶[Latitude]

1 ホーム画面で[⠿]▶[Latitude]

YouTube

YouTubeは無料オンライン動画ストリーミングサービスで、動画の再生、検索、アップロードを行うことができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[YouTube]

2 動画を選ぶ

- 検索ボックスの表示:[🔍]

トーク

GoogleトークはGoogleのオンラインインスタントメッセージサービスです。Googleアカウントを所有する相手とチャット(文字によるおしゃべり)やボイスチャットまたはビデオチャットができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[トーク]

2 相手を選ぶ

1 チャットへの招待
- 招待状を受け取っている場合に表示されます。
- タッチすると招待をブロック、招待を辞退、承諾できます。

2 画像
- 相手が登録している画像が表示されます。タッチすると電話帳の登録内容に対応するアプリケーションを選んで利用できます。電話帳に登録されていない相手の場合は、タッチすると電話帳に登録できます。

3 ステータスメッセージ
- 自分の状態の詳細を表示することができます。

4 マイクアイコン/ビデオアイコン
- タッチするとボイスチャットまたはビデオチャットをすることができます。

5 ステータスアイコン
- オンライン状況を表示します。

6 チャット中の相手

3 メッセージを入力▶[➢]

チャット相手の追加

1 ホーム画面で[⠿]▶[トーク]

2 [👤+]

3 相手のメールアドレスを入力▶[完了]

ステータスアイコンとステータスメッセージの変更

1 ホーム画面で[⠿]▶[トーク]

2 自分のアカウントを選ぶ

3 ステータスアイコン／ステータスメッセージを変更

1 画像
- 自分の画像を設定できます。

2 ステータスメッセージ

3 最近使用したステータスに変更...

4 ステータス
- ステータスアイコンを設定できます。

時計

世界時計

世界各地の都市の時刻を表示できます。

- 世界時計は10件まで表示できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[時計]▶[世界時計]

2 [追加する]▶都市を選ぶ
- サマータイムの切替:都市をロングタッチ▶[サマータイム切り替え]
- 都市の削除:[削除]▶都市を選ぶ▶[削除]▶[はい]

- サマータイムに切り替えた都市には、[☀]が表示されます。
- 都市によってはサマータイムに切り替えられない場合もあります。

アラーム

指定した時刻・曜日に、アラーム音やバイブレータでお知らせします。

- アラームは10件まで登録できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[時計]▶[アラーム]
- アラーム音量の設定:[設定]▶[アラーム音量]▶音量を調節▶[OK]
- アラームの優先設定:[設定]▶[マナーモード時設定]▶設定を選ぶ

2 登録先を選ぶ

3 各項目を設定

1 名称
- 名称を入力します。

2 アラーム設定
- アラームを利用するか設定します。

3 時刻
- アラームが鳴動する時刻を設定します。

4 鳴動時間
- アラームが鳴動する秒数を設定します。

5 繰り返し
- 繰り返しを設定します。

6 アラーム音
- アラーム音を設定します。

7 スヌーズ設定
- スヌーズを利用するか設定します。

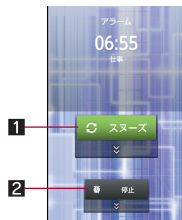
8 スヌーズ間隔
- スヌーズの間隔を設定します。

9 スヌーズ回数
- スヌーズの回数を設定します。

10 バイブレータ設定
- バイブレータを利用するか設定します。

- アラーム設定時刻に電源が入っていない場合は、アラームは動作しません。

- 通話中は、アラーム設定時刻になってもアラームが動作しません。通話を終了し、通話前の画面やホーム画面に戻ると、アラームが動作します。
- アラーム鳴動中に別のアラーム設定時刻となったときは、アラーム鳴動を遅延します。
  1つ目のアラーム鳴動が停止、または鳴動時間を過ぎると、遅延されていたアラーム鳴動が再開されます。

アラーム鳴動画面の見かた

1 アラーム停止
- 下にドラッグするとアラームを停止できます。スヌーズは動作します。
- スヌーズ設定を[ON]にしているときのみ操作できます。

2 アラーム終了
- 下にドラッグするとアラームを終了できます。

ストップウォッチ

1 ホーム画面で[⠿]▶[時計]▶[ストップウォッチ]

2 [スタート]

- ラップタイム、スプリットタイムの記録：[ラップ]

3 [ストップ]

- 計測した時間、履歴のリセット：[リセット]

- ラップタイム、スプリットタイムの履歴を99件まで記憶できます。99件を超えたときは、古い履歴から順に削除されます。
- 時計を終了した場合は、計測した時間、履歴はリセットされます。

タイマー

設定した時間が経過したときに、アラーム音やバイブレータでお知らせします。

1 ホーム画面で[⠿]▶[時計]▶[タイマー]

2 設定時間をタッチ▶時間を入力▶[OK]

- [10秒]／[１分]／[５分]／[10分]をタッチすると、設定時間に10秒／１分／５分／10分が足されます。
- 設定時間を00分00秒に戻す：[リセット]
- [設定]を選択すると、アラーム音／バイブレータ設定を設定することができます。

3 [スタート]

- カウントダウンの取消：[リセット]
- カウントダウンの停止：[ストップ]

スケジュール

スケジュールを作成・管理できるアプリケーションです。

1 ホーム画面で[⠿]▶[スケジュール]

2 スケジュールを確認する

1 選択している日付、祝日名
2 登録されているスケジュール
3 選択している日のスケジュール
4 新規作成
- スケジュールの登録方法は、メモの作成方法と同様です（☞P.155）。

5 表示切替
- カレンダーの表示方法を切り替えます。

6 検索
7 今日を表示

スケジュールの設定

1 カレンダー画面で[☰]▶[設定]

2 項目を選ぶ

- 「今日の予定」お知らせ設定：指定した時間に当日のスケジュールを知らせるよう設定します。
- アラーム：アラームについて設定します。
- 起動画面：スケジュールを起動したときの表示方法を設定します。
- 開始曜日：カレンダーの開始曜日を設定します。
- 誕生日データ更新：電話帳に登録されている誕生日を反映します。
- アカウント変更：スケジュールを作成するときに利用するアカウントを設定します。

スケジュールの削除

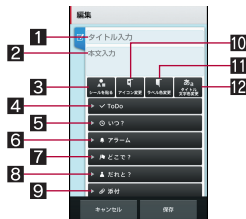
1 カレンダー画面でスケジュールをロングタッチ

2 [1件削除]▶[削除する]

メモ

メモを作成・管理できるアプリケーションです。

1 ホーム画面で[⠿]▶[メモ]▶[新規作成]

2 各項目を設定

1 タイトル

2 本文

3 シールを貼る

- メモを楽しくデコレートするようなシール（絵文字／デコメ絵文字®）を貼り付けたり、はがしたりできます。

4 ToDo

5 いつ？

6 アラーム

7 どこで？

8 だれと？

9 添付

- 静止画を添付できます。

10 アイコン変更

11 ラベル色変更

12 タイトル文字色変更

3 [保存]

電卓

1 ホーム画面で[⠿]▶[電卓]

2 計算する

- 電卓を終了すると、メモリは削除されます。
- バックグラウンドで動作している場合、計算結果や履歴情報が削除されることがあります。

SHツール

ボイスレコーダーや名刺リーダー、バーコードリーダー、辞書など、便利な機能を利用することができます。

- コンテンツマネージャーについては☞P.109

Smart Familink

端末とホームネットワーク機能対応テレビ「AQUOS」をWi-Fiネットワークにつなぐことで、端末内の動画・静止画・音楽などを「AQUOS」で視聴したり、端末の着信や新着メールの情報を「AQUOS」に表示したりすることができます。
また、ホームネットワーク機能対応の「AQUOSブルーレイ」をWi-Fiネットワークにつなぐことで、「AQUOSブルーレイ」で受信／録画したテレビ番組を端末で視聴することができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[Smart Familink]

- 項目をタッチするとSmart Familinkの活用例を見ることができます。
  - 前の画面に戻る：[⊗]

2 [設定してみましょう]

- 設定ガイダンスに従って操作してください。手順をタッチすると、設定するメニュー項目の画面や接続方法が表示されます。
  - Wi-Fiの設定については☞P.51
  - ホームネットワークサーバーの設定については☞P.122

3 [メニュー画面へ]

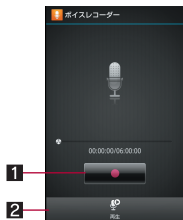
- 以降の操作方法は、テレビやブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をお読みください。

- エコ技設定で省エネWi-Fiを[ON]にしている場合に相手機器と正常に接続できなくなることがあります。
このような場合には、省エネWi-Fiを[OFF]にしてください。

ボイスレコーダー

- 本体メモリの空き容量が300Kバイト未満のときは、録音できません。

1 ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[ボイスレコーダー]

2 録音／再生する

1 操作キー
- 表示されるキーで次の操作ができます。
  - 録音開始：[●]※1
  - 録音停止：[■]※2

  ※1 録音開始音が鳴り、録音が開始されます。
  ※2 録音停止音が鳴り、録音データが保存されます。

2 再生
- 録音データを一覧で表示します。データを選択すると再生できます。
- 録音直後にタッチした場合は、録音したデータが再生されます。

- 録音開始音／停止音は、端末の設定にかかわらず鳴ります。
- 録音中に最大録音時間に達したときや、本体メモリの空き容量が不足したときは、自動的に録音が停止します。
- 録音中に電話がかかってくると、録音は停止され、それまでの録音を自動的に保存し、電話に出ることができます。通話終了後、保存完了通知画面が表示されます。
- 再生中に電話がかかってくると、再生が自動的に一時停止し、電話に出ることができます。通話終了後、停止した状態で再生画面が表示されます。

歩数計

歩数計を使って毎日のウォーキングやジョギングをサポートします。
歩数や消費カロリーなどは履歴として保存され、グラフで確認することができます。

- あらかじめユーザー情報を登録し、歩数計の[歩数計ON]を有効にしておいてください（☞P.96）。
- バイブレータの動作などによって、端末に振動や揺れが加えられた場合、歩数が正確に測定されないことがあります。
- 測定した歩数は、装着や測定のしかた、歩きかたによって正確に表示されない場合があります。
- キャリングケース 02（別売）に入れるときは、キャリングケース 02を腰のベルトなどに装着してください。
- かばんやポーチなどに入れるときは、ポケットや仕切りの中など端末を固定できる場所に入れてください。

1 ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[おすすめ]▶[歩数・消費カロリー計]

● 歩き始めの約４秒間は歩数はカウントされますが、測定値には反映されません。そのあとも歩行を続けると、それまでの歩数を合わせて測定値に反映します。

歩数測定時のご注意

次のような場合は、歩数が正確に測定されないことがあります。

- 端末が不規則に動く場合
  - ■ 端末を入れたかばんなどが、足や腰に当たって不規則な動きをしているとき
  - ■ 端末を腰やかばんなどからぶら下げているとき
- 不規則な歩行をした場合
  - ■ すり足のような歩きかたや、サンダル、げた、草履などを履いて不規則な歩行をしたとき
  - ■ 混雑した場所を歩くなど、歩行が乱れたとき
- 上下運動や振動の多いところで使用した場合
  - ■ 立ったり座ったりしたとき
  - ■ 歩行やジョギング以外のスポーツを行ったとき
  - ■ 階段や急斜面を上ったり下りたりしたとき
  - ■ 乗り物（自転車、自動車、電車、バスなど）に乗って、上下振動や横揺れしているとき
- 極端にゆっくり歩いた場合

名刺リーダー

カメラを使って名刺（日本語、英語）から名前や電話番号などの情報を読み取り、電話帳に登録できます。

1 ホーム画面で[田]▶[SHツール]▶[読み取り]▶[名刺を読み取る]

- 明るさの調整：上下にスライド

2 ディスプレイの中央に名刺を表示▶[読取]

- シャッター音が鳴ります。
- 名刺全体がディスプレイに表示されている枠に納まるように端末を固定してください。名刺以外のもの、特に文字を含むものがディスプレイ内に入らないようにしてください。
- 名刺からカメラまでの距離は約10cm離してください。
- 名刺をディスプレイに表示する際、縦向き横向きどちらでも読み取ることができますが、斜めにはしないでください。

3 [認識]

4 [電話帳登録]

- 読み取り結果のコピー：[☰]▶[全コピー]

5 登録するアカウントを選ぶ▶[OK]

- 撮影した名刺画像が自動的に保存されます。

6 [いいえ]

- 登録した連絡先の編集：[はい]▶連絡先を編集

● 名刺によっては読み取れないものや、正しく認識されないものがあります。

バーコードリーダー

カメラを使ってバーコード（JANコード、QRコード）を読み取ると、読み取った文字の内容に応じて、さまざまな操作を行うことができます。

JANコードとは

● 幅の異なる縦の線（バー）で数字を表現しているバーコードです。
● JAN 8、JAN13を読み取ることができます。

QRコードとは

● 縦・横方向でデータを表現している二次元コードの1つです。

1 ホーム画面で[▦]▶[SHツール]▶[読み取り]▶[バーコードを読み取る]

- 明るさの調整：上下にスライド

2 バーコードを読み取る

- バーコードリーダー画面が表示されると、読み取りを開始します。ディスプレイの中央に読み取るバーコードを表示させてください。
- バーコードの真正面からカメラまでを約10cm離して、バーコードや端末をできるだけ固定すると認識されやすくなります。
- 読み取りが完了すると、完了音が鳴り、読み取り結果画面が表示されます。

分割されたデータについて

- QRコードには、分割されたデータ（最大16個）を読み取って1つのデータとなるものがあります。操作を繰り返し、すべての分割されたデータを読み取ると読み取り結果が表示されます。

3 読み取り結果を利用する

- 電話番号やURL、メールアドレスを読み取ったときは読み取り結果をタッチすると利用できます。
- 読み取り結果の登録：[☰]▶[読取データ登録]
  - 登録した読み取り結果は、バーコードリーダー画面で[☰]▶[読取データ確認]▶データを選ぶと確認できます。
- 読み取り結果のコピー：[☰]▶[全コピー]

● バーコードの種類やサイズによっては、読み取れないことがあります。
● 傷、汚れ、破損、印刷の品質、光の反射、QRコードのバージョンによっては読み取れないときがあります。

お店情報リーダー

カメラを使って、雑誌などから店名や電話番号などの情報を読み取り、電話帳に登録できます。

1 ホーム画面で[▦]▶[SHツール]▶[読み取り]▶[お店情報を読み取る]

- 明るさの調整：上下にスライド

2 ディスプレイの中央に情報を表示▶[読取]

- シャッター音が鳴ります。
- 読み取りたい情報がディスプレイに納まるように端末を固定してください。ただし、ディスプレイに表示される文字が小さくなる場合は、電話番号や住所などを表示して読み取れる大きさにしてください。
- 読み取りたい情報からカメラまでの距離は約10cm離してください。

3 [認識]

4 [電話帳登録]

- 読み取り結果のコピー:[☰]▶[全コピー]

5 登録するアカウントを選ぶ▶[OK]

- 撮影した画像が自動的に保存されます。

6 [いいえ]

- 登録した連絡先の編集:[はい]▶連絡先を編集

● 雑誌などの記載内容によっては読み取れないものや、正しく認識されないものがあります。

テキストリーダー

カメラを使って、新聞や雑誌などの記事を読み取り、さまざまな操作を行うことができます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[読み取り]▶[文字を読み取る]

- 明るさの調整:上下にスライド

2 ディスプレイに読み取る文字を表示▶[撮影]

- シャッター音が鳴ります。

3 [▲]/[▼]で読み取る行にカーソルを合わせる▶[読取]

- 縦書きの文字を認識した場合:[◀]/[▶]
- カーソルを合わせている行に水色の枠が表示されます。

4 [決定]

- 読み取りモードの変更:[☰]▶モードを選ぶ

5 読み取り結果を利用する

- 読み取り結果のコピー:[全コピー]
- 電話番号やURL、メールアドレスを読み取ったときは読み取り結果をタッチすると利用できます。
- 続けて文字を読み取る:[☰]▶[続き読取]▶文字を読み取る
- 追加として文字を読み取る:[☰]▶[追加読取]▶文字を読み取る
- 辞書で検索:[☰]▶[辞書検索]▶アプリケーションを選ぶ▶辞書で検索する
- 読み取り結果の編集:[☰]▶[編集]▶文字を編集する

● 傷、汚れ、破損、印刷の品質、光の反射、文字サイズによっては、正しく読み取れないときがあります。

辞書

内蔵されている辞書やサイト上の辞書で、キーワードを入力して調べることができます。

- お買い上げ時は、端末に次の電子辞書が登録されています(電子化の都合上、書籍とは一部異なる場合があります)。
  - ■ 明鏡国語辞典MX 第二版
    使用頻度の高い現代語を中心に約6万4000語句を収録。新語と誤用情報を充実させた。
  - ■ ジーニアス英和辞典MX 増補版
    新聞・雑誌・各種文献を読むときに便利な大規模な英和辞典。新語や専門語を増補。約20万2000語句を収録。
  - ■ ジーニアス和英辞典MX 第2版
    現代語を中心に見出し約6万7000語句、用例8万4000を収録した、本格語数の和英辞典。地名人名などの固有名詞も充実。

- お買い上げ時は、ネット辞書「百科事典」を利用できます。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[SHツール]▶[辞書]▶[国語辞典]/[英和辞典]/[和英辞典]/[ネット辞書]**

2 **検索する**

- 画面は英和辞典の画面です。

1 辞書アイコン
- 現在利用している辞書を表示します。
- タッチすると利用する辞書を切り替えることができます。

2 入力モード切替
- タッチすると入力モードを変更することができます。

3 単語カード/設定
- 内蔵辞書の場合は、登録した単語カードを表示します。
- ネット辞書の場合は、検索方法の設定ができます。

4 検索キーワード入力欄
- 検索するキーワードを入力します。
- 内蔵辞書の場合は、文字を入力するたびに検索結果が表示されます。
- ネット辞書の場合は、キーワードを入力▶[検索]で検索結果が表示されます。

5 ひきなおす
- 新しく検索します。

6 辞書切替
- 利用する辞書を切り替えることができます。

7 履歴
- 過去に検索した単語を表示します。

8 単語テスト／辞書管理
- 内蔵辞書の場合は、検索結果画面で登録した単語カードをもとに単語のテストができます。
- ネット辞書の場合は、辞書の管理ができます。

3 検索結果を選ぶ

- 検索結果を単語カードに登録：[単語カード追加]

データや設定のバックアップ

microSDバックアップ

システムメモリに保存されたデータを一括してバックアップ／復元することができます。

- microSDバックアップでバックアップ／復元できるデータは次のとおりです。
  - ■ SMS　■ ブックマーク　■ カレンダー
  - ■ ユーザー辞書／学習辞書（iWnn IME - SH edition）
- microSDバックアップ中は［機内モード］が有効になります。
- システムメモリの空き容量が11Mバイト未満のときは、microSDバックアップを利用できません。
- あらかじめmicroSDカードを挿入しておいてください。

バックアップファイルの保存

1 ホーム画面で［▦］▶［設定］▶［microSDと端末容量］▶［microSDバックアップ］

2 ［保存］▶暗証番号を入力▶［OK］

3 保存するデータカテゴリを選ぶ

4 ［開始］▶［はい］

5 ［完了］

- 電池残量が少ないときは保存できません。

バックアップファイルの読み込み

1 ホーム画面で［▦］▶［設定］▶［microSDと端末容量］▶［microSDバックアップ］

2 ［読み込み］▶暗証番号を入力▶［OK］

3 読み込むバックアップファイルを選ぶ

4 ［追加登録開始］／［上書登録開始］

- 確認画面が表示されます。以降は画面の指示に従って操作してください。

- 電池残量が少ないときは読み込みできません。

バックアップファイルの設定･管理

1 **ホーム画面で[田]▶[設定]▶[microSDと端末容量]▶[microSDバックアップ]▶[設定･管理]**

2 **項目を選ぶ**

■ バックアップファイルの整理:保存されているバックアップデータを削除できます。
■ 結果画面閲覧:最新のバックアップファイルの保存／読み込みの結果を表示します。

ドコモバックアップ(microSDカードへ保存)

microSDカードなどの外部記録媒体を利用して、電話帳、spモードメール、ブックマークなどのデータの移行やバックアップができます。

- ドコモバックアップ(microSDカードへ保存)でバックアップ／復元できるデータは次のとおりです。
  ■ 電話帳 ■ spモードメール ■ 画像
  ■ 動画 ■ 音楽データ ■ ブックマーク
  ■ 通話履歴 ■ ユーザー辞書
- microSDカードが未挿入の場合、画像、動画、音楽データは本体メモリに保存されます。ドコモバックアップ(microSDカードへ保存)では、本体メモリに保存されているデータのみバックアップされます。microSDカードに保存されているデータはバックアップされません。

1 **ホーム画面で[田]▶[ドコモバックアップ]▶[microSDカードへ保存]**

- はじめてご利用される際には、「利用許諾契約書」に同意いただく必要があります。

- バックアップまたは復元中に端末のmicroSDカードを取り外さないでください。端末内のデータが破損する場合があります。
- 電池残量が不足しているとバックアップまたは復元が実行できない場合があります。その場合は、端末を充電後に再度バックアップまたは復元を行ってください。

データをmicroSDカードにバックアップ

- あらかじめmicroSDカードを挿入しておいてください。

1 **SDカードバックアップ画面で[バックアップ]**

2 **保存するデータカテゴリを選ぶ**

3 **[バックアップ開始]▶[OK]**

4 **ドコモアプリパスワードを入力▶[OK]**

5 **[トップに戻る]**

- 電話帳をmicroSDカードにバックアップする場合は、名前が登録されていない電話帳はコピーできません。
- microSDカードの空き容量が不足しているとバックアップが実行できない場合があります。その場合は、microSDカードから不要なファイルを削除して容量を確保してください。

データを端末に復元

- あらかじめドコモバックアップ（microSDカードへ保存）で作成したバックアップファイルが保存されたmicroSDカードを挿入しておいてください。
- 電話帳を復元する場合は、電話帳コピーツールやｉモード端末のmicroSDカードへバックアップする機能で作成したファイルも復元できます。

1 **SDカードバックアップ画面で［復元］**

2 **復元するデータカテゴリの［選択］**

3 **バックアップファイルを選ぶ▶［選択］**

4 **［追加］／［上書き］**

5 **［復元開始］▶［OK］**

6 **ドコモアプリパスワードを入力▶［OK］**

7 **［トップに戻る］**

Googleアカウントの電話帳をdocomoアカウントにコピー

1 **SDカードバックアップ画面で［電話帳アカウントコピー］**

2 **Googleアカウントの電話帳の［選択］**

3 **［上書き］／［追加］▶［OK］**

- 他の端末の電話帳項目名（電話番号など）が本端末と異なる場合、項目名が変更されたり削除されたりすることがあります。また、電話帳に登録可能な文字は端末ごとに異なるため、コピー先で削除されることがあります。

iDアプリ

「iD」とは、クレジット決済のしくみを利用した便利な電子マネーです。クレジットカード情報を設定したおサイフケータイやiD対応のカードをお店の読み取り機にかざすだけで簡単・便利にショッピングができます。おサイフケータイには、クレジットカード情報を２種類まで登録できるので特典などに応じて使い分けることもできます。ご利用のカード発行会社によっては、キャッシングにも対応しています。

- おサイフケータイでiDをご利用の場合、iDに対応したカード発行会社へのお申し込みのほか、iDアプリで設定を行う必要があります。
- iDサービスのご利用にかかる費用（年会費など）は、カード発行会社により異なります。
- 海外でのご利用の場合は国内でのパケット通信料と異なります。
- iDに関する情報については、iDのサイトをご覧ください。
  http://id-credit.com/

海外利用

国際ローミング（WORLD WING）の概要

国際ローミング（WORLD WING）とは、日本国内で使用している電話番号やメールアドレスはそのままに、ドコモと提携している海外通信事業者のサービスエリアで利用いただけるサービスです。電話、SMSは設定の変更なくご利用になれます。

対応ネットワークについて

本端末は、クラス４になります。3GネットワークおよびGSM／GPRSネットワークのサービスエリアでご利用いただけます。また、3G850MHz／GSM850MHzに対応した国・地域でもご利用いただけます。ご利用可能エリアをご確認ください。

- 海外ではXiエリア外のため、3GまたはGSM／GPRSネットワークをご利用ください。

海外でご利用いただく前に、以下をあわせてご覧ください。

■『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』
■ドコモの「国際サービスホームページ」

- 国番号・国際電話アクセス番号・ユニバーサルナンバー用国際識別番号・接続可能な国、地域および海外通信事業者は、『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご確認ください。

海外で利用できるサービス

主な通信サービス	3G	3G850	GSM（GPRS）
電話	○	○	○
SMS	○	○	○
メール※	○	○	○
ブラウザ※	○	○	○

※ローミング時にデータ通信を利用するには、［データローミング］を有効にしてください（☞P.167）。

- 接続する海外通信事業者やネットワークにより利用できないサービスがあります。

海外でご利用になる前の確認事項

ご出発前の確認

海外でご利用いただく際は、日本国内で次の確認をしてください。

ご契約について

- WORLD WINGのお申し込み状況をご確認ください。詳細は裏表紙の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

充電について

- 海外旅行で充電する際のACアダプタは、ACアダプタ 03（別売）をご利用ください。

料金について

- 海外でのご利用料金（通話料、パケット通信料）は日本国内とは異なります。

- ご利用のアプリケーションによっては自動的に通信を行うものがありますので、パケット通信料が高額になる場合があります。各アプリケーションの動作については、お客様ご自身でアプリケーション提供元にご確認ください。

事前設定

ネットワークサービスの設定について

ネットワークサービスをご契約いただいている場合、海外からも留守番電話サービス・転送でんわサービス・番号通知お願いサービスなどのネットワークサービスをご利用になれます。ただし、一部のネットワークサービスはご利用になれません。

- 海外でネットワークサービスをご利用になるには、遠隔操作設定を「開始」にする必要があります。渡航先で遠隔操作設定を行うこともできます。
- 設定／解除などの操作が可能なネットワークサービスの場合でも、利用する海外通信事業者によっては利用できないことがあります。

滞在国での確認

海外に到着後、端末の電源を入れると自動的に利用可能な通信事業者に接続されます。

接続について

通信事業者（☞P.168）を[自動選択]に設定している場合は、最適なネットワークを自動的に選択します。

定額サービス適用対象国・地域の通信事業者をご利用の場合、海外でのパケット通信料が1日あたり一定額を上限としてご利用いただけます。なお、ご利用には国内のパケット定額サービスへのご加入が必要です。詳細は『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご確認ください。

ディスプレイの表示について

- 国際ローミング中は[R]が表示されます。
- 3G／GSM／HSPAは使用可能です。
- 接続している通信事業者名は、ステータスパネルで確認できます。

日付と時刻について

日付と時刻の[日付と時刻の自動設定]、[タイムゾーンの自動設定]を有効にしている場合は、接続している海外通信事業者のネットワークから時刻・時差に関する情報を受信することで本端末の時刻や時差が補正されます。

- 海外通信事業者のネットワークによっては、時刻・時差補正が正しく行われない場合があります。その場合は、手動でタイムゾーンを設定してください。
- 補正されるタイミングは海外通信事業者によって異なります。
- 日付と時刻については☞P.106

お問い合わせについて

- 本端末やドコモminiUIMカードを海外で紛失・盗難された場合は、現地からドコモへ速やかにご連絡いただき利用中断の手続きをお取りください。お問い合わせ先については、裏表紙をご覧ください。なお、紛失・盗難されたあとに発生した通話・通信料もお客様のご負担となりますのでご注意ください。
- 一般電話などからご利用の場合は、滞在国に割り当てられている「国際電話アクセス番号」または「ユニバーサルナンバー用国際識別番号」が必要です。

帰国後の確認

日本に帰国後は自動的にドコモのネットワークに接続されます。接続できなかった場合は、以下の設定を行ってください。

- ネットワークモードを[LTE／3G／GSM(自動)]に設定してください(☞P.167)。
- 通信事業者を[自動選択]に設定してください(☞P.168)。

海外で利用するための設定

お買い上げ時は、自動的に利用できるネットワークを検出して切り替えるように設定されています。手動でネットワークを切り替える場合は、次の操作で設定してください。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]

2 項目を選ぶ

- ■ データ通信を有効にする：データ通信を利用するか設定します。
- ■ データローミング：データローミングについては☞P.167
- ■ アクセスポイント名：アクセスポイントを設定します。
- ■ ネットワークモード：ネットワークモードについては☞P.167
- ■ 通信事業者：通信事業者については☞P.168

データローミング

ローミング時にデータ通信を利用するか設定します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[データローミング]

ネットワークモード

使用するネットワークを設定します。

1 ホーム画面で[▦]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[ネットワークモード]

2 項目を選ぶ

- ■ LTE／3G／GSM(自動)：利用できるネットワークに自動的に切り替えます。
- ■ LTE／3G：3Gネットワークを利用します。
- ■ GSM：GSM／GPRSネットワークを利用します。

通信事業者

ネットワークを検索して利用する通信事業者を設定します。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[ネットワーク設定]▶[モバイルネットワーク]▶[通信事業者]**

- データ通信の確認画面が表示された場合は内容を確認し、[OK]を選択してください。
- ネットワークの検索が行われ、通信事業者の一覧が表示されます。
- ネットワークの検索でエラーが発生する場合は、[データ通信を有効にする]を無効にし(☞P.167)、再度操作してください。

2 **通信事業者を選ぶ**

- 通信事業者の再検索:[ネットワークを検索]
- 通信事業者を自動的に選択:[自動選択]

● 海外で通信事業者を手動で設定した場合は、日本に帰国後に[自動選択]に設定してください。

滞在先で電話をかける/受ける

滞在国外(日本を含む)に電話をかける

1 **ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]**

2 **「+」(「0」をロングタッチ)▶国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号を入力▶[📞]**

- 電話番号を入力▶[☰]▶[国際電話発信]▶国番号を選んでも国番号を入力できます。
  - 地域番号(市外局番)の最初の「0」は削除されます。
- 地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合は、先頭の「0」を除いてダイヤルしてください(イタリアなど一部の国・地域では、「0」が必要な場合があります)。

● 発信者番号を通知しても、通信事業者によっては[通知不可能]や[非通知設定]など正しく番号表示されないことがあります。

国際ダイヤルアシストを利用して電話をかける

滞在国から他の国へ電話をかける場合、国際ダイヤルアシストを利用すると、簡単な操作で国際電話をかけることができます。

- あらかじめ国際ダイヤルアシストを設定しておいてください。
- 電話番号の先頭の「0」が国番号で設定している国番号に自動的に変換されます。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]**

2 **電話番号を入力▶[📞]**

3 **[変換後の番号で発信]**

国際ダイヤルアシストの設定

1 **ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[通話]▶[海外設定]▶[国際ダイヤルアシスト]**

2 **項目を選ぶ**

■ 自動変換機能:国際ダイヤルアシストを利用して電話をかけるか設定します。

■ 国番号:国際ダイヤルアシストを利用するときに使用する国番号を設定します。

■ 国際プレフィックス:国際ダイヤルアシストを利用するときに使用する国際プレフィックスを設定します。

滞在国内に電話をかける

滞在国で国内電話をかけるときは、日本国内にいるときと同様の操作で電話をかけることができます。

- 同一市内でも、必ず地域番号(市外局番)から入力してください。

海外にいるWORLD WING利用者に電話をかける

海外でWORLD WING利用中の相手に電話をかけるときは、滞在国内外にかかわらず、日本への国際電話として電話をかけます。

1 **ホーム画面で[⠿]▶[電話]▶[ダイヤル]**

2 **「+」(「0」をロングタッチ)▶日本の国番号「81」、先頭の「0」を除いた相手先携帯電話番号を入力▶[📞]**

電話を受ける

海外でも、日本国内にいるときと同様の操作で電話を受けることができます。

- 国際ローミング中に電話がかかってきたときは、日本からの国際転送となります。発信者には日本までの通話料がかかり、着信側には着信料がかかります。

相手からの電話のかけかた

日本から滞在先に電話をかけてもらうときは、日本国内にいるときと同様にお客様の電話番号を入力してもらいます。
日本以外の国から滞在先に電話をかけてもらうときは、滞在先にかかわらず日本への国際電話として、国際電話アクセス番号と日本の国番号「81」を先頭に付け、お客様の電話番号から先頭の「0」を除いた電話番号を入力してもらいます。
発信国の国際電話アクセス番号-81-90(または80)-XXXX-XXXX

国際ローミングの設定

海外設定

国際ローミング時の設定を行います。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[通話]▶[海外設定]

2 項目を選ぶ

- ローミング時着信規制:国際ローミング中は着信を受けないようにするか設定します。
- ローミング着信通知:国際ローミング中に、電波の届かないところにいるとき、電源を切っているとき、かかってきた電話に応答できなかったときに、その着信の情報(着信日時や発信者番号)をSMSで知らせるか設定します。
- ローミングガイダンス:国際ローミング中に電話をかけてきた相手に、国際ローミング中であることをお知らせするガイダンスを流すか設定します。
- 国際ダイヤルアシスト:国際ダイヤルアシストについては☞P.169
- ネットワークサービス:ネットワークサービスについては☞P.170

ローミング中のネットワークサービス

海外から、留守番電話サービスや転送でんわサービスなどのネットワークサービスを利用できます。

1 ホーム画面で[⠿]▶[設定]▶[通話]▶[海外設定]▶[ネットワークサービス]

2 項目を選ぶ

- 遠隔操作(有料):遠隔操作について設定します。
- 番号通知お願いサービス(有料):番号通知お願いサービスについて設定します。
- ローミング着信通知(有料):ローミング着信通知について設定します。
- ローミングガイダンス(有料):ローミングガイダンスについて設定します。
- 留守番電話サービス(有料):留守番電話サービスについて設定します。
- 転送でんわサービス(有料):転送でんわサービスについて設定します。

付録／索引

オプション品・関連機器のご紹介

端末にさまざまな別売りのオプション機器を組み合わせることで、パーソナルからビジネスまでさらに幅広い用途に対応できます。
なお、地域によってはお取り扱いしていない商品もあります。詳しくは、ドコモショップなど窓口へお問い合わせください。
また、オプションの詳細については、各機器の取扱説明書などをご覧ください。

- 卓上ホルダ SH41
- microUSB接続ケーブル 01
- アンテナ付イヤホン変換ケーブル SH01
- ワイヤレスイヤホンセット 03
- キャリングケース 02
- 骨伝導レシーバマイク 02
- FOMA 補助充電アダプタ 02※1
- ポケットチャージャー 01／02
- ACアダプタ 03※2
- DCアダプタ 03
- 海外用AC変換プラグCタイプ 01
- ドライブネットクレイドル 01

※1 microUSB接続ケーブル 01を接続してご利用ください。
※2 ACアダプタ（別売）での充電方法については、P.35をご覧ください。

トラブルシューティング（FAQ）

故障かな？と思ったら

- まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください（☞P.180）。
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、裏表紙の「故障お問い合わせ先」、またはドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

電源

本端末の電源が入らない	
● 電池切れになっていませんか。	P.32
画面が動かない、電源が切れない	
● ⏻を13秒以上押すと、強制的に電源を切ることができます。 ・強制的に電源を切るため、データや設定した内容などが消えてしまう場合がありますのでご注意ください。	P.37

充電

充電ができない 充電ランプが点灯しない、または点滅する	
● アダプタの電源プラグやシガーライタープラグがコンセントまたはシガーライターソケットに正しく差し込まれていますか。	P.35
● アダプタと本端末が正しくセットされていますか。	P.35

● ACアダプタ 03(別売)をご使用の場合、ACアダプタ 03と本端末または付属の卓上ホルダがしっかりと接続されていますか。	P.34 P.35
● 卓上ホルダを使用する場合、本端末の充電端子は汚れていませんか。汚れたときは、端子部分を乾いた綿棒などで清掃してください。	P.34
● 充電しながら通話や通信、その他機能の操作を長時間行うと、本端末の温度が上昇して充電が停止することがあります。その場合は、本端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。	P.33

端末操作

アプリケーションが正しく動作しない(起動できない、エラーが頻繁に起こるなど)	
● 無効化されているアプリケーションはありませんか。無効化されているアプリケーションを有効にしてから再度お試しください。	P.97

操作中・充電中に熱くなる	
● 操作中や充電中、また、充電しながらワンセグ視聴などを長時間行った場合などには、本端末や内蔵電池、アダプタが温かくなることがありますが、動作上問題ありませんので、そのままご使用ください。	P.33

電池の使用時間が短い	
● 圏外の状態で長時間放置されるようなことはありませんか。 圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。	−
● 内蔵電池の使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。	P.33
● 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。 十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、裏表紙の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。	P.33

タッチしたり、キーを押したりしても動作しない	
● 端末の電源が切れていませんか。	P.37

タッチしたり、キーを押したりしたときの画面の反応が遅い	
● 本端末に大量のデータが保存されているときや、本端末とmicroSDカードの間で容量の大きいデータをやりとりしているときなどに起きる場合があります。	P.95

ドコモminiUIMカードが認識しない	
● ドコモminiUIMカードを正しい向きで挿入していますか。	P.29

時計がずれる	
● 長い間電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。 自動で時刻を補正するように設定されているかを確認し、電波の良い場所で電源を入れ直してください。	P.106

端末動作が不安定	
● ご購入後に端末へインストールしたアプリケーションによる可能性があります。セーフモードで起動して症状が改善される場合には、インストールしたアプリケーションをアンインストールすることで症状が改善される場合があります。 ・セーフモードとはご購入時の状態に近い状態で起動させる機能です。 ● セーフモードの起動方法 電源がOFFの状態から電源を入れ直し、起動中の画面でホーム画面が表示されるまでを押し続けてください。 ・セーフモードが起動すると画面左下に[セーフモード]／[Safe mode]と表示されます。 ・セーフモードを終了するには、電源を一度OFFにし起動し直してください。 ● 必要なデータを事前にバックアップした上でセーフモードをご利用ください。 ● お客様ご自身で作成されたウィジェットが消える場合があります。 ● セーフモードは通常の起動状態ではないため、通常ご利用になる場合には、セーフモードを終了しご利用ください。	－
● 開発者向けオプションは開発専用に設計されているため、設定すると端末や端末上のアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。	P.107

通話

タッチしたり、キーを押したりしても発信できない	
● アプリケーションロックの音声発信制限を設定していませんか。	P.101
● 機内モードを設定していませんか。	P.98

着信音が鳴らない	
● 着信音量を「0」にしていませんか。	P.91
● 公共モード、機内モード、マナーモードを起動していませんか。	P.74 P.91 P.98
● 着信拒否を設定していませんか。	P.74
● 留守番電話サービスまたは転送でんわサービスの呼出時間を「0秒」にしていませんか。	－

通話ができない（場所を移動しても[]の表示が消えない、電波の状態は悪くないのに発信または着信ができない）	
● 電源を入れ直すか、ドコモminiUIMカードを入れ直してください。	P.29 P.37
● 電波の性質により、「圏外ではない」「電波状態は[]を表示している」状態でも発信や着信ができない場合があります。場所を移動してかけ直してください。	－
● 着信拒否など着信制限を設定していませんか。	P.74
● 電波の混み具合により、多くの人が集まる場所では電話やメールが混み合い、つながりにくい場合があります。その場合は話中音が流れます。場所を移動するか、時間をずらしてかけ直してください。	－

画面

ディスプレイが暗い	
● バックライト点灯時間を短く設定していませんか。	P.92
● 画面の明るさを変更していませんか。	P.93
● 画面の明るさの[明るさを自動調整]を有効にしていませんか。有効にしている場合は、周囲の明るさによって変わります。	P.93
● ベールビューを設定していませんか。	P.92

音声

通話中、相手の声が聞こえにくい、相手の声が大きすぎる	
● 通話音量を変更していませんか。	P.71

メール

メールを自動で受信しない	
● メールのアカウント設定で受信トレイの確認頻度を[自動確認しない]に設定していませんか。	－

カメラ

カメラで撮影した静止画や動画がぼやける	
● 近くの被写体を撮影するときは、フォーカス設定を[接写AF]に切り替えてください。	P.142
● カメラのレンズにくもりや汚れが付着していないかを確認してください。	P.140

ワンセグ

ワンセグの視聴ができない	
● 地上デジタルテレビ放送サービスのエリア外か放送電波の弱い場所にいませんか。	P.132
● チャンネル設定をしていますか。	P.136

おサイフケータイ

おサイフケータイが使えない	
● おまかせロックを起動すると、NFC／おサイフケータイ ロックの設定にかかわらずおサイフケータイの機能が利用できなくなります。	－
● NFC／おサイフケータイ ロックを設定していませんか。	P.130
● 本端末のマークがある位置を読み取り機にかざしていますか。	P.129

海外利用

海外で本端末が使えない（電波マークが表示されている場合）	
●「国際ローミングサービス（WORLD WING）」のお申し込みをされていますか。「国際ローミングサービス（WORLD WING）」のお申し込み状況をご確認ください。	P.165

海外で本端末が使えない（[圏外アイコン]が表示されている場合）	
● 国際ローミングサービスのサービスエリア外か、電波の弱いところにいませんか。利用可能なサービスエリアまたは海外通信事業者かどうか、『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』またはドコモの「国際サービスホームページ」で確認してください。	P.165
● ネットワークの設定や海外通信事業者の設定を変更してみてください。 ネットワークモードを［LTE／3G／GSM（自動）］に設定してください。 通信事業者を［自動選択］に設定してください。	P.167 P.168
● 本端末の電源をOFFにしたあと、再びONにすることで回復することがあります。	P.37

海外でデータ通信ができない	
● ［データローミング］を有効にしてください。	P.167

海外で利用中に、突然本端末が使えなくなった	
● 利用停止目安額を超えていませんか。「国際ローミングサービス（WORLD WING）」のご利用には、あらかじめ利用停止目安額が設定されています。利用停止目安額を超えてしまった場合、ご利用累積額を精算してください。	―

相手の電話番号が通知されない／相手の電話番号とは違う番号が通知される／電話帳の登録内容や発信者番号通知を利用する機能が動作しない	
● 相手が発信者番号を通知して電話をかけてきても、利用しているネットワークや通信事業者から発信者番号が通知されない場合は、本端末に発信者番号は表示されません。また、利用しているネットワークや通信事業者によっては、相手の電話番号とは違う番号が通知される場合があります。	―

データ管理

データ転送が行われない	
● USB HUBを使用していませんか。USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。	P.117

microSDカードに保存したデータが表示されない	
● microSDカードを取り付け直してください。	P.30

Bluetooth機能

Bluetooth通信対応機器と接続ができない／検索しても見つからない	
● Bluetooth通信対応機器（市販品）側を機器登録待ち受け状態にしてから、本端末側から機器登録を行う必要があります。登録済みの機器を削除して再度機器登録を行う場合には、Bluetooth通信対応機器（市販品）、本端末双方で登録した機器を削除してから機器登録を行ってください。	P.115

カーナビやハンズフリー機器などの外部機器を接続した状態で本端末から発信できない	
● 相手が電話に出ない、圏外などの状態で複数回発信すると、その番号へ発信できなくなる場合があります。その場合は、本端末の電源を一度切ってから、再度電源を入れ直してください。	P.37

地図・GPS機能

オートGPSサービス情報が設定できない	
● 電池残量が少なくなり、オートGPS機能が停止していませんか。低電力時動作設定により、オートGPS機能が停止している場合は、オートGPSサービス情報は設定できません。この場合、低電力時動作設定を[停止しない]に設定するか、充電することで設定できるようになります。 ● [オートGPS動作設定]が無効になっていませんか。	P.32 P.98

エラーメッセージ

端末に表示される主なエラーメッセージを「英数字」、「50音」の順に記載しております。

[SIMカードを挿入／再確認してください。]

● ドコモminiUIMカードが正しく差し込まれているかご確認ください。☞P.29

[xx通を受信しましたが全てのメールを受信できませんでした]

● 何らかの原因ですべてのメールを受信できなかった場合に表示されます。

[暗証番号を入力してください]

● 端末のロック中に、制限されている機能の操作をしようとした場合に表示されます。暗証番号を入力すると、端末のロックが一時解除され、操作できます。
● 暗証番号の入力が必要な機能を利用しようとした場合に表示されます。

[応答が無いため接続が中断されました]
[サーバーエラー　送信できませんでした]
[接続エラー　送信できませんでした]
[送信先サーバーが対応しておりません]
[通信エラー　しばらくたってから送り直してください]

● メールやSMSを利用するとき、回線設備が故障、または回線が非常に混み合っている場合に表示されます。しばらくたってから送信し直してください。

[このコンテンツを再生する権限がありません]

● 有効なライセンスを保持していない場合や再生期間、再生期限が終了した著作権保護コンテンツを再生しようとした場合に表示されます。

[しばらくお待ちください]

● 音声回線ネットワークが非常に混み合っていますので、しばらくたってからかけ直してください。

[しばらくお待ちください(パケット)]

● パケット通信ネットワークが非常に混み合っていますので、しばらくたってから、再度操作してください。

[製造番号を通知しますか？]

● ワンセグ視聴中に表示されることがあります。[はい]を選択すると、端末とドコモminiUIMカードの製造番号が送信されます。

[接続できません]

- 何らかの原因でデータ放送に接続できませんでした。もう一度接続をお試しください。

[送信できませんでした]

- SMSが正しく送信できなかった場合に表示されます。
- メールを正常に送信できなかった場合に表示されます。電波の強いところでもう一度メールを送信し直してください。

[モバイルネットワークが利用できません。]

- 有効なネットワークモードに設定されているかご確認ください。☞P.167

[ライセンスの取得に失敗しました。再生できません。]

- 再生期限が切れた著作権保護コンテンツのライセンス更新に失敗したときに表示されます。

スマートフォンあんしん遠隔サポート

お客様の端末上の画面をドコモと共有することで、端末操作・設定に関する操作サポートを受けることができます。

- 次の場合は、スマートフォンあんしん遠隔サポートを利用できません。
  - ■ ドコモminiUIMカードが挿入されていない場合
  - ■ 国際ローミング中
  - ■ 機内モード中
- スマートフォンあんしん遠隔サポートはお申し込みが必要な有料サービスです。
- 一部サポート対象外の操作・設定があります。
- スマートフォンあんしん遠隔サポートの詳細については、ドコモのホームページをご確認ください。

スマートフォン遠隔サポートセンター
0120-783-360
受付時間：午前9:00～午後8:00（年中無休）

1 ホーム画面で[⊞]▶[電話]▶[ダイヤル]

2 スマートフォン遠隔サポートセンターの電話番号を入力▶[📞]

3 ホーム画面で[⊞]▶[遠隔サポート]

- はじめてご利用される際には、「ソフトウェア使用許諾書」に同意いただく必要があります。

4 ドコモからご案内する接続番号を入力

5 遠隔サポートを開始

保証とアフターサービス

保証について

- 本端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。
  必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。
  無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

- 本端末の故障・修理やその他お取り扱いによって電話帳などに登録された内容が変化・消失する場合があります。万が一に備え、電話帳などの内容はご自身で控えをお取りくださるようお願いします。

※本端末は、電話帳などのデータをmicroSDカードに保存していただくことができます。

※本端末はケータイデータお預かりサービス（お申し込みが必要なサービス）をご利用いただくことにより、電話帳などのデータをお預かりセンターにバックアップしていただくことができます。

アフターサービスについて

調子が悪い場合

修理を依頼される前に、本書の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください。
それでも調子が良くないときは、裏表紙の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。また、ご来店時には必ず保証書をご持参ください。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（液晶・コネクタなどの破損）による故障・損傷などは有料修理となります。
- ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

以下の場合は、修理できないことがあります。

- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合（外部接続端子（イヤホンマイク端子）・液晶などの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

保証期間が過ぎた場合は

ご要望により有料修理いたします。

部品の保有期間は

本端末の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後６年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
また、保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、裏表紙の「故障お問い合わせ先」へお問い合わせください。

お願い

- 本端末および付属品の改造はおやめください。
  - ■火災・けが・故障の原因となります。
  - ■改造が施された機器などの故障修理は、改造部分を元の状態に戻すことをご了承いただいた上でお受けいたします。ただし、改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。
    以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
    - ・液晶部やキー部にシールなどを貼る
    - ・接着剤などにより本端末に装飾を施す
    - ・外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
  - ■改造が原因による故障・損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
- 本端末に貼付されている銘版シールは、はがさないでください。
  - ■銘版シールには、技術基準を満たす証明書の役割があり、銘版シールが故意にはがされたり、貼り替えられた場合など、銘版シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。

技術基準適合認証品

- 各種機能の設定などの情報は、本端末の故障・修理やその他お取り扱いによってクリア（リセット）される場合があります。お手数をおかけしますが、この場合は再度設定を行ってくださるようお願いいたします。
- 修理を実施した場合には、故障箇所に関係なく、Wi-Fi用のMACアドレスおよびBluetoothアドレスが変更される場合があります。
- 本端末の下記の箇所に、磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど、磁気の影響を受けやすいものを近づけますとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
  - ■使用箇所：スピーカー、ディスプレイ上部
- 本端末は防水性能を有しておりますが、本端末内部が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、本端末の状態によって修理できないことがあります。

メモリダイヤル（電話帳機能）およびダウンロード情報などについて

- 本端末を機種変更や故障修理をする際に、お客様が作成されたデータまたは外部から取り込まれたデータあるいはダウンロードされたデータなどが変化・消失などする場合があります。これらについて当社は一切の責任を負いません。また、当社の都合によりお客様の端末を代替品と交換することにより修理に代えさせていただく場合がありますが、その際にはこれらのデータなどは一部を除き交換後の製品に移し替えることはできません。

ソフトウェア更新

SH-02Eのソフトウェア更新が必要かをネットワークに接続して確認し、必要に応じて更新ファイルをダウンロードして、ソフトウェアを更新する機能です。

- ソフトウェア更新が必要な場合には、ドコモのホームページにてご案内いたします。
- 更新方法は、次の3種類があります。
  自動更新：更新ファイルを自動でダウンロードし、設定した時刻に書き換えます。
  即時更新：今すぐ更新を行います。
  予約更新：予約した時刻に自動的に更新をします。

- ソフトウェア更新は、本端末に登録した電話帳、カメラ画像、メール、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行えますが、お客様の端末の状態（故障、破損、水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合があります。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承ください。

ご利用にあたって

- ソフトウェア更新を行う際は、電池をフル充電しておいてください。更新時は充電ケーブルを接続することをおすすめします。
- 次の場合はソフトウェアを更新できません。
  - ■通話中
  - ■[ ]が表示されているとき※
  - ■国際ローミング中※
  - ■機内モード中※
  - ■Wi-Fiテザリング中
  - ■USBテザリング中
  - ■OSバージョンアップ中
  - ■日付と時刻を正しく設定していないとき
  - ■ソフトウェア更新に必要な電池残量がないとき

  ※ 圏外、国際ローミング中は、Wi-Fi接続中であっても更新できません。
- ソフトウェア更新（ダウンロード、書き換え）には時間がかかる場合があります。
- ソフトウェア更新中は、電話の発信、着信、各種通信機能、およびその他の機能を利用できません。ただし、ダウンロード中は電話の着信は可能です。
- ソフトウェア更新は電波状態の良いところで、移動せずに実行することをおすすめします。電波状態が悪い場合には、ソフトウェア更新を中断することがあります。
- ソフトウェア更新が不要な場合は、[更新の必要はありません。このままお使いください]と表示されます。
- 国際ローミング中、もしくは、圏外にいるときには、[ドコモの電波が受信できない場所、またはローミング中はWi-Fi接続中であってもダウンロードを開始できません]と表示されます。Wi-Fi接続中も同様です。
- ソフトウェア更新中に送信されてきたSMSは、SMSセンターに保管されます。
- ソフトウェア更新の際、お客様のSH-02E固有の情報（機種や製造番号など）が、当社のソフトウェア更新用サーバーに送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。

- ソフトウェア更新に失敗した場合に、端末が起動しなくなることや、[ソフトウェア更新に失敗しました。]と表示され、一切の操作ができなくなることがあります。その場合には、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただけますようお願いいたします。
- PINコードが設定されているときは、書き換え処理後の再起動の途中で、PINコード入力画面が表示され、PINコードを入力する必要があります。
- ソフトウェア更新中は、他のアプリケーションを起動しないでください。

ソフトウェアの自動更新

更新ファイルを自動でダウンロードし、設定した時刻に書き換えます。

ソフトウェアの自動更新設定

- お買い上げ時は、自動更新の設定が[自動で更新を行う]に設定されています。

1 **ホーム画面で[⊞]▶[設定]▶[端末情報]▶[ソフトウェア更新]▶[ソフトウェア更新設定の変更]**

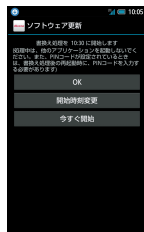
2 **[自動で更新を行う]/[自動で更新を行わない]**

ソフトウェア更新が必要になると

更新ファイルが自動でダウンロードされると、ステータスバーに[⊕](ソフトウェア更新有)が通知されます。

- [⊕](ソフトウェア更新有)が表示された状態で書き換え時刻になると、自動で書き換えが行われ、[⊕](ソフトウェア更新有)は消えます。

1 **ステータスバーを下にドラッグ▶通知を選ぶ**

- 書き換え予告画面が表示され、書き換え時刻が確認できます。

2 **書き換え方法を選ぶ**

- OK:設定時刻になると更新を開始します。
- 開始時刻変更:開始時刻変更については☞P.183
- 今すぐ開始:今すぐ開始については☞P.182

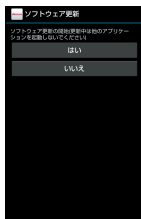
- 更新通知を受信した際に、ソフトウェア更新ができなかった場合には、ステータスバーに[⊕](ソフトウェア更新有)が表示されます。
- 書き換え時刻にソフトウェア書き換えが実施できなかった場合、翌日の同じ時刻に再度書き換えを行います。

● 自動更新設定が、[自動で更新を行わない]の場合や、ソフトウェアの即時更新が通信中の場合は、ソフトウェアの自動更新ができません。

ソフトウェアの即時更新

すぐにソフトウェア更新を開始します。

- ソフトウェア更新を起動するには書き換え予告画面から起動する方法とメニューから起動する方法があります。

1 ホーム画面で[ ] ▶ [設定] ▶ [端末情報] ▶ [ソフトウェア更新] ▶ [更新を開始する] ▶ [はい]

- 書き換え予告画面からの起動：書き換え予告画面を表示 ▶ [今すぐ開始]

2 [書き換え処理を開始します]の表示後、約10秒後に自動的に書き換え開始

- [OK]をタッチすると、すぐに書き換えを開始します。
- 更新中は、すべてのキー操作が無効となります。更新を中止することもできません。
- ソフトウェア更新が完了すると再起動がかかり、ホーム画面が表示されます。

● ソフトウェア更新の必要がないときには、[更新の必要はありません。このままお使いください]と表示されます。

ソフトウェア更新終了後の表示

ソフトウェア更新が完了すると、ステータスバーに通知されます。ステータスパネルを開いて通知をタッチすると完了画面が表示されます。

ソフトウェアの予約更新

更新ファイルのインストールを別の時刻に予約したい場合は、ソフトウェア書き換えを行う時刻をあらかじめ設定しておくことができます。

1 **書き換え予告画面を表示▶[開始時刻変更]**

2 **時刻を入力▶[OK]**

予約した時刻になると

開始時刻になると書き換え処理画面が表示され、約10秒後に自動的にソフトウェア書き換えが開始されます。

- 更新中は、すべてのキー操作が無効となります。更新を中止することもできません。
- 開始時刻にソフトウェア更新が開始できなかった場合には、翌日の同じ時刻にソフトウェア更新を行います。
- OSバージョンアップ中の場合、予約時刻になってもソフトウェア更新は行われません。
- 開始時刻と同じ時刻にアラームなどが設定されていた場合でも、ソフトウェア更新は実施されます。
- 開始時刻にSH-02Eの電源がOFFの場合、電源を入れたあと、予約時刻と同じ時刻になったときにソフトウェア更新を行います。
- ソフトウェア更新実行時にステータスパネルに[ソフトウェア更新を中断しました　端末の状態をご確認のうえ、再度更新を行ってください]と表示された場合は、下記の状態でないことをご確認の上、再度更新を行ってください。
  - ■ [ ]が表示されているとき
  - ■ Wi-Fiテザリング中
  - ■ USBテザリング中
  - ■ 他の機能が起動しているとき

OSバージョンアップ

端末のOSバージョンアップを行うことができます。

- あらかじめmicroSDカードを挿入しておいてください。
- Wi-Fi機能を利用してバージョンアップを行う場合は、あらかじめWi-Fiを[ON]にしておいてください(☞P.51)。
- [アップデートの確認]で新しいバージョンが見つかった場合に実行できます。

1 **ホーム画面で[ ]▶[設定]▶[端末情報]▶[メジャーアップデート]▶[アップデート実行]**

- 以降は画面の指示に従って操作してください。

主な仕様

本体

品名	SH-02E
サイズ	高さ約135mm×幅約68mm×厚さ約9.8mm(最厚部:約10.9mm)
質量	約152g
メモリ	ROM:32Gバイト RAM:2Gバイト
連続通話時間※1※2※3	FOMA/3G 約580分 GSM 約690分
連続待受時間※2※3※4	FOMA/3G 静止時:約380時間(ネットワークモード:LTE/3G/GSM(自動))※5 GSM 静止時:約340時間(ネットワークモード:LTE/3G/GSM(自動))※5 LTE 静止時:約350時間(ネットワークモード:LTE/3G/GSM(自動))※5
モバキャス視聴時間※3※6	約440分
ワンセグ視聴時間※3※7	約560分
充電時間	ACアダプタ 03:約230分 DCアダプタ 03:約260分
ディスプレイ	方式 IGZO(TFT) 16,777,216色 サイズ 約4.9inch 画素数 921,600画素(横720ドット×縦1280ドット)
撮像素子	種類 アウトカメラ:裏面照射型CMOS※8 インカメラ:裏面照射型CMOS※8 サイズ アウトカメラ:1/2.8inch インカメラ:1/8.2inch
カメラ部	有効画素数 アウトカメラ:約1630万画素 インカメラ:約120万画素 記録画素数(最大時) アウトカメラ:約1590万画素 インカメラ:約120万画素 ズーム(デジタル) アウトカメラ:最大約16.0倍(静止画)/最大約16.0倍(動画)

記録部	静止画記録枚数 約241200枚(本体保存時)※9 約12000枚(microSDカード(1Gバイト)保存時)※9 静止画連続撮影 VGA:50枚／HD:18枚／FULL HD:12枚 静止画ファイル形式 JPEG 動画録画時間 1件あたり最大約90分(本体／microSDカード(1Gバイト)保存時)※10 動画ファイル形式 MP4
音楽再生	連続再生時間※11 WMA(バックグラウンド再生対応):約4350分 MP3(バックグラウンド再生対応):約4300分
動画再生	連続再生時間※12 WMV:約850分
保存容量	システムメモリ:約5.6Gバイト※13 本体メモリ:約20.1Gバイト※13
無線LAN	IEEE802.11a/b/g/n(2.4GHz／5GHz)準拠

※1 連続通話時間とは、電波を正常に送受信できる状態で通話に使用できる時間の目安です。

※2 データ通信やマルチアクセス、カメラ機能、ワンセグ機能、Bluetooth機能などの各種機能のご利用頻度が高い場合、通話(通信)・待受時間は短くなります。実際のご利用時間は、通話(通信)と待受の組み合わせとなり通話時間が長くなると待受時間が短くなります。

※3 内蔵電池の充電状態、機能設定状況、気温などの使用環境、利用場所の電波状態(電波が届かない、または弱い)などにより、通話(通信)・待受時間が半分程度になったり、モバキャス視聴時間またはワンセグ視聴時間が短くなったりする場合があります。

※4 連続待受時間とは、電波を正常に受信できる状態で移動したときの目安です。

※5 電波を正常に受信できる静止状態での平均的な利用時間です。

※6 モバキャス視聴時間とは、電波を正常に受信できる状態で視聴できる時間の目安です。

※7 ワンセグ視聴時間とは、電波を正常に受信できる状態で視聴できる時間の目安です。

※8 CMOS(complementary metal-oxide semiconductor:相補型金属酸化膜半導体)とは、銀塩カメラのフィルムにあたる部分を構成する撮像素子です。

※9 撮影サイズ:VGA(640×480ドット)／画質:ノーマル／ファイルサイズ:65Kバイト

※10 撮影サイズ:VGA(640×480ドット)／ファイルサイズ制限:2Gバイト／画質:ノーマル／種別:画像+音声

※11 再生アプリケーション:Playミュージック／サウンド効果:ナチュラル

※12 再生アプリケーション:ビデオプレーヤー／サウンド効果:ナチュラル

※13 メモリを共有するアプリケーションの使用状況によって、各種データの保存容量は少なくなります。

内蔵電池

使用電池	リチウムイオンポリマー電池
公称電圧	DC 3.7 V
公称容量	2320 mAh

撮影／保存できる目安

撮影枚数／撮影時間は、1 Gバイトのmicro SDカードに保存したときの目安です。1 Gバイトのmicro SDカードに他の画像などが保存されているとき、撮影できる枚数や時間は少なくなります。また、撮影環境や被写体などの条件により、撮影できる枚数や時間が少なくなることがあります。

静止画の撮影枚数

	ノーマル	ファイン	ハイクオリティ
VGA：640×480	約12000枚	約10000枚	約8900枚
HD：1280×720	約6200枚	約3650枚	約2800枚
1.2M：1280×960	約3600枚	約2000枚	約1400枚
FULL HD：1920×1080	約3200枚	約1900枚	約1300枚
4 M：2304×1728	約1530枚	約1040枚	約730枚
QFHD：3840×2160	約640枚	約450枚	約330枚
16M：4608×3456	約420枚	約300枚	約150枚

動画の撮影時間

1 Gバイトのmicro SDカードの1回あたりの連続撮影時間

	ノーマル	ファイン	ハイクオリティ
QVGA：320×240	約90分	約90分	約90分
VGA：640×480	約90分	約86分	約64分
HD：1280×720	約41分	約32分	約21分
FULL HD：1920×1080	約13分	約11分	約8分

1 Gバイトのmicro SDカードの合計撮影時間

	ノーマル	ファイン	ハイクオリティ
QVGA：320×240	約866分	約602分	約324分
VGA：640×480	約135分	約86分	約64分
HD：1280×720	約41分	約32分	約21分
FULL HD：1920×1080	約13分	約11分	約8分

ボイスレコーダーの録音時間

	保存件数	録音時間
本体メモリ（約20.1Gバイト）※	最大588件	最長約3528時間

※ 1回あたりの録音時間は約6時間までです。

携帯電話機の比吸収率（SAR）について

この機種SH-02Eの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準（※1）ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体頭部に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）で定めており、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.350W/kgです。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。NTTドコモ推奨のキャリングケース等のアクセサリを用いて携帯電話機を身体に装着して使用することで、この携帯電話機は電波防護の国際ガイドラインを満足します（※2）。NTTドコモ推奨のキャリングケース等のアクセサリをご使用にならない場合には、身体から1.5cm以上の距離に携帯電話機を固定でき、金属部分の含まれていない製品をご使用ください。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。」と表明しています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ
http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm

一般社団法人電波産業会のホームページ
http://www.arib-emf.org/index02.html

ドコモのホームページ
http://www.nttdocomo.co.jp/product/sar/

シャープ株式会社のホームページ
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html

※1　技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。

※2　携帯電話機本体を側頭部以外でご使用になる場合のSARの測定法については、平成22年3月に国際規格（IEC62209-2）が制定されました。国の技術基準については、平成23年10月に、諮問第118号に関して情報通信審議会情報通信技術分科会より一部答申されています。

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 0.332 W/kg※.

As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

※The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

Declaration of Conformity

CE0168ⓘ

In some countries/regions including Europe, there are restrictions on the use of 5GHz WLAN that may limit the use to indoors only.
If you intend to use 5GHz WLAN on the device, check the local laws and regulations beforehand.

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that this SH-02E is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
A copy of the original declaration of conformity can be found at the following Internet address:
http://www.sharp.co.jp/k-tai/

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
  Operation is subject to the following two conditions:
  (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.
However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

5 GHz WLAN Operation in USA

Within the 5.15-5.25 GHz band, UNII devices are restricted to indoor operations to reduce any potential for harmful interference to co-channel Mobile Satellite Services (MSS) operations.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.
The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.310 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.593 W/kg.
For body worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines. Please use an accessory designated for this product or an accessory which contains no metal and which positions the handset a minimum of 1.5 cm from the body.

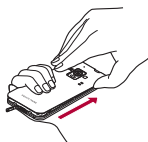
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.
The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID APYHRO00180.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at http://www.fcc.gov/.

FCC ID Location

The FCC ID for this device can be found under the back cover. Please remove the back cover when you want to see the FCC ID.

Removing back cover

1. Open the external connector terminal cover, securely hold the handset with your both hands and slightly open the back cover by hooking the tip of a finger under the ★ portion

2. Unhook the tabs by sliding the tip of the finger up to the top of the handset

3. Remove the back cover upward

Specific Absorption Rate (SAR) of Mobile Phones

This model SH-02E mobile phone complies with Japanese technical regulations and international guidelines regarding exposure to radio waves.
This mobile phone was designed in observance of Japanese technical regulations regarding exposure to radio waves (*1) and limits to exposure to radio waves recommended by a set of equivalent international guidelines. This set of international guidelines was set out by the International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP), which is in collaboration with the World Health Organization (WHO), and the permissible limits include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health condition.
The technical regulations and international guidelines set out limits for radio waves as the Specific Absorption Rate, or SAR, which is the value of absorbed energy in any 10 grams of tissue over a 6-minute period. The SAR limit for mobile phones is 2.0 W/kg. The highest SAR value for this mobile phone when tested for use at the ear is 0.350 W/kg. There may be slight differences between the SAR levels for each product, but they all satisfy the limit.
The actual SAR of this mobile phone while operating can be well below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum required to reach the network. Therefore in general, the closer you are to a base station, the lower the power output of the device.
This mobile phone can be used in positions other than against your ear. This mobile phone satisfies the international guidelines when used with a carrying case or a wearable accessory approved by NTT DOCOMO, INC. (*2). In case you are not using the approved accessory, please use a product that does not contain any metals, and one that positions the mobile phone at least 1.5 cm away from your body.
The World Health Organization has stated that “a large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use.”
Please refer to the WHO website if you would like more detailed information.
http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_english.htm
Please refer to the websites listed below if you would like more detailed information regarding SAR.

Ministry of Internal Affairs and Communications Website:
http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/index.htm
Association of Radio Industries and Businesses Website:
http://www.arib-emf.org/index02.html (in Japanese only)
NTT DOCOMO, INC. Website:
http://www.nttdocomo.co.jp/english/product/sar/
SHARP Corporation Website:
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html (in Japanese only)

*1 Technical regulations are defined by the Ministerial Ordinance Related to Radio Law (Article 14-2 of Radio Equipment Regulations).

*2 Regarding the method of measuring SAR when using mobile phones in positions other than against the ear, international standards (IEC62209-2) were set in March of 2010. On the other hand, technical regulation is currently being deliberated on by national council (As of October, 2011).

CAUTION

Use only adapters specified by NTT DOCOMO for use with the handset.
May cause fires, burns, bodily injury or electric shock.

Do not throw the handset into a fire.
The internal battery may catch fire, explode, overheat or leak.

Avoid using the handset in extremely high or low temperatures.
Use the handset within the range of a temperature between 5°C and 40°C (for temperatures of 36°C or higher, limit usage to a short period of time) and a humidity between 45% and 85%.

Charge battery in areas where ambient temperature is between 5°C and 35°C.

Do not point the illuminated light directly at someone's eyes. Especially when you shoot still pictures or videos of young children, keep 1 m or more distance from them.
Do not use Mobile light near people's faces. Eyesight may be temporarily affected leading to accidents.

Bluetooth function

- The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, INC. and any use of such marks by NTT DOCOMO, INC. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

Inquiries

General inquiries <docomo Information Center>

(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m.)

0120-005-250 (toll free)

※ Service available in: English, Portuguese, Chinese, Spanish, Korean.

※ Unavailable from part of IP phones.

(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m. (open all year round))

From DOCOMO mobile phones

(In Japanese only)

(No prefix) 151 (toll free)

※ Unavailable from land-line phones, etc.

From land-line phones

(In Japanese only)

0120-800-000 (toll free)

※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.

Repairs

(Business hours: 24 hours (open all year round))

From DOCOMO mobile phones

(In Japanese only)

(No prefix) 113 (toll free)

※ Unavailable from land-line phones, etc.

From land-line phones

(In Japanese only)

0120-800-000 (toll free)

※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.
- For Applications or Repairs and After-Sales Service, please contact the above-mentioned information center or the docomo Shop etc. near you on the NTT DOCOMO website.
  NTT DOCOMO website:
  http://www.nttdocomo.co.jp/english/

Various inquiries about loss, theft or failures of handset encountered overseas

(available 24 hours a day)

From DOCOMO mobile phones

International call access code for the country you stay	-81-3-6832-6600* (toll free)

* You are charged a call fee to Japan when calling from a land-line phone, etc.

※ If you use SH-02E, you should dial the number +81-3-6832-6600 (to enter "+", touch "0" for a while).

From land-line phones

<Universal number>

Universal number international prefix	-8000120-0151*

* You might be charged a domestic call fee according to the call rate for the country you stay.

※ For international call access codes for major countries and universal number international prefix, refer to DOCOMO International Services website.

- If you lose your handset or have it stolen, immediately take the steps necessary for suspending the use of the handset.
- If the handset you purchased is damaged, bring your handset to a repair counter specified by DOCOMO after returning to Japan.

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権について

著作権・肖像権について

- お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードやテレビ、ビデオなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。
  実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますので、ご注意ください。
  また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがありますのでお控えください。

商標について

- 「FOMA」、「dメニュー」、「dマーケット」、「おサイフケータイ」、「トルカ」、「mopera」、「mopera U」、「デコメール®」、「デコメ絵文字®」、「ｉアプリ」、「ｉモード」、「ｉチャネル」、「iD」、「WORLD WING」、「公共モード」、「WORLD CALL」、「おまかせロック」、「ケータイデータお預かりサービス」、「ｉＣお引っこしサービス」、「かざしてリンク」、「エリアメール」、「マチキャラ」、「ｉコンシェル」、「spモード」、「Xi」、「Xi／クロッシィ」、「声の宅配便」、「eトリセツ」、「iD」ロゴ、「spモード」ロゴ、「Xi」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- キャッチホンは日本電信電話株式会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Media®、Windows Vista®、Exchange®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
  文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- microSDロゴ、microSDHCロゴ、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。

- ドキュメントビューアはDataViz社のDocuments To Goを搭載しております。

  © 2010 DataViz, Inc. and its licensors. All rights reserved. DataViz, Documents To Go and InTact Technology are trademarks or registered trademarks of DataViz, Inc.
- この製品では、シャープ株式会社が液晶画面で見やすく、読みやすくなるよう設計したLCフォントが搭載されています。LCフォント／LCFONTおよび®は、シャープ株式会社の登録商標です。
- ロヴィ、Rovi、Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米国Rovi Corporationおよび／またはその関連会社の日本国内における商標または登録商標です。
- OBEX™は、Infrared Data Association®の商標です。
- はフェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

  Dolby、ドルビー及びダブルＤ記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- PhotoScouter®、TrackSolid®は株式会社モルフォの登録商標です。
- AOSS™ 及び、AOSS™は株式会社バッファローの商標です。
- Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の登録商標です。
- Wi-Fi Direct™、Wi-Fi Protected Setup™およびWi-Fi Protected SetupロゴはWi-Fi Alliance®の商標です。

  The Wi-Fi Protected Setup Mark is a mark of the Wi-Fi Alliance.
- 「mixi」は株式会社ミクシィの登録商標です。
- 「Twitter」はTwitter, Inc.の登録商標です。
- DLNA®、DLNAロゴおよびDLNA CERTIFIED™は、Digital Living Network Alliance の商標です。

  DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.

  本機のDLNAの認定はシャープ株式会社が取得しました。
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)

  この製品には OpenSSL Toolkit における使用のために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています。
- This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)

  この製品には Eric Young によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。
- Portions Copyright © 2004 Intel Corporation

  この製品にはIntel Corporationのソフトウェアを一部利用しております。
- 文字変換は、オムロンソフトウェア株式会社のiWnnを使用しています。

  iWnn © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2008-2012 All Rights Reserved.

  iWnn IME © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2009-2012 All Rights Reserved.

- MHLロゴ、MHLおよびMobile High-Definition LinkはMHL, LLCの商標または登録商標です。

MHL
Mobile High-Definition Link

- 本製品には株式会社モリサワの書体、新ゴ Mを搭載しています。
  *新ゴは株式会社モリサワの登録商標です。
- MyScript® Stylus Mobileは、ビジョン・オブジェクツS.A.（ビジョンオブジェクツ）の商標です。
- aptXはCSR plc.の登録商標です。
- 「モバキャス」は、株式会社ジャパン・モバイルキャスティングの商標です。
- 「NOTTV」および「NOTTV」ロゴは、株式会社mmbiの商標または登録商標です。
- Toshiba Embedded Bluetooth Stack version 5.00を搭載しております。
- 内蔵音声認識エンジンは、株式会社アドバンスト・メディアのAmiVoiceを使用しています。AmiVoiceは株式会社アドバンスト・メディアの登録商標です。
- 「AQUOS」、「AQUOS PHONE」、「ZETA」、「Feel UX」、「ベールビュー」、「VeilView」、「ファミリンク」、「FAMILINK」、「MediaJet」、「エコ技」、「アウトドアビュー」、「Dock to play」、「AQUOS PHONE」ロゴ、「エコ技」マークはシャープ株式会社の商標または登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

その他

- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ＩＣカードの技術方式です。FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本製品はMPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づき、下記に該当するお客様による個人的で且つ非営利目的に基づく使用がライセンス許諾されております。これ以外の使用については、ライセンス許諾されておりません。
  - MPEG-4ビデオ規格準拠のビデオ（以下「MPEG-4ビデオ」と記載します）を符号化すること。
  - 個人的で且つ営利活動に従事していないお客様が符号化したMPEG-4ビデオを復号すること。
  - ライセンス許諾を受けているプロバイダから取得したMPEG-4ビデオを復号すること。

  その他の用途で使用する場合など詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本製品はMPEG-4 Systems Patent Portfolio Licenseに基づき、MPEG-4システム規格準拠の符号化についてライセンス許諾されています。ただし、下記に該当する場合は追加のライセンスの取得およびロイヤリティの支払いが必要となります。
  - ■ タイトルベースで課金する物理媒体に符号化データを記録または複製すること。
  - ■ 永久記録および／または使用のために、符号化データにタイトルベースで課金してエンドユーザに配信すること。

  追加のライセンスについては、米国法人MPEG LA, LLCより許諾を受けることができます。詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。
- 本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために(i)AVC規格準拠のビデオ(以下「AVCビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および／または(ii)AVCビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
  http://www.mpegla.comをご参照ください。
- 本製品は、VC-1 Patent Portfolio Licenseに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために(i)VC-1規格準拠のビデオ(以下「VC-1ビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および／または(ii)VC-1ビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたVC-1ビデオ、および／またはVC-1ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したVC-1ビデオに限ります)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
  http://www.mpegla.comをご参照ください。
- コンテンツ所有者は、Microsoft PlayReady™コンテンツアクセス技術によって著作権を含む知的財産を保護しています。本製品は、PlayReady技術を使用してPlayReady保護コンテンツおよびWMDRM保護コンテンツにアクセスします。本製品がコンテンツの使用を適切に規制できない場合、PlayReady保護コンテンツを使用するために必要な本製品の機能を無効にするよう、コンテンツ所有者はMicrosoftに要求することができます。無効にすることで保護コンテンツ以外のコンテンツや他のコンテンツアクセス技術によって保護されているコンテンツが影響を受けることはありません。コンテンツ所有者はコンテンツへのアクセスに際し、PlayReadyのアップグレードを要求することがあります。アップグレードを拒否した場合、アップグレードを必要とするコンテンツへのアクセスはできません。

- 本書では各OS(日本語版)を次のように略して表記しています。
  - ■ Windows 8は、Microsoft® Windows® 8、Microsoft® Windows® 8 Pro、Microsoft® Windows® 8 Enterpriseの略です。
  - ■ Windows 7は、Microsoft® Windows® 7 (Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate)の略です。
  - ■ Windows Vistaは、Windows Vista®(Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate)の略です。
  - ■ Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
- Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INCの登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- Google、Google ロゴ、Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴ、Google+、Google+ ロゴ、Gmail、Gmail ロゴ、カレンダー ロゴ、Google マップ™、Google マップ ロゴ、Google トーク、Google トーク ロゴ、Google Chrome™、Google Chrome ロゴ、Google 音声検索™ ロゴ、Picasa™、Picasa ロゴ、YouTube およびYouTube ロゴは、Google Inc. の商標または登録商標です。

オープンソースソフトウェアについて

- 本製品には、GNU General Public License(GPL)、GNU Lesser General Public License(LGPL)、その他のライセンスに基づくソフトウェアが含まれています。
  当該ソフトウェアのライセンスに関する詳細は、ホーム画面から[⊞]▶[設定]▶[端末情報]▶[法的情報]▶[オープンソースライセンス]をご参照ください。
- GPL、LGPL、Mozilla Public License(MPL)に基づくソフトウェアのソースコードは、下記サイトで無償で開示しています。詳細は下記サイトをご参照ください。
  https://sh-dev.sharp.co.jp/android/modules/oss/

SIMロック解除

- 本端末はSIMロック解除に対応しています。SIMロックを解除すると他社のSIMカードを使用することができます。
- SIMロック解除は、ドコモショップで受付をしております。
- 別途SIMロック解除手数料がかかります。
- 他社のSIMカードをご使用になる場合、LTE方式ではご利用になれません。また、ご利用になれるサービス、機能などが制限されます。当社では、一切の動作保証はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- SIMロック解除に関する詳細については、ドコモのホームページをご確認ください。

索引

本索引は、機能名や記載内容を要約した用語を「50音」、「英数字」の順に収録しています。

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

英数字

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申込、各種資料請求をオンライン上で承っております。

spモードから　dメニュー ▶ お客様サポート ▶ 各種お申込・お手続き（パケット通信料無料）
パソコンから　My docomo（http://www.mydocomo.com/）▶ 各種お申込・お手続き

※ spモードからご利用になる場合、「ネットワーク暗証番号」が必要となります。
※ spモードからご利用になる際は、一部有料となる場合があります。
※ パソコンからご利用になる場合、「docomo ID／パスワード」が必要となります。
※ 「ネットワーク暗証番号」および「docomo ID／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は裏表紙の「総合お問い合わせ先」にご相談ください。
※ ご契約内容によってはご利用になれない場合があります。
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーもいっしょに携帯しましょう

本端末を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ 使用禁止の場所にいる場合
航空機内や病院では、各航空会社または各医療機関の指示に従ってください。使用を禁止されている場所では、電源を切ってください。

こんな場合は公共モードに設定しましょう

■ 運転中の場合
運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。
ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合を除きます。
■ 劇場・映画館・美術館など公共の場所にいる場合
静かにするべき公共の場所で本端末を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

使用する場所や声・着信音の大きさに注意しましょう

■ レストランやホテルのロビーなどの静かな場所で本端末を使用する場合は、声の大きさなどに気をつけましょう。
■ 街の中では、通行の妨げにならない場所で使用しましょう。

プライバシーに配慮しましょう

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

こんな機能が公共のマナーを守ります

かかってきた電話に応答しない設定や、本端末から鳴る音を消す設定など、便利な機能があります。
● マナーモード（☞P.91）
本端末から鳴る音を消します。
※ ただし、カメラのシャッター音は消せません。
● 公共モード（電源OFF）（☞P.74）
電話をかけてきた相手に、電源を切る必要がある場所にいる旨のガイダンスを流し、自動的に電話を終了します。
● バイブ（☞P.91）
電話がかかってきたことを、振動で知らせます。
● 伝言メモ（☞P.72）
電話に出られない場合に、電話をかけてきた相手の方の用件を録音します。
※ その他にも、留守番電話サービス（☞P.74）、転送でんわサービス（☞P.74）などのオプションサービスが利用できます。

ご不要になった携帯電話などは、自社・他社製品を問わず回収をしていますので、お近くのドコモショップへお持ちください。
※ 回収対象：携帯電話、PHS、電池パック、充電器、卓上ホルダ（自社・他社製品を問わず回収）

総合お問い合わせ先
＜ドコモ インフォメーションセンター＞

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**151**（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　午前9:00～午後8:00　（年中無休）

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**113**（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　24時間　（年中無休）

●番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。
ドコモホームページ　http://www.nttdocomo.co.jp/

海外での紛失、盗難、故障および各種お問い合わせ先（24時間受付）

■ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 **-81-3-6832-6600**＊（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。
※SH-02Eからご利用の場合は、＋81-3-6832-6600でつながります。（「＋」は「0」をロングタッチします。）

■一般電話などからの場合＜ユニバーサルナンバー＞

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 **-8000120-0151**＊

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。
※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
●お客様が購入された端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。
◎公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　シャープ株式会社

'12.11（1.2版）
12L MS212①